

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## Tantric Buddhist Art from Cuttack District, Orissa

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 雅秀 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00004123">https://doi.org/10.15021/00004123</a>

## オリッサ州カタック地区の密教美術

森 雅 秀\*

### Tantric Buddhist Art from Cuttack District, Orissa

Masahide Mori

オリッサ州はパーラ朝の版図であったベンガル州、ビハール州とならんで、インドにおける密教の中心地のひとつとして知られる。本論文はオリッサ州のカタック地区の代表的な遺跡であるラトナギリ、ウダヤギリ、ラリタギリの三僧院跡における二度の現地調査をふまえ、各遺跡の現状を伝えるとともに、遺跡ごとの出土品の傾向を明らかにする。さらに、尊像の種類にしたがって図像学的な特徴を解明し、他地域の密教美術との比較を通して、インドの密教美術の総体的な考察をすすめた。後半には「オリッサ州出土仏教図像作例リスト」として、現存する571点の作品について、図像学的な特徴を中心に網羅的なリストを作成した。さらに未公開資料を含む160点の写真図版を添付することで、図像資料集としても活用されることを目指している。

Tantric Buddhism flourished in Orissa from the eighth to the tenth centuries. Numerous sculptures representing Buddhist deities have been excavated from this area, especially from Cuttack District, located on the east side of Orissa. Three archaeological sites in Cuttack, i.e. Ratnagiri, Lalitagiri and Udayagiri, deserve special mention. In the first part of this paper, I report the latest information on these sites based upon a field survey in Cuttack in March, 1995 and January, 1996. I also clarify the iconographic characteristics of the sculptured deities excavated from Cuttack with reference to contemporary Buddhist art in Bengal and Bihar. In the second part, I present a list of the iconographical data of 571 sculptured works from Orissa with 160 plates.

---

\* 高野山大学、国立民族学博物館共同研究員

**Key Words :** Tantric Buddhism art, Cuttack District, Orissa, Pāla dynasty  
キーワード：密教美術、カタック、オリッサ、パーラ朝

1. はじめに	一般的な特徴
2. 遺跡の現状	如来
ラトナギリ	菩薩
ラリタギリ	女尊
ウダヤギリ	忿怒尊・財宝神
3. 主要な図像上の特徴	4. おわりに

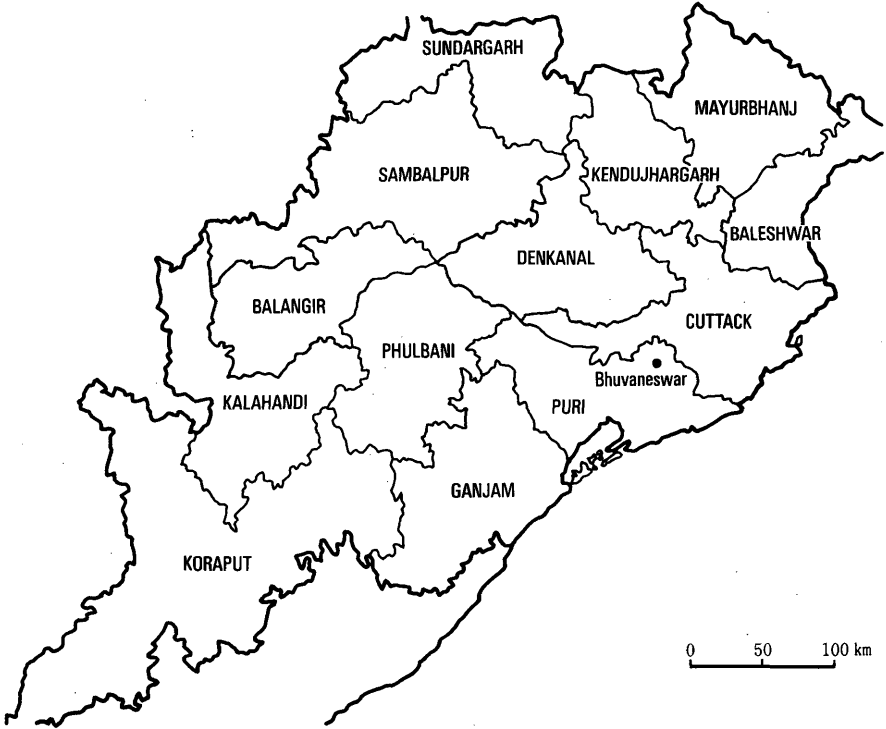
## 1. はじめに

インドの東北部、ベンガル湾に面したオリッサ州は、その北に位置するベンガル・ビハール州とともに、インドにおいて密教（仏教タントリズム）が最も栄えた地域である。現在、オリッサ州は13の行政区に分かれている。このうち、州都ブバネシュワル（Bhubaneswar）やヒンドゥー教の聖地プリー（Puri）、太陽寺院で名高いコナラク（Konarka）などを擁するプリー（Puri）地区は、海岸線のほぼ中央に位置している。プリー地区の北に隣接するのがカタック（Cuttack）地区である。西隣のマディヤ・プラデーシュ州から流れる大河マハーナディー（Mahanadi）川が、この地区の中央をつらぬいてベンガル湾にそそいでいる。カタック地区のさらに北にはバレシュワル（Baleshwar）地区、マウルバンジュ（Mayurbhanj）地区が続き、ベンガル、ビハール州へと至る（地図1）。

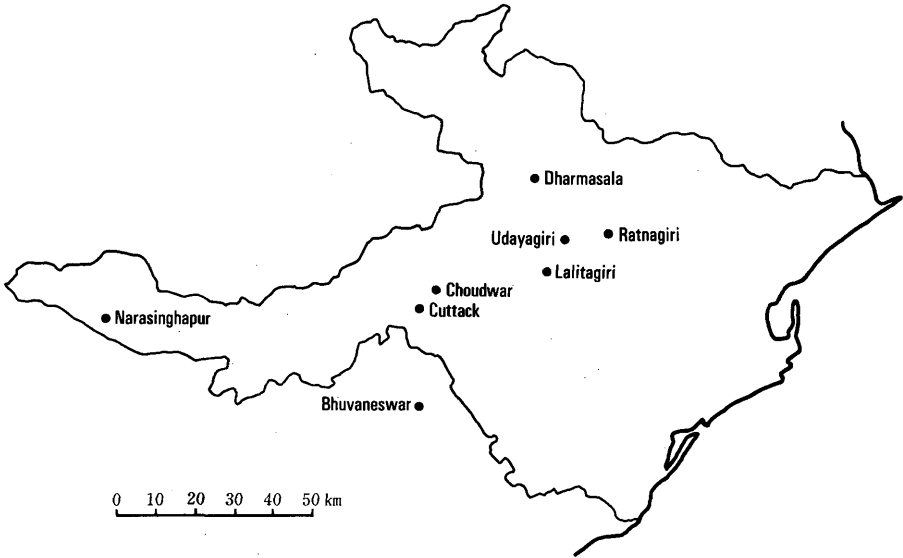
オリッサ州政府観光局発行の仏教遺跡に関するパンフレットには、次のような地名が仏教遺跡、あるいは遺品の出土地としてあげられている<sup>1)</sup>。

- Cuttack 地区：Ratnagiri, Udayagiri, Lalitagiri, Rameswar, Banesvaranasi, Brahmavana, Choudwar, Prachi Valley
- Baleshwar 地区：Ayodhya, Solampur, Kupari, Khadipada
- Phulbani 地区：Bauda, Paragalpur, Shyamsundarpur
- Puri 地区：Banpur, Aragada, Bhubaneswar, Kuruma
- Sambalpur 地区：Ganiapalli
- Mayurbhanj 地区：Khiching

このほか、オリッサ州立博物館にはナラシングプル（Narasinghapur）、ナトマラ（Nathmara）（以上カタック地区）、カイラ（Khaira）（バレシュワル地区）、マンガル



地図1 オリッサ州行政区



地図2 カタック地区主要仏教遺跡および出土地

表1 オリッサ州の密教図像の出土地別作例数

如来

	ラトナギリ	ラリタギリ	ウダヤギリ	他カタック	他オリッサ	奉献塔	計
坐像							
胎藏大日	4	2	2	0	0	0	8
転法輪印	1	3	2	2	0	4	12
触地印	35	9	4	2	10	16	76
与願印	2	1	2	0	0	3	8
定印	4	5	5	1	0	5	20
施無畏印	2	8	0	0	0	1	11
印不明	2	3	0	0	0	0	5
立像							
三道宝階降下	1	2	2	0	0	0	5
与願印	0	5	0	0	0	0	5
施無畏印	0	11	0	0	0	0	11
その他	1	0	0	0	0	0	1
不明	1	7	0	0	0	0	8
断片	1	6	0	0	0	0	7
仏頭	13	3	1	0	0	0	17
如来小計	67	65	18	5	10	29	194

菩薩

	ラトナギリ	ラリタギリ	ウダヤギリ	他カタック	他オリッサ	奉献塔	計
観音							
二臂坐像	14	1	0	6	0	7	28
二臂立像	2	3	1	0	4	0	10
四臂坐像	9	0	1	1	1	3	15
四臂立像	8	0	5	2	0	0	15
六臂立像	0	0	0	1	0	0	1
金剛法	1	0	0	0	0	3	4
六字観音	1	0	0	0	0	1	2
断片	12	2	2	2	1	0	19
文殊							
アラバチャナ	0	0	0	0	1	4	5
マンジュヴァラ	3	0	1	0	0	5	9
スティラチャクラ	0	1	0	0	0	0	1
遊戯坐	5	2	0	1	0	8	16
輪王坐	1	0	0	0	1	2	4
結跏趺坐	1	0	0	0	0	0	1
立像	3	5	1	1	1	0	11
断片	0	0	1	0	0	0	1
弥勒	5	2	0	0	2	2	11
金剛手	2	3	1	1	1	1	9
金剛薩埵	1	0	0	0	2	9	12
八大菩薩	0	12	0	0	0	0	12
未比定	22	4	2	1	0	5	34
菩薩小計	90	35	15	16	14	50	220

女尊

	ラトナギリ	ラリタギリ	ウダヤギリ	他カタック	他オリッサ	奉献塔	計
アバラージター	1	1	1	0	0	0	3
仏頂尊勝	1	0	0	0	0	0	1
クルクラ	0	0	1	0	0	3	4
ガンガー	0	0	1	0	0	0	1
チュンダー	3	0	1	2	2	6	14
バルナジャバリー	0	0	0	0	0	1	1
般若波羅蜜	1	0	0	0	2	0	3
ブリクティ	0	1	0	1	0	0	2
マーリーチャー	0	0	0	1	8	16	25
ヤムナー	1	0	1	0	0	0	2
ヴァジュラヴァーラーヒー	0	0	0	1	0	0	1
ヴァスダーラー	4	0	0	0	0	3	7
サットヴァヴァジュリー	1	0	0	0	0	0	1
ハーリーティー	1	1	0	0	0	0	2
ターラー	24	2	0	1	10	15	52
女尊小計	37	5	5	6	22	44	119

忿怒尊・財宝神

	ラトナギリ	ラリタギリ	ウダヤギリ	他カタック	他オリッサ	奉献塔	計
チャンドマハーローシャナ	1	0	0	0	0	1	2
マハーカラ	1	0	0	0	0	0	1
ヤマータカ	2	0	0	0	0	0	2
サンヴァラ	2	0	0	0	0	0	2
ハヤグリーヴァ	1	0	0	0	0	0	1
ヘルカ	1	0	0	0	0	2	3
不明	0	1	1	1	0	0	3
ジャンバラ	16	2	2	0	2	2	24
忿怒尊等小計	24	3	3	1	2	5	38
総計	218	108	41	28	48	128	571

- (1) 尊格の順序は後掲の作例リストに一致する。
- (2) 「他カタック」はラトナギリ、ラリタギリ、ウダヤギリ以外のカタック地区、「他オリッサ」はカタック地区以外のオリッサ州を示す。「他オリッサ」には出土不明の作品も含まれる。
- (3) 「奉献塔」は奉献塔の龕の中の浮彫を示す。これらは1例を除きすべてラトナギリから出土している。

ブル (Mangarpur) (ブリー地区) などから出土した作品も展示されている。また、ブリー地区の海岸寄りのアチュトラジュプール (Achutrajpur) から大量のブロンズ像が出土していることが、Mitra (1978) の研究報告によって知られている。

これらの中で最も有名な遺跡が、カタック地区のラトナギリ (Ratnagiri), ラリタ

ギリ (Lalitagiri), ウダヤギリ (Udayagiri) の3遺跡である。これら3遺跡を含むカタック地区からは膨大な数の密教美術が出土している。本稿では写真資料を用いながら、その全体像を明らかにしたい。

オリッサの名が仏教史上にはじめて登場するのは、おそらくマウリヤ朝のアショーク王の故事からであろう<sup>2)</sup>。しかし、その後、オリッサの仏教が文献に現れるのは、7世紀のハルシャ王の時代にインドを訪れた玄奘の『大唐西域記』を待たなければならない。密教がこの地に栄えたのは、8世紀頃からこの地を支配したバウマカラ (Bhaumakara) 朝の保護によるといわれる。これは、ベンガルやビハール地方においてパーラ (Pāla) 朝が果たした役割に似ている。オリッサは一時パーラ朝の支配下になった時代もあるが、その期間はデーヴァパーラ (Devapāla) 王やラーマパーラ (Rāmapāla) 王の治世などに限られ<sup>3)</sup>、この地の仏教僧院との関係も明らかではない。

カタック地区の3遺跡、ラトナギリ、ラリタギリ、ウダヤギリにおいて仏教僧院が最盛期をむかえたのも、8世紀から10世紀頃とされる<sup>4)</sup>。これらの3遺跡はカタック地区のほぼ中央に位置し、この地区の中心地カタック市から約50キロ・メートル、州都ブバネシュワルからは約100キロ・メートルはなれている。マハーナディー川の支流ビルバ (Birupa) 川が近くを流れ、かつてはこの川が交通を遮断していたが、現在ではいずれの遺跡にも舗装道路が通じている。3遺跡ではラトナギリが最も北東寄り、すなわちカタック市から遠い位置にあり、その西の方角にウダヤギリ、西南の方角にラリタギリがある (地図2)。

いずれも「ギリ」(山) という名称が付くように、山頂、あるいは山の中腹に建立された僧院である。ただし、高さは数十メートルにすぎず、「山」よりも「丘」とよんだ方が妥当かもしれない。各遺跡からの建造物としては仏塔と僧院がそれぞれ発掘されている。仏塔と僧院からなる寺院構成は、サーンチャーやバールフットなどの初期の仏教遺跡から知られ、西北インドのガンダーラ地方や南インドのアーンドラ地方でも踏襲された形式である。伝統的な仏教僧院の構造がこの地でも優勢であったことが知られる。また、これらの建造物はいずれもかなり小規模である。ラトナギリ遺跡の第1僧院は其中で最も規模の大きな建造物であるが、一辺は約40メートルにすぎない。同時代のパーラ朝の版図にあったナーランダ (Nālandā) やヴィクラマシーラ (Vikramaśīla) などのビハール地方の大僧院とは比較にならないほど小さい<sup>5)</sup>。

カタック地区の3遺跡の発掘は、ラリタギリとウダヤギリに関しては前世紀に部分的に行われたらしいが、ようやく1950年代にいたって、インド政府考古局による3遺跡の調査・発掘が本格化した (佐和 1982: 2)。とくにラトナギリは、発掘の調査報

告がインド考古局年報に発表され<sup>6)</sup>、また Mitra の手になる大部の報告書 (1981; 1983) が刊行されたことで、その全容が明らかになった。わが国でも佐和隆研氏が早くからこの地の密教遺跡の重要性に注目し、氏を中心とした調査隊が1980年に現地調査を行った<sup>7)</sup>。その結果、胎蔵大日如来像やマンダラ的な構成をとる尊像彫刻の発見など注目すべき成果を上げた。このときの調査報告は佐和編 (1982) としてまとめられている。その後、隊の中心メンバーの1人であった頼富本宏氏は、継続してカタック地方の密教図像の研究成果を発表し、インド密教史におけるオリッサの重要性を明らかにしている。密教美術全般をあつかった近著 (頼富・下泉 1994) においても、オリッサの密教美術は大きく取り上げられている。Mitra による報告書や佐和氏の著作とほぼ同時期、フランス極東学院の Bénisti は仏塔の研究の一環として、ビハールのボードガヤーとならんでラトナギリをあつかう (1981)。また、最近では定方晟氏がインド政府観光局の招聘により現地を訪れ、その近況等について報告している<sup>8)</sup>。一方、インドの密教美術に関しては、宮治昭氏を中心としたグループが尊像別のリストを作成し、現在知られている出土品のデータを集積することによって、尊像ごとの図像学上の特徴を整理するという基礎的な作業を行ってきた<sup>9)</sup>。

筆者は1995年3月と1996年1月の2度にわたり、カタック地区の仏教遺跡の現地調査を行った。その結果、従来の報告書等に比べ、いずれの地域でも発掘が進み、遺跡の全容がほぼ明らかにされつつあることを知った。とくにラリタギリとウダヤギリの2遺跡に関しては、これまで発掘状況すらほとんど伝えられていなかったが、今回の調査で、すでに発掘作業が完了していることが明らかになった。そして、いずれの地域からも新たな出土品が発見されていることも確認された。また、ラトナギリでは遺跡に隣接して博物館も建設され、主要な作品は館内に移され、公開を待つ状態であった。Mitra や佐和氏による報告書が発表されてからすでに10年以上経過し、発掘作業もほぼ最終段階をむかえた現在、カタック地区の密教遺跡、密教図像の全容の呈示が可能になりつつあるのである<sup>10)</sup>。

一方、パーラ朝の密教美術についても、この10年あまりの間に Huntington (1984) や上記の宮治氏のグループなどによって研究の進展が著しい。ベンガル・ビハール地方の密教美術とオリッサから出土した作例とを比較することによって、インド密教美術の地域的な差異という、これまでほとんど取り上げられなかった問題が明らかになる。さらに、カタック地区の内部においても、ラトナギリ以外の遺跡からの出土数が限られていたことから、遺跡ごとの特色は必ずしも明瞭ではなかった。しかし、ラリタギリとウダヤギリからのまとまった作例が知られるようになり、各遺跡の独自性が



ら、この地の密教美術をより詳細に把握することが可能となった。

このような観点のもとに、本稿では各遺跡の現状と作品の特色を示した上で、パーラ朝の密教美術との対比を行いつつ、尊像の種類ごとの図像上の特徴を整理する。さらに後半では、現在知られているオリッサ州出土の作例をリスト化した。末尾には未発表作品や部分図を中心に写真図版を掲載した。なお、本文中で [ ] で示された番号は作例リストの通し番号に、図1、図2等は末尾の写真図版に対応する。

## 2. 遺跡の現状

### ラトナギリ

カタックの3遺跡の中で最も大きな規模を有するのがラトナギリである。Mitra などの報告書(1981; 1983)によって、その全貌もよく知られている。南北にのびる丘陵のほぼ南半分に建造物があったらしい。最も標高の高い南陵に仏塔が築かれ、その北に僧院や祠堂が集まる。仏塔は覆鉢がすでになく、仏龕などに尊像が置かれていた形跡もない。仏塔の周囲にはおびただしい数の奉獻塔が林立する。直径2、3メートルの中規模の仏塔も、中心となる仏塔のまわりに数基ある。小規模の奉獻塔は仏塔の周囲から発掘されたものであろうが、その多くは、現在、仏塔の南側の空き地に雑然と並べられている。若干数は仏塔の北東にもまとめられている。ほとんどの奉獻塔は一面に龕を持ち、尊像の浮彫が認められる。大仏塔の南側にある奉獻塔は、龕のある面を南に向けて置かれている。

僧院は第1僧院(monastery 1)と名付けられた最も規模の大きな建造物を中心に、その西側にやや規模の小さな第2僧院、南東と南西にそれぞれ3棟の祠堂(temple)がある(図1)。ただし、南東の3棟と南西の1棟の祠堂は建造物の跡のみで、祠堂の形が知られるのは南西の2棟の祠堂、すなわち第4、第5祠堂のみである。

Mitra(1981; 1983)の写真図版からは、大仏塔、僧院、祠堂のいずれも、発掘当初はかろうじてプランが確認できる程度であったことがわかるが、現在では第1僧院と第4、第5祠堂には相当の修復が施されている。とくに本尊の安置された第1僧院の最奥部は屋根が付けられ、第4、第5祠堂もレンガによって全体が復元されている。そのため、発掘された部分とその後復元された部分との境界はあいまいで、現在の建造物が当時の形態をどれだけ再現しているかは疑問である。これはラトナギリに限らず、他の2遺跡についても同様である。

僧院の北に少しはなれて、作品の保管と展示を目的とした博物館が近年になって建設された(図3)。筆者の調査時にはまだ一般へ公開されていなかったが、特別に入館が認められた。展示ギャラリー4室をそなえる大きな建物で、このうち2室には、それぞれ20例あまりの作品が展示されていた。いずれも保存状態が良好で、技術的にも優れた作品が集められている。残る2室のギャラリーのうち、1室は空室であったが、もう1室は比較的小規模の作品がガラスケースの中に陳列されていた。頼富氏は、1980年の調査時における第1僧院の尊像配置図を示し、56例の作品が確認されたことを報告しているが(佐和 1982: 170-185)、1996年1月現在その数は29点を数えるのみで、大半が展示ギャラリー、もしくは収蔵庫に移管されていることがわかった。

現在、第1僧院に置かれている尊像は、入口周囲、最奥部の本堂、回廊の南西部の3箇所に限られる。このうち入口周囲と本堂の2箇所の尊像は、頼富氏の報告に比べて大きな変化はない。僧院の正面につけられた階段の左手に観音立像[251](図86~89)、階段を登って入口(図2)に至るまでのスペースに、左右に蓮華手[248](図80~82)と金剛手[354](図116~118)が、また、蓮華手の前には像高2メートル近い観音像が2体置かれている[249](図83~85)、[254](図90~93)。入口をくぐるとジャンバラ[550]とハーリーティー[480]が左右の龕の中に安置されている。本堂の本尊は2メートル以上の高さをもつ触地印仏坐像[53]である。その両側には蓮華手[223]と金剛手[348]の2体の脇侍菩薩が、弘子を持って立っている。本堂の手前には、2脇侍をともなった仏坐像が2点[44, 45]、八大菩薩を光背の左右に配した仏坐像がやはり2点[36, 37]、そして、像高80センチ・メートルほどのヴァスダーラー像[472]がある。回廊部分の作品は、入口より入って左手から始まり、南西の角を曲がって、西の部分のほぼ中央あたりまでならべられている。この中には、宝冠をつけた文殊立像[331]や八難救済の場面を左右に表現したターラー像[528](図138~146)など、よく知られた大規模な作品も含まれるが、大半が新たに発掘された新出資料である。原形をとどめた作品は少なく、欠損の多い作品や断片がほとんどである。

このほか、遺跡内に置かれた尊像には、第2僧院の本堂にある三道宝階降下像[141]、第5祠堂の観音立像[230]、そして、第5祠堂の胎蔵大日如来[2]、金剛法[264](図106~110)、金剛薩埵[357]の3点がある。

遺跡と博物館との作品の配置についてのインド考古局の方針は明らかではないが、遺跡内に残された作品はほぼ次の3つのグループに分けられる。

(1) 当時の僧院や祠堂の状態を示すと考えられる作品。入口周囲の建造物の一部

に組み込まれた作品や、本堂、祠堂に安置された作品がこれに相当する。

(2) 新たに発掘されたり、保存状態の良くない作品。おもに回廊の作品に相当する。

(3) 2メートル前後の大規模な作品。入口周囲の観音像などが相当する。

ラトナギリの作例については、まずその数の多さを指摘しなければならない。今回の調査と従来の研究にもとづいた後掲のリストでは、カタック地区から出土した作品は523例を数えたが、このうち、346点はラトナギリから出土している。しかも、奉獻塔の作品は、その一部が発表されているにすぎず、リストでも127点に限られる。しかし、中村涼一氏の調査によれば、265点の奉獻塔に尊像彫刻が確認されるという。重複分を除いてこれを加えると、ラトナギリ出土の作例数は483にもなる<sup>11)</sup>。

奉獻塔の作品を除くラトナギリ出土の作例の全体的な傾向をいくつか指摘しておこう。

如来像に関しては、触地印仏坐像が圧倒的に多い、このタイプの如来像が多いのは、ラトナギリに限らず、オリッサ全体、またパーラ朝の如来像でも同様である。ラトナギリの場合、仏頭を除く如来像の出土数全体の54例のうち、35例は触地印仏である。第1僧院の本尊も触地印仏坐像で、僧院に大規模な触地印像を置くのはカタックの3遺跡に共通である。この本尊仏はラトナギリから出土した作品の中で最も大きな作品であるが、このほかに巨大な仏頭が3点出土している [178, 179, 180]。頭部のみのため全体像は不明で、当時、僧院のどこに安置されていたかも明らかではないが、本尊仏と同程度、もしくはそれ以上の大きさの如来像があったと考えられる。このほか、如来像としては菩薩形の胎蔵大日如来坐像が3点確認できる。このうちの1例 [1] は遺跡の東側にある小学校の校庭に、1例 [2] は先述の第5祠堂に、さらにもう1例 [3] は第1僧院の回廊部に置かれている。触地印以外の印相はきわめてわずかである。また、如来像のほとんどは坐像で、立像はわずかに4例を数えるにすぎない [141, 162, 163, 188]。立像を置いた奉獻塔の出土例も知られていない。

像高が2メートル近い大規模な菩薩や女尊の像が出土しているのも、ラトナギリの特徴である。すでに述べた入口周囲の観音、蓮華手、金剛手、ヴァスダーラー、回廊部の文殊などである。いずれも細部まで入念に仕上げられた作品で、オリッサの密教美術の代表例として、これまでも紹介されてきた。しばしば、脇侍を足元に小さく表現し、光背の上部左右には仏坐像や飛天を配する。中央の尊は大地から伸びる蓮華に立ち、周囲の尊も同じ根から伸びる小さな蓮華に位置する。

ラトナギリからは後期密教に属する尊像が出土している点も注目される。ヘールカ

が1点 [542], サンヴェラが2点 [539, 540] あり, いずれも規模の大きな作品である。中村氏の調査によれば, 奉献塔の龕にもヘールカが3例, ダーキニーが1例あるという。また密教的色彩の濃いターラーである, 先述の八難救済のターラーも2例知られている [527, 528] (図138~146)。これらの作例は数の上ではわずかであるが, カタックの他の2遺跡から類例の出土はなく, かなり後の時代までラトナギリでは造像活動が続いていたことが予想される。

### ラリタギリ

ラリタギリ遺跡も小高い丘に位置している。東西に長い丘陵で, 西に頂を持ち, ここに仏塔があった。仏塔は現在では新しくレンガで復元されているが, 直径は5ないし6メートルでそれほど規模は大きくない (図4)。自動車道は山の東側を南北に走り, 丘陵の東端が遺跡への入口になる。ここから, 仏塔の置かれた頂の南斜面の収蔵庫のあたりまで道が続く。仏塔以外の建造物の遺構はこの道の両側にある。遺跡の入口から収蔵庫に向かって進むと, 右手, すなわち道の北側に二つの僧院跡がある (図7, 8)<sup>12)</sup>。いずれもほぼ同じ大きさを持ち, 東西にならんで作られている。ラトナギリの第1僧院に比べるとひとまわり小さいが, 中庭の左右に房室をそなえ, 最奥部に本堂を持つ構造は変わらない。南側, すなわち道に面して入口が開き, 本堂は北になる。ここでも新しいレンガで復元作業が行われたようで, 外壁や仕切の壁に相当する部分は同じ高さまで築かれている。東の僧院には房室が東西に5つずつあり, ラトナギリの第2僧院と同じ数である。規模もほぼ同程度であろう。

ここからさらに西に向かって進むと道の左手, すなわち南側に, 馬蹄形をした建造物の遺構が現れる (図5)。大小二つのU字型を組み合わせた形の跡が残り, 内部はレンガが敷き詰められている。小さい方のU字の奥まった部分には円形の建造物跡が残されている (図6)。房室のような小さな部屋は認められない。このような遺構はラリタギリ以外のカタックの遺跡から発掘されていないため, 当時の形態や建物の用途は想像にたよるほかないが, おそらく, 中央の円形の遺構にはチャイトヤ (caitya) が置かれ, これをおおうような形で建物があったことが予想され, チャイトヤの礼拝を目的とした一種の礼拝堂であったと考えられる。外側のU字型は縁石のように復元され, かりに当時も同じであったならば, 建物との間は右逸道として機能していたと考えられる。このような構造は, 丘陵地帯に窟をうがって作られた石窟寺院を想起させる。早くはサータヴァーハナ朝からおもに西インドで多く作られ, グプタ朝からポスト・グプタ期にかけてふたたび流行した石窟の仏教寺院は, 僧侶が住

み、修行を行うヴィハーラ窟（僧院窟）と、仏塔を置いて礼拝や儀礼を行うチャイトヤ窟（塔院窟）という二つのタイプに分けられる（宮治 1981: 52-61, 129-136）。ラリタギリの2棟の僧院や他のカタック地区の遺跡の僧院は、いずれも僧房をそなえた僧院である。そして、仏塔は僧院とは別にたてられている。ラリタギリでも仏塔は僧院跡から少しはなれた山頂にあるが、それとは別に、チャイトヤ窟のような構造を持った礼拝の場が存在したのではないか。現在、馬蹄形の外側のU字型の遺構の上には奉献塔が多数並べられている。おそらくこの周囲から発掘された奉献塔であろうが、規模の大きな仏塔の周囲に奉献塔を置く形式はラトナギリでも見られた。また、遺構の南側には方形の祠堂跡とともに直径2メートル程度の円形の基壇が数基残されている。中規模の仏塔が建てられていたのであろう。いずれも建造物の内部に仏塔が置かれていたことを示唆している。

現地におけるラリタギリの尊像の遺品は、馬蹄形の遺構の近くに頭部を欠く触地印仏坐像〔26〕が放置されているのを除き、すべて収蔵庫に保管されている。発掘の進展とともに相当数の作品が新たにここに収められたようである。とくに如来像の新出作品が多い。その中で、高浮彫で、像高1メートル程度の立像が目される（図58～73）。いずれも如来形で、かろうじて衣紋が確認できる他はめだった特徴はなく、多くの作品は表面が磨滅している。印を示す右腕を欠く例も少なくないが、大半が与願印もしくは施無畏印を示していたと考えられる。脚部のみの断片も6例あった。仏立像はラトナギリではほとんどなく、ウダヤギリでも仏伝図のひとつである三道宝階降下図が2例あるにすぎない〔144, 145〕（図57）。ラリタギリにおける立像の流行はカタック地区の中では異例である。また、立像とならんで坐像の新出作品も20点程度確認された。興味深いのは、これらの坐像の中に、法量や様式が共通で印相のみが異なる作例がある点である。一般にこの地区に多く見られる触地印の他に、転法輪印〔10-12〕（図14, 15）、与願印〔99〕（図31）、定印〔109-113〕（図38～42）、施無畏印〔127-134〕（図49～55）の作例が見られ、四仏ないし五仏のセットであった可能性もある。このうち転法輪印と施無畏印の作例のいくつかには、台座部分に法輪と二鹿が表現されている〔10-12, 127, 128, 130-134〕（図15, 49, 51～54）。とくに転法輪印との組み合わせは初転法輪の釈迦を連想させるが、施無畏印を示す如来像にも現れることから、特定の仏伝図に比定できるかどうかは断定できない。法輪のモチーフのみは定印を示す仏坐像の台座部分にも登場する〔112〕（図41）。また、定印仏の光背に蛇（ナーガ）の姿が表現されるのも特徴的である〔109-111〕（図38～40）<sup>13)</sup>。

ラリタギリ収蔵庫の作品でとくに注目されるのは、八大菩薩のそれぞれの単独立像

である。いずれも2メートル近い大作である。これらの作品については、すでに頼富氏によって早くから注目され、インド、チベットの八大菩薩の大きな流れの中でその意義が明らかにされている(頼富 1990: 607-632)。作例数としては20例程度確認したが、法量や様式などから、火炎の光背をそなえたセット(地藏を除く7体現存)、これに比べやや細長い石材を用いたセット(8例すべて現存)が中心となる。このほかの作例は、明らかに様式の異なる二つ以上のグループに分かれるため、いずれも八大菩薩のセットとして制作されたとすれば、4つ以上のセットが存在したと考えられる<sup>14)</sup>。

これらの如来像と八大菩薩像を除くと、この遺跡から出土した尊像の種類はきわめてわずかで、出土数自体も限られる。また密教系の尊格、すなわち、忿怒形の尊格や変化観音、特殊な文殊などもまったく見られないことも指摘しておかなければならない。作品全体の傾向は大乗仏教の色彩がきわめて濃いのである。

#### ウダヤギリ

ウダヤギリ遺跡はこれまでの2遺跡と異なり、比較的高い山の中腹に築かれている。山の東側に遺跡への入口があり、そこから西に向かって参道がのびる。途中、右手に仏塔が置かれ、さらに進むと僧院跡に至る。

近年復元された仏塔(図10)は、四方に龕を持ち、龕の中に阿閼(図24~26)、宝生(図32~34)、阿弥陀(図43~45)、胎蔵大日(図11~13)が東から順に右回りに安置されている<sup>15)</sup>。いずれも仏塔周囲から出土し、当時の配置も現在と同じであったと考えられる。4体の如来像の左右には八大菩薩が2尊ずつ脇侍として立っている。各尊固有の持物を左右いずれかの手に持ち、明白に八大菩薩を意識した作例である。台座に2匹の竜王を配して、光背の上部左右に飛天を置く形式はいずれも共通で、その他の様式もほぼ一致することから、同じ時期に一具のものとして制作されたものであろう。ただし、光背の表現は阿弥陀のみ独特で、周囲に蓮華の文様を連ねた形式をとる。

僧院(図9)は1996年1月の段階で、すでに発掘・復元作業が終了していた。形式はこれまで見てきた2遺跡と同じで、規模の点ではラリタギリとラトナギリ第1僧院との中間程度である。本尊はやはり触地印仏坐像で、約1.5メートルの像高をもつ[30](図22)。金剛手坐像[353](図115)が本尊の右手に、八大菩薩を光背の左右に配した転法輪印仏坐像[19](図19)が左手に、お互いに向かいあって置かれている。1995年3月の調査時には僧院、仏塔ともに修復中であったため、本堂内にも自由には

いることができたが、約1年後には本堂に屋根が作られ、入口には鉄製の柵がつけられ施錠されていた。1995年8月に本尊脇の転法輪印仏坐像の頭部が盗難にあったことが嚴重な警戒の理由とされる<sup>16)</sup>。この作品の奥にジャンバラ像 [568] (図160) も安置されているが、これも第1回の調査では僧院の外に置かれていたものである。

本堂周辺の尊像としては、このほか本堂入口の手前に置かれた金剛界大日如来 [13] (図16~18) をあげなければならない。円筒形の宝冠をかぶって智拳印 (あるいは転法輪印) を結ぶ大日如来を中央に大きく表し、周囲の4箇所、すなわち台座と光背の左右に供養女尊を置く。これらの女尊は左上から右回りに金剛華 (図17), 金剛燈 (図18), 金剛塗香, 金剛香に比定され、金剛界マンダラに含まれる外の四供養菩薩と考えられる<sup>17)</sup>。

ウダヤギリ遺跡の現地にある作品としては、このほかに4体の観音立像があげられる。かつて、僧院の前の土中に下半身が埋もれていた観音像は、掘り起こされ、足元にターラーとハヤグリーヴァの脇侍が現れた [259] (図102~104) <sup>18)</sup>。また、ここから少しはなれて、像高2メートル以上ある観音立像の石版が仰向けに倒れている [261] (図105)。仏塔の前で参道を左に折れ、50メートルほど進むと、やはり大規模な観音像がある [258] (図97~101)。光背に多数の尊像や人物を配し、補陀洛山の情景を表した興味深い作品である。さらに、遺跡の入口にはコンクリートの台に観音像が立てられている [227] (図76~78)。この作品の出土地点は不明で、おそらく考古局の手で現在の位置に置かれたのであろう。パトナ博物館にはウダヤギリ出土の四臂観音立像がもう1例ある [257] (図94~96)。蛇のからみついた三叉戟を手にする、オリッサでは他に類を見ない作例である。

このほか、新たな出土品が入口近くの空き地に集められ、やはりコンクリートの台に固定されている。これらは断片が多いが、脇侍をともなった与願印仏坐像 [101] (図35~37), 三道宝階降下図 [144] (図57), 文殊 [302] (図111) などは比較的保存状態が良好である。また、仏教美術に混じってマヒジャースラマルディニー (Mahiṣāsūramardini) 像が安置されている。

参道から左にのびる脇道の途中にヒンドゥー教の小さな祠堂があり、中に尊像が3体置かれている。表面ははげしく磨滅している上にオレンジ色の塗料が一部塗り付けられ、原型は判然としないが、チュンダー [428] (図120), ヤムナー [470] (図131), マハーカーラ [548] (図158) の3尊と考えられる<sup>19)</sup>。

現地にあるおもな遺品はほぼ上記のものに限られるが、遺跡近くの小学校の校庭に仏頭 [194], 観音の上半身 [287], そして文殊立像 [334] (図112~114) が放置され

ていた<sup>20)</sup>。いずれもこれまで知られていなかった作品である。このうち文殊は全体が三つの部分に分かれているが、ほぼ原形をとどめている。興味深いことにこの文殊の足元に水牛に乗ったヤマーンタカが小さく表現されている。文殊の脇侍にヤマーンタカが置かれる作例はオリッサではこのほかは1例に限られるが[327]、パーラ朝からは多数出土している(森 1996: 57-58)。しかし、いずれも水牛をとともわず、坐像、もしくは立像で表され、このように水牛に乗る作例はこれまで知られていない。水牛の背に立つヤマーンタカの単独像は、ナーランダーから1例出土しているが、その場合、ヤマーンタカは水牛にまたがるのではなく、水牛の背に立って表現される<sup>21)</sup>。この形式はチベットのヤマーンタカにも受け継がれている。これに対し、日本の遺例ではヤマーンタカ(大威徳明王)は水牛にまたがる姿で現されることが圧倒的に多く、文献の記述の多くも坐像を支持している(佐和 1962: 110-111)。脇侍ではあるが、インドにおける坐像のヤマーンタカの唯一の作例として注目される作品である。

主要な作品の紹介を含め、ウダヤギリの遺跡を概観した。この遺跡からの出土品は現地の他にパटना博物館とオリッサ州立博物館に数点ある。出土品の総数はこれまでの遺跡に比べるとかなり小さいが、優れた作品が多く、八大菩薩を配した四仏のパネルや金剛界大日、観音立像、そして最後にふれた文殊像など、他に類を見ない特色ある作例も多く含まれている。

### 3. 主要な図像上の特徴

#### 一般的な特徴

カタック地区から出土した作品のほとんどは、コンダライトと呼ばれる石材を用いている。コンダライト石は薄茶色の砂岩であるが、色は赤褐色から灰色までさまざまである。硬度に欠けるため加工は容易であるが、逆に風化しやすく、長期間風雨にさらされると表面は黒く変色する。保存の良いものはなめらかな表面をもち、細部の表現もよく残る。その一方で、遺跡に放置された作品の多くが、風化に悩まされている。ウダヤギリの観音立像[259]には、土中に埋まっていたため保存状態の良好な下半身と、磨滅の進んだ上半身との違いがよく示されている(図102~104)。ベンガル・ビハール地区のパーラ朝の仏教彫刻のほとんどが、硬度の高い黒玄武岩の石像で、現在でも光沢が失われていないこととは対照的である。

作品の大半は高浮彫で表現され、像高は10センチ・メートルに満たないものから、



2メートル以上のものまでさまざまである。カタック地区出土の作品は、オリッサのその他の地区に比べると洗練されたスタイルをもち、人体表現も適格である。とくに大規模な作品は重量感のある堂々とした体軀をもち、プロポーションにも優れている。ただし、如来像に多く見られる大規模な触地印仏坐像は、薄い胸板や長い手足などが形式化され、平板な印象を与える。顔の表情は伏し目がちの目、やや肉厚な唇、高い鼻梁、横に広がったあごなどの特徴がしばしば認められるが(図89, 151)、地域や尊像の種類によって変化に富む。

髪型も尊像の種類によって異なるが、如来像の場合、螺髪は比較的大きく表現される。菩薩はしばしば髪を結び、髪のを肩まで垂らす。女尊の髪型の多くは、髪全体を大きくひとつにまとめ、丸みを帯びた形で表現される。頭飾をつける菩薩や女尊も多く、正面と左右に山形の飾りをつけた三山形式の頭飾が多い。円筒形の宝冠もウダヤギリやラトナギリで散見される。装身具には耳飾り、首飾り、聖紐、臂釧、腕釧などが菩薩や女尊に広く見られる。衣服は僧衣をまとう如来を別にすれば、ドーティのみの作品が大半を占める。豪華な腰飾りをしめることも多い。ただし、これらの装身具や衣装がはっきり表現されているのは大規模な作品に限られ、小品の多くはより簡略なものにかわるか、あるいは省略される。

規模の大小にかかわらず、ほとんどの尊像は上下に花卉を開いた蓮台を座とする。しばしば蓮台の下に大地から伸びる蓮華の茎も表現され、同じ根から出た茎や葉がさらにその左右に広がる場合もある。脇侍の尊格も蓮台に置かれるが、この蓮華も中央の尊格の蓮台と同じ茎から伸びている。台座部分には、しばしば帰依者(多くの場合、ひざまずき合掌している)、台に置かれた供物、さらにほら貝などの浮彫がある。まれに転輪聖王の七宝が表現される作例もあるが、これはベンガル地方でも見られる装飾モチーフである。台座の左右に動物を置く作例も散見される。動物はほとんど獅子であるが、象の場合もある。

光背には特別な装飾が現れることはまれであるが、如来像に限り、獅子、有翼のグリフォンを左右に飾る玉座を浅い浮彫で表現した作例が何点かある[33, 47, 56, 60, 62]。また多くの作品で、光背の上部左右に飛天が現れる。メダイオンの中に浮彫で表現され、花綱をもつ。これは尊像の種類に関係なく、ひろく見られる装飾モチーフである。

ラトナギリからは龕の中に尊像の浮彫を置いた奉献塔が多数出土している。ラリタギリにも馬蹄形の遺構の周囲にかなりの数の奉献塔が置かれていたが、龕に尊像の浮彫のある作品はほとんどなかった。また、ウダヤギリからは、奉献塔の出土自体が現

在のところにきわめてわずかである。奉献塔の龕に仏を表現する形式はパーラ朝の遺跡ではよく見られるが (Bénisti 1981), 多様な種類の尊像を龕に入れる形式の流行は、ラトナギリのひとつの特徴となっている。龕に表現される尊像の種類としては、とくに触地印仏、ターラー、観音の三尊の割合が多い。なかでもターラーの作例数が顕著である。また、単独像では作例数がわずかであった金剛薩埵が、奉献塔の龕では15例確認されている (中村 1982: 164)。

## 如来

カタック地区出土の如来像は、仏頭などの断片を含め184例を数えた。これは、今回取り上げた作例数571例の約3分の1に相当する。如来像の内訳は、坐像が130例、立像が37例で、坐像が7割以上を占める。そして、坐像の中の約半数は触地印を示している。坐像のその他の印相は20例の定印がやや目立つ程度で、他は10例前後にとどまる。立像は腕の部分が欠損しているものが多いため、不明な作品が多いが、施無畏印と与願印にはほぼ限られる。インドの中でオリッサのみから出土し、日本密教との結びつきから注目された胎藏大日は8例で、いずれもすでに発表されている。ラリタギリの如来形の1例 [5] を除き、すべて菩薩形である。すでに述べたように、ウダヤギリからは金剛界大日如来が1例出土している [13]。周囲に外の四供養菩薩を配するマンダラ的な構成をとる。

如来像全体で最も出土数の多い触地印坐像は、光背に置かれる脇侍や装飾でいくつかの類型に分けられる。すなわち、八大菩薩を左右に配する、二脇侍菩薩をとる、四親近をとまなり、特定の一尊をとまなり、光背上部中央に樹木のモチーフを置く、などである。このうち、最後の光背上部に樹木をもつ作例はパーラ朝の触地印仏にもしばしば見られる。いずれも成道の釈迦がその根もとに坐した菩提樹を表すモチーフと考えられる。触地印とあわせて、降魔成道図を表現した作品であることを強く示している。また、成道図の台座にしばしば表されるマーラの軍勢やマーラの娘たちも、オリッサでは4点の作品で確認されるが [54, 60, 61, 62], いずれも触地印を示し、樹木を頭上に置く。一方、マーラの軍勢や頭上の樹木のモチーフは、八大菩薩をとまなり作品には現れず、脇侍をしたがえる作品でもまれである<sup>22)</sup>。

降魔成道図を示唆するこのようなモチーフの現れない触地印仏坐像も、釈迦と見るべきであろうか。佐和氏はこの地域における図像の密教的展開を考慮に入れ、降魔印 (触地印) 坐像を密教仏の阿闍と見るべき説を提唱している (1982: 102-105)。たしかにウダヤギリの仏塔のように、四仏を意識して作られた場合、触地印を示す作品

[40] (図24)は阿閼に比定すべきであろう。また、ラリタギリ出土のやはり四仏、あるいは五仏のセットも同様である。さらに、ラトナギリからは台座の左右に象の浮彫を置く触地印仏坐像が1例出土しているが[58]、象を乗り物とする密教仏は阿閼である。四親近菩薩をともなう作例も同様に阿閼と見てさしつかえないであろう。また、宮治氏は八大菩薩をともなう触地印仏坐像[41-43]が阿閼である可能性も示唆している。しかしこのような特徴をもつ作品は、触地印仏坐像全体から見れば多数を占めるものではない。むしろ、脇侍などに特定の尊格をともなわない単独像や、飛天を光背上部に置くだけの作例が半数以上を占める。これらも一括して阿閼と見るべきかは慎重を要する。同じ触地印をとりながらも、モチーフの組み合わせにしたがって豊富なヴァリエーションが現れることにも注目しなければならないであろう。

降魔成道図を除くと、オリッサから出土した仏伝図はきわめてわずかである。パーラ朝の場合、中央に触地印仏などを大きく表し、周囲に仏伝の主要な七つの場面を小さく表現した八相図が流行するが、カタックのみならず、オリッサから類似の作例の出土は報告されていない。すでにラリタギリの項でふれたように、転法輪印を示し、台座に法輪と二鹿の浮彫を施した例を初転法輪の釈迦に比定することができるが、印相から大日如来と見るべきかもしれない(宮治 1995: 17)。これらを除けば、仏伝図は三道宝階降下の5点の作例を数えるにとどまる[141-145]。八相図中の残り5つの場面の出土例は、現在のところ知られていない。

宝冠仏もパーラ朝の如来像において広く流行し、この時代の如来像を特徴づける様式である。しかし、オリッサからは宝冠仏の出土も知られていない。その中で、ウダヤギリにある金剛界大日[13]は、豪華な宝冠をつけ、身体を種々の装身具で飾っている点が注目される。しかし、宝冠の形態は円筒形で、パーラ仏に見られる三面頭飾とは形態がかなり異なる。また、パーラ朝の宝冠仏は宝冠以外の装身具は首飾りのみで、衣装も僧衣であるのに対し、ウダヤギリの作例は、首飾りの他に臂釧、腕釧、聖紐を飾り、僧衣ではなくドーティを身につける。これらはいずれも菩薩の装身具として一般的に見られ、この作品も菩薩形の大日と解釈するべきであろう。いずれにせよ、パーラの宝冠仏との関係は希薄である。なお、カタックではなくブパネシュワルからは、宝冠仏と考えられる転法輪印を示す小品の如来像が1例のみ出土している[16]。

八大菩薩をともなう如来像は、ウダヤギリの仏塔の4体を除けば、いずれも光背の左右に縦に一行、4尊ずつ、坐像で表現される。このような作品はカタックからはこれまで6例の出土が報告されており、中央の如来像の印相の内訳は、触地印が4例[36-39]、転法輪印[14]と定印[116]がそれぞれ1例である。

脇侍菩薩を左右に置く作品も散見される。これまで11例を数えるが、中央の如来像の印相はここでもやはり限定されない。触地印が7例と最も多く [44-50]、転法輪印が2例 [10, 11]、定印 [118] と与願印 [101] が1例ずつである。脇侍菩薩の尊名は不明なものが多いが、2例 [44, 45] は蓮華手と金剛手であることが確認できる。また3例は脇侍の1尊が文殊で、このうちの1例 [49] は、対となる脇侍が観音（あるいは蓮華手）と考えられるが、残る2例 [46, 118] については尊名比定の根拠を見いだせない。また、与願印を示す仏坐像 [101] の脇侍は、払子を持つのみで、特定の持物を持たない。

パーラ朝では三尊形式をとる如来像の脇侍菩薩は、観音と弥勒の組み合わせが圧倒的であった。この形式は、早くはガンダーラに見られ、グプタ朝を経てパーラ朝に至るまで受け継がれる大きな伝統である<sup>23)</sup>。しかしながら、オリッサでは、観音と弥勒にかわり、蓮華手と金剛手が仏の脇侍となることが多い。この組み合わせは、エローラの後期窟（第11, 12窟）で流行し、おそらくオリッサもその影響下にあったことはすでに指摘されている<sup>24)</sup>。これは仏部、蓮華部、金剛部という『大日経』系統の密教に固有の三部の思想にも関連する。オリッサの三尊形式はラトナギリの本堂の触地印仏 [53] と2体の脇侍菩薩 [223, 348] がよく知られている。ラトナギリでは僧院入口の左右にもこの2尊の大きなパネル [248, 354] がある。また、カタックの北に位置するバレシュワル地区のカディパダ (Khadipada) からは、やはり対となる蓮華手 [228] と金剛手 [349] が出土している。

碑像形式の脇侍菩薩にもこの組み合わせが見られるが、パーラ朝ではまれであった文殊が、いくつかの作品に現れる点も注目される。また、2尊ではなく4尊の菩薩を光背に置いた転法輪印の仏坐像もあった [9]。この場合、4尊は観音、弥勒、金剛手、文殊という組み合わせである。これらの4尊は八大菩薩の中でも主要な尊格のグループであるとともに（宮治 1995: 20）、インドにおける単独の菩薩像として相当数の作例のある尊格でもある。パーラ朝とオリッサで著しい相違を示す脇侍菩薩については、地域的な影響関係を視野に入れながら、八大菩薩や単独の菩薩像との関係の中で、取り扱う必要があるであろう。

如来像の中で2割にも満たない立像は、その出土地に大きなかたよりがある。37例の中の31例がラリタギリから出土し、ラトナギリとウダヤギリからは順に4例 [141, 162, 163, 188] と2例 [144, 145] 知られているにすぎない。ラリタギリの立像のほとんどが同じ様式を持つことはすでに述べたとおりである。この様式はラリタギリ以外からの6例の出土例には見られない。カタックの如来像の大半を占めるラトナギ

りの仏坐像などに比べると、その表現はシンプルで古風な印象を受ける。様式的にはグプタ朝やポスト・グプタ期の如来像に近く、その影響のもとで造像活動が展開したことも予想される。

パーラ朝では、観音、ターラー、マーリーチーなどの光背に密教五仏が表された作品が50例以上知られている（宮治 1993a: 36-44）。この形式もオリッサではほとんど見られず、補陀洛山を表現した観音の光背に五仏を置いた例が4例知られているにすぎない [212-215]。かわって、5尊、7尊あるいは9尊の如来坐像を光背の上部に水平に置いた作品が、観音に3例 [257-259]、ターラーに1例 [527] ある。また、菩薩や女尊の光背の上部に仏坐像を2体左右に配する作品もしばしば見られる。その場合の印相は触地印と定印がほとんどであるが、中心の尊格との関係は明らかではない。

## 菩薩

菩薩のグループを代表する観音（観自在, Avalokiteśvara）は、パーラ朝においても最も人気のあった尊格で、釈迦仏を除けば、その作例数も突出している。パーラ朝の版図からは200例近くの観音の作例が出土しているが、オリッサからも94例を数える。オリッサからの菩薩の出土数は約220例なので、その半数近くを観音が占めることになる。

パーラ朝期はインド仏教の時代区分では密教の時代にはほぼ相当するが、密教系の観音の作例は、パーラ、オリッサとも意外に少ない。オリッサからは金剛界マンダラに現れる金剛法菩薩の作例が4例 [264-267]、六字観音が2例 [268, 269] あるにすぎない。しかもこのうち、独立した作例はラトナギリ第5祠堂の金剛法菩薩 [264]（図106）のみで、他はいずれも奉献塔の龕中の作品である。パーラからはこれら2種類の観音の他に、獅子吼（Simhanāda）、ハーラーハラ（Hālāhala）、青頸（Nilakantha）の3種類の密教系の観音の作例が報告されている。ただし、青頸観音はサルナート出土で、パーラ朝以前のポスト・グプタ期の作品である可能性が高い（佐久間・宮治 1993: 109-111）。また、13例の作例を数える六字観音も、このうち少なくとも3例はパーラ朝以前の時代の作と考えられる<sup>25)</sup>。

これらの密教系の観音を除き、オリッサから出土した観音の作例を臂数にしたがって分類すると、二臂が38例、四臂が30例、六臂が1例となる。同じように、パーラ朝から出土した一般的な観音の作例について見るならば、二臂が63例、四臂が21例、六臂が16例、十二臂が4例となる。両者を比較すると、オリッサからは六臂以上の作例がほとんど認められない点と、四臂の出土数が全体のかかなりの割合を占める点が注目

される。

一方、脇侍をともなう作例について見てみると、少ないもので1尊、多いものでは4尊現れる。4尊の場合、ターラーとブリクティーの2女尊と、ハヤグリーヴァ、スダナクマーラの2男尊の組み合わせである。このような4尊の脇侍をとる菩薩は、多くの場合『サーダナマラー』(Sādhnamālā)などの文献を典拠にカサルパナ観音に比定される<sup>26)</sup>。また、台座部分にスーチームカが表現されるケースも多い。3尊以下の場合、4尊の中からスダナクマーラを除いた3尊、2尊の場合、ターラーとブリクティー、あるいはターラーとハヤグリーヴァの2通りがある。脇侍1尊の作品は、オリッサからはウダヤギリ出土の二臂立像の1例 [227] (図76)に限られるが、脇侍のハヤグリーヴァ (図77)の反対側にスーチームカ (図78)を含む4人の人物が表現され、また台座部分が現存しないため、制作当初も現在と同じ構成であったかは明らかではない。

脇侍と臂数、そして立像、坐像の別という三つの項目にしたがって、さらにくわしく見てみよう。二臂の坐像はいずれも右手で与願印を示し、左手に蓮華を持つ。奉獻塔の龕中の作品を除き、これまで21例を確認した。このうち4脇侍をともなうものが3例 [209, 210, 214]、2脇侍をともなうものが4例ある。2脇侍はターラーとブリクティーの組み合わせが2例 [212, 213]、ハヤグリーヴァとスダナクマーラが1例 [215]、残りの1例 [211]ではブリクティーのみ確認できる。二臂の立像は、前の段落でふれたウダヤギリの立像を除けば、触地印仏坐像の脇侍で、金剛手と対となる蓮華手か、八大菩薩のセットの中の1尊に限られる。前者として、ラトナギリ本堂の右脇侍 [223]があげられる。右手に払子、左手に蓮華を持った姿は、同一の石版に触地印仏坐像と2脇侍をおいた碑像形式の作品 [44, 45]においても見られる。後者はいずれも、すでにふれたラリタギリ出土の立像のセットで、脇侍にターラーとブリクティーを置く2例 [226, 379]と、脇侍をともなわない1例 [225]の3例がある。

二臂観音の場合、坐像が一般的で、立像は作例数も少なく、特異な作例であったのに対し、四臂像では、両者がほぼ同数確認されている。四臂の坐像の場合、ほぼ例外なく右前手で与願印を示し、右後手に数珠、左前手に水瓶、左後手に蓮華を持つ。脇侍は2例で現れ、ターラーとブリクティーという組み合わせである [235, 236]。二臂像に数珠と水瓶を持つ腕を加えた姿とってよいであろう。これに対し、立像は同じ組み合わせの持物、印相をとる他に、数珠に加えて、羂索を持つ例がいくつか現れる [252, 255, 256, 258, 259] (図97, 102)。また、左手の水瓶にかえて羂索を持つ例 [251]や、何も持たずに、脇侍のハヤグリーヴァの頭上にその手を載せた作例

[254] (図90) もわずかではあるが認められる。絹索を持つこのような観音は不空絹索観音に比定されることが多い(佐和 1982: 10-11; 頼富 1990: 633-642)。なお、ウダヤギリからは独特の持物を持つ四臂観音立像 [257] (図94) が出土していることはすでに述べた。水瓶にかわって蛇の巻き付く三叉戟を左手に持つ。

パーラ朝から出土した観音像の場合、四臂像に絹索は現れず、上述の坐像に見られる組み合わせが一般的である。持物に絹索が登場するのは六臂像と十二臂像にそれぞれ2例を数えるにすぎない<sup>27)</sup>。絹索を持つ四臂観音立像は、オリッサ独自のスタイルと見てよいであろう。また、四臂観音立像は2例 [250, 260] を除いて、すべて脇侍をとめない、ターラーとハヤグリーヴァ、あるいはターラーとブリクティーの組み合わせで現れる。脇侍をとまなう四臂観音はパーラ朝からも多数出土しているが、脇侍の組み合わせはターラーとブリクティーの2尊がほとんどである。また、パーラ朝では脇侍のターラーは、右手は与願印を示し、左手は睡蓮を持つという単独像のターラーと同じ姿を示すが、オリッサでは左手に持った未敷睡蓮を右手で開くという独特のしぐさをとることが多い(図96, 99, 103)。また、ブリクティーは四臂をそなえ、このうち、右前手は与願印に宝を持ち、左手には数珠と棒を持って結跏趺坐で坐る(図88, 92, 101)。パーラ朝でもブリクティーの持物は同じであるが、ターラーとともに立像で示される作品も多い。

観音以外の菩薩では、文殊の出土数が比較的多い(森 1996: 55)。全体で47例を数えるが、このうち、約4割の19例は奉献塔の龕中の作品である。密教系の文殊が少ないのは、パーラ朝でも同様で、観音の場合と同じ傾向にある。遊戯坐で坐り、右手は与願印を示し、左手に梵夾を載せた睡蓮を持つ姿が最も一般的である。パーラ朝では梵夾を載せずに睡蓮のみを持つ作例もしばしば見られたが、オリッサから出土したこのタイプの文殊は、いずれも梵夾をあわせ持つ。立像も同じ持物であるが、女性脇侍をとまなうケースが、大規模な作品に見られる。水牛にまたがるヤマーンタカを脇侍とする文殊 [334] が、ウダヤギリ近郊から出土したことはすでにふれたが、立像のヤマーンタカをとまなう作品もラリタギリに1例ある [327]。

弥勒は単独像がラトナギリに7例(うち2例は奉献塔の龕中の作品)、八大菩薩のセットがラリタギリから2例ある。9例のうち、右手で与願印を示す立像が3例、坐像が2例、施無畏印を示す坐像が3例、そして転法輪印を示す坐像が1例となっている。坐法はいずれも遊戯坐である。左手の持物には、弥勒固有の持物である龍華が確認できるが、頭前に示す仏塔の浮彫が明瞭に表現された例は少ない。1例のみ、龍華の上に水瓶を置いた作例が現れる [346]。

密教の教学上は同一視される金剛手と金剛薩埵は、図像学的には明白に区別される。オリッサの場合、金剛手は金剛杵を水平に載せた睡蓮を左手に持つ。8例のうち1例 [350] を除き、円筒形の宝冠をいただき、右手に払子を持つ例も多い。蓮華手と一対で仏の脇侍となるか、あるいは八大菩薩の中の1尊として制作された。これは二臂の観音立像と同じである。ただし、ウダヤギリ出土の1例 [353] のみは遊戯坐で坐り、右手の掌の上に直立した金剛杵を持ち、左手には睡蓮を持つ。これはパーラ朝の金剛手と同じ特徴で、逆にパーラ朝からはオリッサで一般的なタイプの金剛手は出土していない<sup>28)</sup>。一方の金剛薩埵は半跏坐、もしくは結跏趺坐で坐り、右手は金剛杵を胸の前で保ち、左手は金剛鈴を握り、腰に当てる。これはパーラ朝の金剛薩埵と同じである。金剛手に比べて成立の新しい金剛薩埵の場合、固定的なイメージが地域を超えて受け入れられたのであろう。

## 女尊

如来や菩薩に比較して、女尊の作例は尊格の種類がきわめて多い。そして、それぞれが独自の図像的な特徴をそなえ、文献の記述にもよく合致する。その中で最も出土数が多いのがターラー (Tārā) である。119例中の52例を占める<sup>29)</sup>。これにマーリーチー (Māricī) の25例、チュンダー (Cundā) の14例、ヴァスダーラー (Vasudhārā) の7例が続くが、ターラーに比べるとその出土数はかなり小さい。そして、それ以外の尊格は2、3点という数が知られているにすぎない。

これらの尊格の種類と出土数の割合をパーラ朝の女尊と比較してみると、ほぼ同じような傾向を示していることがわかる。やはり圧倒的にターラーの出土数が多く、マーリーチー、チュンダーが続く。弓矢を持物とするクルクッラー (Kurukullā) はパーラ朝からの出土数はなく、オリッサからは4例を数える。また、マーリーチーやチュンダーは、オリッサの作例数がパーラ朝のそれとほぼ同数、あるいはそれを上回る。

オリッサから出土した一般的なターラーは坐像が圧倒的で、単独の立像は1例 [523] のみである。パーラ朝からは約100例のターラーのうち、坐像、立像がほぼ半数ずつを占めた。坐像のターラーの図像的な特徴はほぼ一定している。右手に与願印を示し、左手に睡蓮を持つ。坐法は遊戯坐である。脇侍をともなうターラーの立像はパーラ朝からは16例を数えたが、オリッサからはわずかに3例で、しかも脇侍の特徴はパーラ朝のそれと一致しない<sup>30)</sup>。密教系のターラーとしては、金剛ターラー (Vajratārā) が2例、八難救済ターラー (Aṣṭamahābhayatārā) が2例、カディラヴァニー・ターラー (Khadiravanītārā) が1例、ドゥルゴーターリニー・ターラー



(Durgottārinītārā) が2例となっている。いずれも数の上ではきわめてわずかであるが、文献の記述にもよく符合したすぐれた作品が多い。とくに八難救済ターラーは2例ともラトナギリから出土した大規模な作品で、比較的小品が多いオリッサの女尊像としてはめずらしい<sup>31)</sup>。

密教文献の中では、女尊は如来や菩薩に比べて仏教パネオンの中に新しく登場したグループである。密教の萌芽期に陀羅尼信仰から多様な女尊が現れ、後期密教にいたってダーキニー (Dākinī) やヨーギニー (Yoginī) と呼ばれる多くの女尊たちが量産された。その中で、菩薩の観音にも比肩しうる人気を誇ったのがターラーで、先述のような密教系のターラーが何種類も生み出されることになる。ちょうど、観音や文殊に特定の名を冠した尊格が現れることと同様である。オリッサやベンガル、ビハールから出土した女尊の種類をながめると、出土数の多い尊格は、チェンダーやマーリーチーのように陀羅尼から生み出された女尊など、比較的、古い時代から信仰された女尊たちであることがわかる。ハーリーティー (Hārītī) やアパラージター (Aparājītā), ヴァスダーラーなどもその起源は古い<sup>32)</sup>。その一方で後期密教に属するダーキニーやヨーギニーの作例はまったく見られない。文献の中では次々と、いわば人工的な女尊が生み出されていった中で、造像の場面では保守的ともいえる考え方が支配的であったことが予想される。これは、男尊の場合でも、次に取り上げる忿怒形の密教尊の出土数が意外に少なく、釈迦仏や大乘仏教の代表的な菩薩たちが大半を占めることと同様である。ただし男尊に比べ、女尊の場合は図像学的特徴の地域的な差異は顕著ではなく、しかも文献の記述に忠実な作例が多い。如来像や主要な菩薩が古くからの図像の伝統を持っていたことは事情が異なり、文献においてすでに図像上の特徴が確立した時代に、広い範囲で制作が始められたことを示唆している。

### 忿怒尊・財宝神

忿怒形をとる密教仏の作品は、カタック地区から14例出土している。このうち、注目すべき作品としては、サンヴァラ像2点 [539, 540] (図155)、ヘルカ像1点 [542] がある。いずれもラトナギリ出土で、この地で母タントラ系の密教が流行した時代があったことを示している。サンヴァラ像は2点ともほぼ同じ様式、同じ特徴を持ち、文献の記述にも忠実である<sup>33)</sup>。ヘルカ像は、奉獻塔の龕中にも小さな作品が2点あるが、上述のものは像高2メートル近い大作である。サンヴァラもヘーヴァジュラもパーラ朝の密教美術において、比較的人気のあった忿怒尊である (森雅秀 1990: 82-89)。この2尊の他に、マハーカーラもパーラからは出土例が多く、9点を

数えるが、オリッサからは1点のみである[536]。しかもパーラ朝のマハーカーラが、いずれも一面二臂、もしくは一面四臂であるのに対し、この作品の尊像は三面六臂をそなえる。表面の磨滅が著しいため、持物をはじめとする図像上の特徴を欠き、比定の根拠を見いだしがたく、他の尊格の可能性も高い。

ジャンバラ、あるいはクベーラと呼ばれる財宝をつかさどる男尊は、オリッサにおいてかなりの人気があったようである<sup>34)</sup>。カタックから22例の出土を確認している。パーラ朝からは約30例であった。肥満した姿をとり、例外なく坐像で表される。右手にはシトロンの果実を持ち、左手にはマングースを持つ。マングースの口から宝石がこぼれている作例もある。台座や光背にしばしば複数の壺が表現されるが(図159, 160)、財宝のつまった壺で、これが富の象徴であることは言うまでもない。これらの財宝神は多くの場合、ハーリーティーやヴァスダーラーなどのやはり富や豊穡に関係を持つ女尊と対になって僧院の入口に置かれたらしい。ラトナギリでは現在でも第1僧院の入口の左右に安置された一対の像があり、ラリタギリでも収蔵庫の入口に向かい合わせに置かれている(図159)。

#### 4. お わ り に

オリッサ州からの密教美術の作例を、カタック地区の3遺跡を中心に概観し、遺跡ごとの出土品の傾向と、主要な尊格の図像学的特徴を呈示した。

従来、インドの密教美術は、パーラ朝の版図であったビハール地方とベンガル地方の出土品を中心として論じられることが多かった。しかし、今回、オリッサ州、とくにカタック地区から出土した作品のデータを網羅的に集積し、尊像の種類や図像学的特徴をてがかりに分類することによって、同じ密教美術でありながら、オリッサにはパーラ朝とは異なる独特の図像体系があることが明らかになった。とくに如来、菩薩のグループにおいては、オリッサの独自性は顕著である。一方、女尊や忿怒尊では、比較的、パーラ朝の密教美術に近い傾向を有する。

密教図像の研究は、文献の記述にもとづき、それに合致する作品を示すという方法がしばしばとられる<sup>35)</sup>。しかし、インド密教の時代においては実際に制作されたイコンは、密教系の尊格よりも大乘仏教の時代に信仰を集めた尊格が圧倒的多数を占める。如来のジャンルでは釈迦、菩薩では観音、文殊、弥勒、女尊ではターラー、マーリーチーなどが、この時代でも依然として人気を集めていた。文献に記された、いわば理念的なパネトンと、実際に制作され、寺院に安置された尊像の集合体の間には、か

なりの開きがあるのである。そして、現実のパンテオン、すなわち図像作品の構成自体も、ベンガル・ビハール地方とオリッサ地方との間では異なった様相を示し、さらに、オリッサ内部でも地域や遺跡による明らかな差異が存在していた。このような地域的な差異は、パーラ朝以前のグプタ期やポスト・グプタ期の仏教美術、たとえばサールナートや西インドの石窟寺院などを視野に入れて考察しなければならない。本稿では取り上げなかったオリッサ美術の編年の問題を含め、この地域の仏教美術の研究は、作例や遺跡ごとのデータの積み重ねという精緻な視点と、インドにおける仏教美術の流れという巨視的な視点とをあわせ持つて進める必要があるであろう。

## 謝 辞

本稿は1995年3月と1996年1月の2回にわたって実施した、オリッサ州を中心とした密教美術の現地調査にもとづく。調査に当たっては Archaeological Survey of India, Orissa State Museum, National Museum (New Delhi), Indian Museum (Calcutta), Patna Museum の各機関にご協力いただいた。また現地ではウトカル大学教授 S. Sarangi 博士、プーナ大学助手 Y. Kar 博士、オリッサ州立博物館の管理部長 B. Samal 博士に便宜をはかっていただいた。本稿の内容の一部は以下の3回の研究会において発表した。高野山大学密教文化研究所講演会（1995年9月26日）、国立民族学博物館平成9年度共同研究会（1997年12月4日）、美術史学会西支部例会（1998年3月21日）。いずれの研究会においても出席された方々から多くの貴重なご助言をいただいたことに感謝したい。なお本稿は平成10年度国立民族学博物館共同研究会（代表・立川武蔵教授）の研究成果の一部である。また、本稿は平成10年度文部省科学研究費補助金による基盤研究（C）（2）「オリッサ州カタック地区の密教図像の研究」（代表・森雅秀、課題番号08610026）による研究成果の一部でもある。

## 注

- 1) *Buddhist relics of Orissa* (Department of Tourism, Government of Orissa n.d.)。A2版程度の大きさの紙の両面に印刷されている。カタック地区の尊像の写真として、ラトナギリ出土の仏頭 [178]、ウダヤギリの僧院本尊の触地印仏坐像 [30]、金剛手坐像 [353]、八大菩薩をともしらぬ転法輪印仏坐像 [14]、ヴェジュラギリ出土の四臂金剛手立像 [355] が掲載されている。[ ]内の数字は後掲の作例リストの通し番号を示す。
- 2) オリッサの仏教の歴史については頼富 (1982b) にまとめられている。
- 3) Goetz (1966: 23)
- 4) Mitra (1981: 17-21) 参照。各遺跡の編年については今回取り上げない。筆者は未見であるが、Malandra (1993: 21) によれば Hock (1987) にも編年に関する議論があるらしい。
- 5) ナーランダーについては Stewart (1989) がくわしい。ヴィクラマシーラについては本格的な調査報告は刊行されていないが、Asher (1975)、佐和 (1982)、Srivatsava (1987) が参考になる。
- 6) *Annual Report of the Archaeological Survey of India, 1957-1958, 1958-1959, 1960-1961*.
- 7) 佐和 (1968) は、ラトナギリ遺跡に関する佐和氏の初期の論文である。また報告書 (佐和

- 編 1982) がまとめられる前に佐和 (1981) が発表されている。
- 8) 定方 (1997)。なお、同論文所収の図版については、尊像を被写体としたものの大半が Mitra (1981; 1983) からの複写であるため、後掲のリストには含まれていない。
  - 9) これまでの成果には、宮治 (1993a; 1995)、森雅秀 (1990; 1996; 1997b; 1998)、森喜子 (1990-1992)、佐久間 (1991; 1992)、佐久間・宮治 (1993) がある。本稿でもこれらの成果を利用した。ただし、女尊、観音については筆者独自の資料も用いて、これらのリストを補ったため、作例数は一致しない。
  - 10) この調査をふまえた研究成果として、すでにいくつかの論考を発表している (森 1996; 1997a; 1997b; 1998)。
  - 11) ただしリスト掲載の作品が必ずしもすべて重複分とは考えられず、おそらく実際の奉獻塔の数はこれよりも若干大きくなるであろう。
  - 12) 定方 (1997: 16) には4つの僧院が発掘されたという記述がある。
  - 13) 蛇の傘蓋を持つ定印仏坐像 [115] がウダヤギリからも出土している。また、グプタ期のジャイナ教尊像にも、ラリタギリの坐像に類似した蛇の光背と頭光が認められる (Williams 1982: Pl. 88)。
  - 14) 各セットの内容は以下の通り。火炎の光背をそなえる作品: 観音 [226], 金剛手 [350], 弥勒 [339], 文殊 [332], 虚空蔵 [369], 普賢 [375], 除蓋障 [377]。やや細長い石版の作品: 観音 [379], 金剛手 [351], 弥勒 [378], 文殊 [327], 虚空蔵 [370], 普賢 [373], 除蓋障 [376], 地藏 [380, 372]。その他の作品: 観音 [225], 弥勒 [338], 文殊 [333], 普賢 [374], 地藏 [371], 文殊? [326]。
  - 15) この仏塔の詳細と、四仏の構成の意義については頼富氏による論考がある (1992a; 1992b)。
  - 16) 1995年8月29日付 The Times of India, Bombay に “Buddha statue loses head to smugglers” と題して報告されている。この件については奈良教育大学助教授山岸公基氏のご教示による。
  - 17) これについてはすでに宮治 (1995: 18) に示されている。頼富氏は内の四供養菩薩に比定する (1992b: 115-116)。
  - 18) ただし1996年1月にはふたたび土の中に埋められていた。
  - 19) これらの作品については佐和 (1982: 38) にも言及され、このうちヤムナーはおそらくパトナ博物館所蔵のガンガー像 [423] と一対のものであることはすでに指摘されている。
  - 20) 校名は Kalasrigopal Purme School。遺跡の山麓の南側にある。
  - 21) 図版は Saraswati (1977: Pl. 17), 森雅秀 (1990: 図3), 頼富・下泉 (1994: 170) などに掲載されている。
  - 22) キッチング (Khiching) からは頭上に樹木を置き、左右に八大菩薩を配した触地印仏坐像が1例出土している [39]。ラトナギリの本尊 [53] は単独の脇侍菩薩を左右に配するが、中尊の頭上に樹木の浮彫がある。パトナ博物館所蔵の観音と文殊を脇侍とする坐像にも樹木のモチーフがある [46]。また脇侍に菩薩坐像を置く触地印仏坐像に1例 [47]、マールと見られる浮彫が台座に現れる。一方、頭上に樹木のモチーフが現れるのは、触地印仏坐像には限定されているが、ラトナギリ出土の与願印仏坐像に1例 [98]、類似のモチーフが認められる。
  - 23) 宮治 (1992) 第II部, 第2章, 第5章参照。
  - 24) (頼富 1982a: 38-43; 石黒 1985: 189)
  - 25) (佐久間 1992: 図1 (B-M5a-P2-1); Saraswati 1977: Pl. 43 (A-M5a-P2-7); Banerji 1933: Pl. LXIX(c))
  - 26) (Bhattacharyya 1968a: Nos. 13-16, 24, 26; 肥塚 1967; 佐久間 1995)
  - 27) 前者が (Saraswati 1977 Pl. 76; 佐久間・宮治 1993: 図3 (C-S1-S2a-S2e-3); Banerji 1933: Pl. VIII(a); Mallmann 1948: Pl. IX(b); Huntington 1984: Pl. 115; 佐久間・宮治 1993: C-S1-S2a-S2e-2), 後者が (Banerji 1933: Pl. XXXIV(a); 佐久間・宮治 1993: E-1; Asher 1980: Pl. 163; 頼富 1990: 図24; 佐久間・宮治 1993: E-3)。
  - 28) パーラ朝の金剛手の作例としては (Banerji 1933: Pl. XXXVII(a); Saraswati 1977: Pl. 166; Raven & van Kooij 1986: Fig. 52) などがあげられる。ただし、ビハール地方からも蓮華手と金剛手を脇侍とする作例が1例ある (森 1997b: 図3)。なお、インドの金剛手と金剛薩埵の作例については (森 1997b) において詳しく述べた。
  - 29) ただしこれには奉獻塔の作品の一部が含まれるにすぎない。中村 (1982: 165) によればラトナギリ出土の奉獻塔で、ターラーの浮彫のある作例は137例ある。

- 30) パーラ朝出土のターラーで脇侍をともなう作例については森喜子 (1993) 参照。  
 31) 八難救済ターラーについては頼富 (1984; 1990: 642-655) 参照。  
 32) これらの女尊についての先行研究には (宮坂 1981; 島 1987; 宮治 1993b) などがある。  
 33) サンヴァラの作例と文献との対応については森雅秀 (1990: 74; 1993: 225-228) 参照。  
 34) インドの財宝神については頼富 (1991b) がくわしい。拙稿 (1990) においても取り上げた。  
 35) 代表的なものとしては『サーダナマーラー』と『ニシュパンナヨーガーヴァリー』 (Niṣpannayogāvalī) にもとづく Bhattacharyya (1968a) があげられる。

## 文 献

- Asher, F. M.  
 1975 Vikramaśīla Mahāvihāra. *Bangladesh lalit kala* 1 (2), 107-113.  
 1980 *The art of eastern India, 300-800*. Delhi: Oxford University Press.
- Banerji, R. D.  
 1933 *Eastern Indian school of mediaeval sculpture* (Archaeological survey of India, New imperial series, XLVII). Delhi: Manager of Publications.
- Bautze-Picon, C.  
 1991/1992 Lakhi Sarai: an Indian site of late Buddhist iconography, and its position within the Asian Buddhist world. *Silk road art and archaeology* 2, 239-273.
- Bénisti, M.  
 1981 *Contribution à l'étude du stūpa bouddhique indien: les stūpa mineurs de Bodh-Gayā de et de Ratnagiri* (Publication de l'École Française d'Extrême-Orient Vol. 125). Paris: École Française d'Extrême-Orient.
- Bhattacharyya, B.  
 1968a (1958) *The Indian Buddhist iconography mainly based on the Sāghanamālā and other cognate Tantric texts of rituals*. 2nd ed. Calcutta: K. L. Mukhopadhyay.  
 1968b (1925) *Sāghanamālā* (2 vols.). (G.O.S. Nos. 26, 41). Baroda: Oriental Institute.
- Department of Tourism, Government of Orissa  
 n.d. *Buddhist relics of Orissa*.
- Donaldson, T.  
 1986 *Hindu temple art of Orissa*, Vol. 2. Leiden: E. J. Brill.  
 1995a Orissan images of Vārāhī, Oḍḍiyāna Mārīcī and related sow-faced goddesses. *Artibus asiae* 55 (1-2), 155-182.  
 1995b Probable textual sources for the Buddhist sculptural maṇḍalas of Orissa. *East and west* 45 (1-4), 173-204.
- Ghosh, M.  
 1980 *Development of Buddhist iconography in eastern India: a study of Tārā, Prajñā of Five Tathāgatas and Bhṛkūṭī*. New Delhi: Mushiram Manoharlal Publishers.
- Goetz, H.  
 1966 Pāla-Sena schools. *Encyclopedia of world arts*. vol. XI, pp. 21-37.
- Gupta, P. I.  
 1965 *Patna museum catalogue of antiquities*. Patna: Patna Museum.
- Hock, N.  
 1987 *Buddhist ideology and the sculpture of Ratnagiri, seventh through thirteenth centuries*. Ph. D. Dissertation, Berkeley: University of California.
- Huntington, S. L.  
 1984 *The "Pāla-Sena" schools of sculpture* (Studies in South Asian culture Vol. X). Leiden: E. J. Brill.  
 1985 *The art of ancient India*. Tokyo: John Weatherhill.
- Huntington, S. L. & J. C. Huntington

- 1990 *Leaves from the bodhi tree: the art of Pala India (8th-12th centuries) and its international legacy.* Seattle: The Dayton Art Institute.
- 石黒 淳  
1985 「金剛手の系譜」『密教美術大観 第三巻』pp. 181-191, 東京: 朝日新聞社。
- 岩宮武二  
1989 『アジアの仏像 (上)』東京: 集英社。
- 肥塚 隆  
1967 「瞑想と造型」『南都仏教』20, 60-79。
- Kramrisch, S.  
1960 *Indian sculpture.* Philadelphia: Philadelphia University Press.  
1983 *Exploring India's sacred art: selected writings of Stella Kramrisch.* Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Malandra, G. H.  
1993 *Unfolding a mandala: the Buddhist cave temples at Ellora.* Albany: State University of New York Press.
- Mallmann, M.-T. de  
1948 *Introduction a l'étude d'Avalokitesvara.* Paris: École Française d'Extrême-Orient.
- Mitra, D.  
1978 *Bronzes from Achutrajpur, Orissa.* Delhi: Agam Kala Prakashan.  
1981 *Ratnagiri (1958-61)* (Vol. I. Memories of the archaeological survey of India, No. 80). New Delhi: Archaeological Survey of India.  
1983 *Ratnagiri (1958-61)* (Vol. II. Memories of the archaeological survey of India, No. 80). New Delhi: Archaeological Survey of India.
- 宮治 昭  
1981 『インド美術史』東京: 吉川弘文館。  
1992 『涅槃と弥勒の図像学』東京: 吉川弘文館。  
1993a 『インドのパラ朝美術の図像学的研究』(平成3・4年度科学研究費補助金研究成果報告書)。  
1993b 「インドの地天の図像とその周辺」『宮坂宥勝博士古稀記念論文集——インド学密教研究』pp. 877-908, 京都: 法蔵館。  
1995 「インドの大日如来の現存作例について」『密教図像』14, 1-30。
- 宮坂宥勝  
1981 「HĀRITĪ 考」『勝又俊教博士古稀記念論集——大乘仏教から密教へ』pp. 365-584, 東京: 春秋社。
- 森 雅秀  
1990 「パラ朝の守護尊・護法尊・財宝神の図像的特徴」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』6, 69-111。  
1993 「サンヴェラマンドラの図像学的考察」立川武蔵編『曼荼羅と輪廻』pp. 206-234, 東京: 佼成出版社。  
1996 「パラ朝の文殊の図像学的特徴」『高野山大学論叢』31, 55-98。  
1997a 「オリッサ州立博物館の密教美術」『高野山大学密教文化研究所紀要』10, 29-70。  
1997b 「パラ朝の金剛手・金剛薩埵の図像学的特徴」『密教図像』16, 35-58。  
1998 「パラ朝の弥勒の図像学的特徴」『高野山大学密教文化研究所紀要』11, 1-38。
- 森 喜子  
1990 「パラ朝の女尊の図像的特徴(1)」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』6, 113-155。  
1991 「パラ朝の女尊の図像的特徴(2)」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』7, 155-192。  
1992 「パラ朝の女尊の図像的特徴(3)」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』8, 69-114。  
1993 「パラ朝のターラーに関する図像的考察——三尊形式を中心として」『宮坂宥勝博士古稀記念論文集——インド学密教研究』pp. 827-848, 京都: 法蔵館。
- 中村涼一

- 1982 「奉獻ストゥーパの類型と本尊」佐和隆研編『密教美術の原像』pp. 158-167, 京都：法蔵館。
- Panigrahi, K. Ch.  
1957 Bhauma art and architecture of Orissa. *Arts asiatiques* 4(4), 275-292.
- Raven, E. M. & K. R. van Kooij  
1986 Pāla-Sena stone sculptures from the National Museum of Ethnology. In E. M. Raven and K. R. van Kooij (eds) *Indian art and archaeology*, pp. 94-128. Leiden: E. J. Brill.
- 定方 晟  
1997 「オリッサ州の仏教遺跡」『東海大学紀要文学部』67, 1-24.
- Sahu, N. K.  
1958 *Buddhism in Orissa*. Cuttack: Utkal University.
- 佐久間留理子  
1991 「パーラ朝における観自在菩薩の図像的特徴(1)」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』7, 109-148。  
1992 「パーラ朝における観自在菩薩の図像的特徴(2)」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』8, 95-110。  
1995 「カサルパナ世自在成就法の和訳・解説」『南都佛教』71, 13-27。
- 佐久間留理子・宮治昭  
1993 「パーラ朝における観自在菩薩の図像的特徴(3)」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』9, 107-129。
- Saraswati, S. K.  
1977 *Tantrayāna art: an album*. Calcutta: Asiatic Society.
- 佐和隆研  
1962 『仏像図典』東京：吉川弘文館。  
1968 「インド・ラトナギリの仏教遺蹟」『仏教芸術』67, 99-108。  
1981 「インド・オリッサ州の仏教遺蹟」『仏教芸術』136, 11-24。
- 佐和隆研編  
1982 『密教美術の原像』京都：法蔵館。
- 島 岩  
1987 「仏教に取り入れられたヒンドゥー教の神 ヴェスダーラー」『日本仏教学会年報』52, 43-55。
- Srivatsava, K. M.  
1987 The lost university of Vikramasila. *Art of asia* 17(7), 44-55.
- Stewart, Mary L.  
1989 *Nālandā Mahāvihāra: a study of an Indian Pāla period Buddhist site and British historical archaeology, 1861-1938* (BAR international series 529). Oxford: BAR.
- Williams, J. G.  
1982 *The art of Gupta India: empire and province*. Princeton: Princeton University Press.
- Willems, W.  
1963 An 8th century Buddhist monastic foundation. *Oriental art* 9(1), 15-21.
- 頼富本宏  
1981 「インド密教遺跡調査中間報告(上)」『密教学』18, 51-81。  
1982a 「金剛薩埵図像覚え書き(上)」『密教図像』1, 30-45。  
1982b 「オリッサの歴史——宗教史を中心として」佐和隆研編『密教美術の原像』pp. 75-90, 京都：法蔵館。  
1983 「密教美術の源流」『密教美術大観 第一巻』pp. 182-195, 東京：朝日新聞社。  
1984 「八難救済ターラー考」『インド古典研究』5, 423-442。  
1985 「仏塔周囲の四尊像について」『密教文化』150, 107-125。  
1988a 「インド現存の文殊菩薩像」『成田山仏教研究所紀要』(仏教思想史論集I) 11, 683-719。  
1988b 「パーラ朝期の文殊菩薩像」『仏教芸術』178, 102-120。  
1990 『密教仏の研究』京都：法蔵館。  
1991a 「中インド・シルブル遺跡の仏教美術」『仏教芸術』191, 40-57。

森 オリッサ州カタック地区の密教美術

1991b 「インド現存の財宝尊系男女尊像」『井原照蓮博士古稀記念論文集』pp. 267-299, 福岡：九州大学印度哲学研究室。

1992a 「インド現存の金胎融合要素」『密教学研究』24, 11-30。

1992b 「東インド・オリッサ州所在ウダヤギリ遺跡の新発掘」種智院大学学舎竣工記念論文集刊行会編『仏教万華——種智院大学学舎竣工記念論文集』pp. 107-127, 京都：永田文昌堂。

1993 「インド現存のヘルカ系尊像」『宮坂宥勝博士古稀記念論文集——インド学密教学研究』pp. 849-876, 京都：法蔵館。

頼富本宏・下泉全暁

1994 『密教仏像図典——インドと日本のほとけたち』京都：人文書院。



オリッサ州出土仏教図像作例リスト

凡 例

- 番号 (1) 尊名  
 (2) 出土地；所在あるいは所蔵者  
 (3) データ：材質，年代，法量等。  
 (4) 出典：著者名，刊行年，図版番号の順に記載。複数の文献に含まれる場合，刊行年代にしたがう。[ ] 内の番号は後掲の写真図版の番号を示す。  
 (5) 図像学上の特徴等：印，持物，装身具，坐法，光背，台座，保存状況等について記載。

目 次

※数字は作例リストの通し番号を示す。

	印不明の坐像・断片	136
	立像	
	三道宝階降下	141
	与願印	146
	施無畏印	151
	その他の印	162
	印不明	163
	断片	171
	仏頭	178
	菩薩	
	観音	
	二臂坐像	195
	奉献塔の龕	216
	二臂立像	223
	四臂坐像	233
	四臂立像	248
	六臂立像	263
	金剛法	264
	六字観音	268
如来		
坐像		
胎藏大日(定印)	1	
転法輪印坐像	9	
触地印坐像	21	
単独の触地印坐像	21	
八大菩薩をともなう触地印坐像	36	
四親近をともなう触地印坐像	41	
二脇侍菩薩をともなう触地印坐像	44	
特定の一尊をともなう触地印坐像	51	
光背に樹木の装飾のある触地印坐像	53	
飛天のみをともなう触地印坐像	66	
その他・不明	75	
断片	77	
奉献等の龕	85	
与願印坐像	97	
定印坐像	105	
施無畏印坐像	125	

断片 …………… 270

文殊  
アラパチャナ …………… 289  
マンジュヴァラ …………… 294  
スティラチャクラ …………… 303  
遊戯坐 …………… 304  
輪王坐 …………… 320  
結跏趺坐 …………… 324  
立像 …………… 325  
断片 …………… 336

弥勒  
立像 …………… 337  
坐像・与願印 …………… 340  
坐像・施無畏印 …………… 343  
坐像・転法輪印 …………… 346

金剛手 …………… 348

金剛薩埵 …………… 357

その他の菩薩  
八大菩薩単独像 …………… 369  
未比定菩薩像 …………… 381

女尊  
アパラージター …………… 415  
ウシュニーシャヴィジャヤー …………… 418  
クルクッラー …………… 419  
ガンガー …………… 423  
チュンダー …………… 424  
バルナシャバリ …………… 438  
般若波羅蜜 …………… 439  
ブリクティ …………… 442  
マリーチ …………… 444  
ヤムナー …………… 469  
ヴェジュラヴァーラーヒ …………… 471  
ヴァスダーラー …………… 472  
サットヴァヴァジュリー …………… 479

ハーリーティ …………… 480  
ターラー  
遊戯坐 …………… 482  
奉獻塔の龕 …………… 506  
結跏趺坐 …………… 520  
単独の立像 …………… 523  
脇侍をともなう立像 …………… 524  
八難救済ターラー …………… 527  
カディラヴァーニターラー …………… 529  
ドゥルゴターリニターラー …………… 530  
金剛ターラー …………… 532

忿怒尊・財宝神

チャンダマハーローシャナ …………… 534  
マハーカーラ …………… 536  
ヤマーンタカ …………… 537  
サンヴァラ …………… 539  
ハヤグリーヴァ …………… 541  
ヘルカ …………… 542  
不明 …………… 545  
ジャンバラ …………… 548

如来

坐像

胎蔵大日（定印）

- 1 (1) Vairocana  
(2) Ratnagiri; 遺跡に隣接する学校の校庭  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: カラー口絵 2, 66図; 宮治 1995: 図 5; Donaldson 1995b: Fig. 7  
(5) 定印。結跏趺坐。髪を結び、垂髪。三面頭飾。璽珞, 臂釧, 条帛, 耳飾り。卵形の頭光。蓮台。
- 2 (1) Vairocana  
(2) Ratnagiri; 第 5 祠堂  
(3) Stone

- (4) Bénisti 1981: Fig. 133; 佐和 1982: 口絵10, 58図; 頼富 1981: 写真1; 1983: 図4; 1990: 図5; 1992a: 図1; Mitra 1983: Pl. CCXXXVIII; Donaldson 1995b: Fig. 8
- (5) 定印。結跏趺坐。髪を結び、垂髪。瓔珞、臂釧、腕釧、聖紐。卵形の頭光。蓮台。光背向かって左上に坐像。台座に帰依者。台座向かって右に展左で立つ忿怒尊の浮彫 [534]。第4祠堂の本尊。右手に金剛薩埵 [357], 左手に金剛法菩薩 [264] が位置する。Mitra の図版に比べると現状はかなり磨滅が進んでいる。
- 3 (1) Vairocana  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 42図  
(5) 定印。結跏趺坐。光背向かって左上に2体の坐像。佐和 (1982) によれば1体は金剛薩埵。頭部欠損。
- 4 (1) Vairocana  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 挿図87; 88図; 宮治 1995: 図2  
(5) 定印。結跏趺坐。如来形。長橢円形の龕の中の浮彫。上部左右に飛天。頭部欠損。
- 5 (1) Vairocana  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 口絵13, 80図; 頼富 1981: 写真2; 1983: 図3, 1990: 図9; 頼富・下泉 1994: 72; 宮治 1995: 図1; Donaldson 1995b: Fig. 6  
(5) 定印。結跏趺坐。如来形。卵形の頭光。上部左右に飛天。台座左右に獅子。佐和 (1982) によれば、光背に法身偈文と大日如来真言。
- 6 (1) Vairocana  
(2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4) 頼富 1992a: 図5; 1992b: 図5; 頼富・下泉 1994: p. 72; 宮治 1995: 図3; Donaldson 1995b: Fig. 4 [図11~13]  
(5) 定印。結跏趺坐。垂髪。一面頭飾。装身具は付けない。卵形の頭光。菩薩脇侍。右脇侍は文殊, 左脇侍は除蓋障。台座に2竜王。上部左右に飛天。スツーパーの四方に置かれた四仏の中の1体。北に位置する。脇侍菩薩は八大菩薩の中の2尊。
- 7 (1) Vairocana  
(2) Udayagiri; Solapura Mā Temple, Cuttack  
(3) Stone  
(4) Sahu 1958: Fig. 14  
(5) 定印。結跏趺坐。菩薩形。光背左右上部に坐像。台座に帰依者。
- 8 (1) Vairocana  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Bénisti 1981: Fig. 134; 佐和 1982: 口絵7, 30図; Mitra 1983: Pl. CCLX; 頼富 1990: 図64; 宮治 1995: 図6; Donaldson 1995b: Fig. 12  
(5) 定印。髪を結び、垂髪。結跏趺坐。菩薩形。三面頭飾。瓔珞、臂釧、聖紐。光背左右に八大菩薩。台座左右に象と獅子, 供養者。
- 転法輪印坐像
- 9 (1) Vairocana  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 43 cm, 11 c (宮治)  
(4) Mitra 1981: Pl. CXXXIX; Bénisti 1981: Fig. 168; 宮治 1995: No. 12  
(5) 転法輪印。結跏趺坐。如来形。光

- 背左右に四体の遊戯坐の菩薩。向かって左上が観音，左下が文殊，右上が金剛手，右下が弥勒。光背上部中央に樹木の浮彫。左右に飛天。台座中央に法輪と二鹿。三葉龕の光背。
- 10 (1) Vairocana  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone, 8 c (宮治)  
 (4) 宮治 1995: No. 9 [図14]  
 (5) 転法輪印 (智拳印?)。結跏趺坐。如来形。二菩薩脇侍。台座中央に法輪と二鹿。左右に帰依者。頭部欠損。表面は磨滅が著しい。
- 11 (1) Vairocana?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図15]  
 (5) 転法輪印?。如来形。結跏趺坐。左右に扠子を持った菩薩脇侍。光背上部に飛天。台座に法輪と二鹿。
- 12 (1) Vairocana  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone, 8 c (宮治)  
 (4) 宮治 1995: 図11, No. 8  
 (5) 転法輪印 (智拳印?)。結跏趺坐。如来形。光背上部左右に飛天。台座中央に法輪と二鹿。左右に帰依者。脇侍をのぞき前例に類似。
- 13 (1) Vairocana  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone, 180 cm, 9 c (宮治)  
 (4) 頼富 1992a: 図6; 1992b: 図4; 頼富・下泉 1994: 図経, 74; 宮治 1995: 図12, No. 10; Donaldson 1995b: Fig. 13 [図16~18]  
 (5) 転法輪印 (智拳印?)。髮鬘冠。垂髮。結跏趺坐。菩薩形。瓔珞, 臂釧, 腕釧, 聖紐, 冠帶, 耳飾り。周囲に内の四供養菩薩。光背上部向かって左に金剛華, 右に金剛燈,
- 台座向かって左に金剛香, 右に金剛塗香。
- 14 (1) Vairocana  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone, 8-9 c (宮治)  
 (4) 頼富 1992a: 図3; 宮治 1995: 図13, No. 11; Donaldson 1995b: Fig. 11 [図19]  
 (5) 転法輪印。如来形。結跏趺坐。光背と台座左右に八大菩薩。台座に法輪と二鹿, 供養者。
- 15 (1) Buddha  
 (2) Khadipada; Orissa State Mus.  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 48  
 (5) 転法輪印。如来形。結跏趺坐?。頭部, 上半身, 台座部のみ残存。
- 16 (1) Vairocana?  
 (2) Bhuvaneswar; Orissa State Mus.  
 (3) Black Stone, 10 c  
 (4) 森 1997a: 図5, No. 1  
 (5) 転法輪印。菩薩形。結跏趺坐。宝冠, 瓔珞?。
- 17 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXV (A)  
 (5) 転法輪印。菩薩形。結跏趺坐。奉献塔龕中の浮彫。
- 18 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXV (B)  
 (5) 転法輪印。菩薩形。結跏趺坐。奉献塔龕中の浮彫。
- 19 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIV (D)  
 (5) 転法輪印。菩薩形。結跏趺坐。奉献塔龕中の浮彫。

- 20 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXXIII (D)  
 (5) 転法輪印。如来形。結跏趺坐。奉獻塔の浮彫の一部として。台座部分に法輪と二鹿。上部左右に飛天、下部左右に女尊?坐像。
- 触地印坐像**  
**単独の触地印坐像**
- 21 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 51.5×27.3 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXVI (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背に9世紀頃の書体による銘文(Mitraによる)。
- 22 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, No. 1961, 72  
 (3) Stone, 20.3×14 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXV (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。台座部分に供物。
- 23 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, No. RTR-2, 15  
 (3) Stone, 18.5×15.9 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXVIII (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 24 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, No. RTR-2, 78  
 (3) Stone, 4.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXIX (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背左右に仏塔の浮彫。
- 25 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, No. 1961/7  
 (3) Stone, 19 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLIV (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。台座に蓮華と供物の浮彫。
- 26 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 22; 佐和 1982: 挿図 30, 102図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。収蔵庫の中心に置かれ、僧院の本尊と考えられている。
- 27 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図20]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。表面磨滅。台座に武器(?)を持った4人の人物の浮彫。
- 28 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図21]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。表面磨滅。
- 29 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 口絵15, 130図; 頼富 1990: 図10  
 (5) 触地印?。如来形。結跏趺坐。下半身は土中。
- 30 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 頼富 1992b: 図2 [図22]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。僧院の本尊。
- 31 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図23]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。台座に供物と帰依者。
- 32 (1) Buddha

- (2) Khadipada, Barasore; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 7 c (Mus)  
 (4) Sahu 1958: Fig. 47; 頼富 1991a: 図 6; 森 1997a: 図 7, No. 3  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 33 (1) Buddha  
 (2) Narasinghapur, Cuttack; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 168 cm  
 (4) 森 1997a: 図 9, No. 5  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。三葉龕。光背左右にグリフの浮彫。台座に帰依者, 人物群の浮彫。表面磨滅。
- 34 (1) Buddha  
 (2) Sirpur  
 (3) Stone  
 (4) 頼富 1991a: 図 3  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。第 2 僧院祠堂本尊。脇侍に蓮華手, 金剛手。
- 35 (1) Buddha  
 (2) Sirpur  
 (3) Stone, 7 c (Huntington)  
 (4) Huntigton 1985: Pl. 19.6  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。台座左右に獅子の浮彫。
- 八大菩薩をともなう触地印坐像
- 36 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 73.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CXXXVIII (B); 佐和 1982: 挿図94, 95, 18図; 頼富 1990: 図66  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背左右に八大菩薩。八大菩薩の持物は向かって左上より(不明), 三葉形の植物, 蓮華, 宝珠, 右上より三蕾, 蓮華に水平に置いた金剛杵,
- 梵夾をのせた睡蓮, 未比定の植物。いずれも輪王坐で坐る。光背上部に飛天。
- 37 (1) Akṣobhya  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 80.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CXXXVIII (A); 佐和 1982: 挿図 4, 96, 19図; 頼富 1983: 図 2; 1990: 図68  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背左右に八大菩薩。八大菩薩の持物は向かって左上より, 龍華と三葉形の植物, 三蕾, 蓮華, 宝珠, 右上より(不明), 直立した金剛杵と蓮華, 梵夾をのせた睡蓮, 未比定の植物。いずれも輪王坐で坐り, 本尊に近い手を上にあげる。台座に蓮華の茎と帰依者, 供物。
- 38 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図98  
 (5) 触地印。結跏趺坐。胸より上部欠損。台座に帰依者。光背に八大菩薩の一部残存。
- 39 (1) Buddha  
 (2) Khiching  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図99; 頼富 1990: 図14  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背左右と上部に八大菩薩。頭光に樹木。台座に帰依者と供物。
- 40 (1) Buddha (Akṣobhya)  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mallmann 1948: Pl. XVII; Sahu 1958: Fig. 20; 佐和 1982: 挿図39, 135図; 頼富 1983: 図 9; 1990: 図35; 頼富・下泉 1994: 76; Donaldson 1995b: Fig. 1 [図24~26]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。右脇

侍弥勒，左脇侍地藏。光背左右上部に飛天。台座に蓮華と竜王。仏塔周囲の四仏の中の一尊。東に位置。脇侍は八大菩薩の2尊。

四親近菩薩をともなう触地印坐像

- 41 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 51.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CCCXXXIII (A); 頼富 1990: 図29; Donaldson 1995b: Fig. 9  
 (5) 触地印?。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に四親近菩薩?。持物は向かって右上より右回りに、二つの金剛杵?, 弓矢, 金剛杵と鈴, 鉤。台座に帰依者。
- 42 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 51.5 cm  
 (4) 頼富 1983: 図8; 1990: 図30  
 (5) 触地印?。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に四親近菩薩?。
- 43 (1) Buddha  
 (2) Jajpur?, Cuttack  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 図版未発表。頼富 (1990: 559), 宮治 (1993: 47) において言及。

二脇侍菩薩をともなう触地印坐像

- 44 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 51.5 cm, 8 c (Saraswati)  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 195; Bénisti 1981: Fig. 166; Mitra 1981: Pl. CX-XXVI (B); 佐和 1982: 口絵6, 20図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。右脇侍蓮華手, 左脇侍金剛手。光背上部左右に仏坐像。向かって左は与願印。右は定印。光背上部中央に

傘蓋。台座左右に獅子。中央に装飾的な蓮華。

- 45 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 77.5 cm  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 195; Mitra 1981: Pl. CXXXVII (B); 佐和 1982: 21図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。右脇侍蓮華手, 左脇侍金剛手。光背上部左右に飛天。光背上部中央に傘蓋。台座向かって左に帰依者, 右に供物。中央に装飾的な蓮華。
- 46 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri; Patna Mus.  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図90  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。右脇侍観音?。左脇侍文殊?。光背上部左右に飛天, 中央に樹木。台座に帰依者, 供物, 不動? (剣と羅索を持つ)。
- 47 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 114.3 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CCCXXIV (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天と仏塔の浮彫。その下に菩薩坐像。光背左右にグリフォン (あるいは馬) にのった人物像の浮彫。台座中央にマールと思われる人物群。左右に獅子。
- 48 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 112図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。左右に菩薩脇侍。光背上部左右に飛天。台座に帰依者, 供物, 獅子。
- 49 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri

- (3) Stone  
 (4) [図27~29]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。右脇侍文殊(持物は梵夾をのせた睡蓮)。右脇侍観音(持物は蓮華?)。光背上部左右に飛天。台座に帰依者、獅子。
- 50 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 115図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に菩薩坐像。いずれも半跏坐で右手与願印, 左手は植物を持つ。
- 特定の一尊格をともなう触地印坐像
- 51 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 68図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。光背に金剛薩埵。
- 52 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図30]  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部向かって左に仏塔, 右に菩薩? 坐像浮彫。台座向かって左に帰依者と水鳥, 右に獅子?。
- 光背に樹木の装飾のある触地印坐像
- 53 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 215 cm, 8 c (Huntington)  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 163; Mitra 1981: Pl. CXXIV (A); 佐和 1982: 口絵 5, 13図; Huntington 1985: Pl. 19.44  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。台座中央に竜王, 左右に獅子の浮彫。
- 脇侍に蓮華手と金剛手。第1僧院の本尊。頭部鼻梁部欠損。
- 54 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. 1961/2  
 (3) Stone, 54.6×37.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXIII (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座中央にアラジター, 向かって左に合掌する女尊と帰依者。右にマーラと供物。背面に銘文。
- 55 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 529  
 (3) Stone, 39.4×28.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXIII (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座向かって左に人物像。
- 56 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 146 cm  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 165; Mitra 1981: Pl. CXXXVI (A); 佐和 1982: 挿図 16, 16図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。光背左右に水鳥, グリフォン(あるいは馬)のついた人物, 象の浮彫。台座は2段からなり, 上段左右に獅子, 中央に装飾的な蓮華の茎, 下段左右に帰依者, 中央に供物。
- 57 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 82  
 (3) Stone, 17.8 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXIX (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に仏塔の浮彫。台座中央に金剛杵の浮彫。
- 58 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 12  
 (3) Stone, 21.5 cm



- (4) Mitra 1981: Pl. CLXXI (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座左右に象。
- 59 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 83  
 (3) Stone, 17.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXVI (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 60 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 1  
 (3) Stone, 37.2×20 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXVII (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座中央に二人の女性像（ヴェスダーラーとマーラの娘？）、左右に獅子。
- 61 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXVII (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に仏塔の浮彫。光背左右にグリフォン（あるいは馬）にのった人物像の浮彫。二段からなる台座。上段中央に供物、左右に獅子、下段は人物群（マーラの軍勢とマーラの娘？）左右に獅子。
- 62 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Patna Mus., No. 6501  
 (3) Stone, 144.8 cm, 11 c (Mus)  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 167; Mitra 1983: Pl. CCCXXV (A); 佐和 1982: 71図  
 (5) 触地印。菩薩形。結跏趺坐。宝冠、璎珞、装身具。光背上部左右に飛天、光背左右に宝をくわえた水鳥、グリフォン（あるいは馬）にのった人物像の浮彫。台座中央にあご髭を生やし、剣を振り上げた人物。その左右にマーラの娘たちと帰依者。
- 63 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 53.3×30.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXV  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。頭部欠損。光背上部左右に飛天。台座中央に供物と2獅子、向かって左に金剛薩埵？、右に帰依者。
- 64 (1) Buddha  
 (2) Khiching  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 69  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。台座左右に獅子。
- 65 (1) Buddha  
 (2) Khiching; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 8 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図11, No. 7  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座に獅子と帰依者。
- 飛天のみをともなう触地印坐像
- 66 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 74 cm, 9 c (Mus)  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 162; 森 1997a: 図8, No. 4  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座に蓮華、帰依者、供物の浮彫。
- 67 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 28 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CXXX (C)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座に供物。
- 68 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 54×36.8 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXIX (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。頭部

- 欠損。光背上部左右に飛天。台座に帰依者。
- 69 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 50 cm, 9 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCLIII (A); 佐和 1982: 38図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。光背にクッションの浮彫。台座左右に獅子。
- 70 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. 1961/102  
 (3) Stone, 35 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCLIII (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天?。頭部欠損。
- 71 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。頭部欠損。表面の磨滅著しい。
- 72 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 62図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。
- 73 (1) Buddha  
 (2) Baud  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 51; 頼富 1991a: 図7  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。
- 74 (1) Buddha  
 (2) Kharia, Bhadacana; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 9 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図10, No. 6
- (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。
- その他・不明
- 75 (1) Buddha  
 (2) Bāṇeśvaranāsi  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 55  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。
- 76 (1) Buddha  
 (2) Solampur  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 44  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背に多数の尊格。“The Eight Miracles of Buddha” (Sahu) .
- 断片
- 77 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 43.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXIV (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。頭部欠損。
- 78 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1. 535  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXIX (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。腹部より下のみ残存。台座に人物像。
- 79 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLVIII (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。向かって左にうづくまる菩薩像。首より上部, 左腕, 左足欠損。
- 80 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone

- (4) Mitra 1981: Pl. CLXVIII (D)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。腹部より下のみ残存。台座も欠損。
- 81 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXVIII (C)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。腹部と腕、足の一部残存。
- 82 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CCCXXXIII (D); 佐和 1982: 31図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。腹部より下のみ残存。
- 83 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 65図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。首より下部残存。
- 84 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 113図  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。胸より下部残存。左右に脇侍菩薩?。台座左右に帰依者と獅子。
- 奉獻塔の龕**
- 85 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 9-10 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1981: Pl. XXIV (E)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座に供物。
- 86 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. XXXIII (D)
- (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。Akṣobhya? (Mitra).
- 87 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 24.8 × 33.7 cm  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 148; Mitra 1981: Pl. XLVI (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。光背左右に飛天。台座に供物。
- 88 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LII (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 89 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXII (C)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 90 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXII (D)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 91 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIII (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 92 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIII (B)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 93 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIII (C)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 94 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri

- (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIV (A)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 95 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXLIX  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。
- 96 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri; 遺跡近くの祠堂  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 触地印。如来形。結跏趺坐。建造物の一部。

与願印坐像

- 97 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 522  
 (3) Stone, 17.2×10.8 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXVI (A)  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。
- 98 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 92  
 (3) Stone, 35×19.7 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXIX (D)  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。光背上部中央に樹木の浮彫, 左右に飛天。台座中央に女性像, 左右に獅子。
- 99 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図31]  
 (5) 与願印?。如来形。結跏趺坐。右手首欠損。光背上部に飛天。
- 100 (1) Ratnasambhava  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 頼富 1992a: 図3; Donaldson 1995b: Fig. 2 [図32~34]  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。右脇

- 侍虚空藏, 左脇侍観音。光背上部左右に飛天。台座に竜王。仏塔の周囲の四仏の中の一尊。南に位置。脇侍は八大菩薩の2尊。
- 101 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) Donaldson 1995b: Fig. 5 [図35~37]  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。左右に弘子?を持った脇侍。光背上部左右に飛天。おそらくパटना博所蔵の定印仏坐像[118]と同じグループの作品。
- 102 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIV (A)  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。奉獻塔の龕中。
- 103 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIV (B)  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。奉獻塔の龕中。
- 104 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIV (C)  
 (5) 与願印。如来形。結跏趺坐。奉獻塔の龕中。

定印坐像

- 105 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 521  
 (3) Stone, 35.8×20.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXII  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に飛天。台座に供物と帰依者。光背に銘文。

- 106 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR 1961/8  
 (3) Stone, 17.1 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLIV (B)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。
- 107 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR 1961/8  
 (3) Stone, 50.8 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXIII (B); 頼富 1990: 図31; Donaldson 1995b: Fig. 10  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に4尊の菩薩坐像。背面に10世紀の書体(Mitra)による銘文。台座に4人の人物。
- 108 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 頼富 1990: 図32  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。光背上部左右に4尊の菩薩坐像。
- 109 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図38]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。蛇の光背と傘蓋。表面磨滅。
- 110 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図39]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。蛇の光背と傘蓋。表面磨滅。
- 111 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図40]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。首より上部欠損。蛇の光背。
- 112 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図41]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。首より上部欠損。台座中央に法輪の浮彫。
- 113 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図42]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。光背の一部欠損。表面磨滅。
- 114 (1) Amitābha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図40, 136図; 頼富 1983: 図10; 1990: 図36; 1992a: 図4; 頼富・下泉 1994: 70[図43~45]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。光背の一部欠損。表面磨滅。右脇侍普賢, 左脇侍金剛手。台座に竜王。上部左右に飛天。ストゥーパの四方に置かれた四仏の中の1体。西に位置する。脇侍は八大菩薩の2尊。光背の周囲に独特の蓮華紋。
- 115 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri, Orissa State Mus.  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 72; 森 1997a: 図13, No. 9  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。蛇の光背と傘蓋。頭部欠損。台座中央に法輪, 左右に獅子の浮彫。
- 116 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図97, 133図; 頼富 1990: 図70  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。左右に八大菩薩。胸より上部欠損。八大菩薩も最上部の2尊欠損。台座に供物と帰依者。
- 117 (1) Buddha

- (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。遺跡内の民家の壁面に埋め込まれている。像高 10 cm 程度の小像。
- 118 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri, Patna Mus., No. 6491  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 139 図; Donaldson 1995b: Fig. 3 [図46~48]  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。左右に菩薩脇侍。左脇侍は文殊。右脇侍は弘子と卵形の花を持つ。光背上部左右に飛天。
- 119 (1) Buddha  
 (2) Nathmara, Cuttack, Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 8 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図12, No. 8  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。
- 120 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LII (B)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 121 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXI (D)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 122 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXII (A)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 123 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXII (B)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 124 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 定印。如来形。結跏趺坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 施無畏印坐像
- 125 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 590  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXV (B)  
 (5) 施無畏印。菩薩形。宝冠。結跏趺坐。光背に銘文。
- 126 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. 1961/6  
 (3) Stone, 24.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXIX (A)  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。頭部欠損。
- 127 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図49]  
 (5) 施無畏印?。結跏趺坐。如来形。右手首欠損。台座に法輪と二鹿。
- 128 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 92図  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。表面磨滅。台座に法輪と二鹿。
- 129 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図50]  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。表面磨滅。

- 130 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図51]  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。台座に法輪と二鹿。
- 131 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図52]  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。頭部欠損。台座に法輪と二鹿。
- 132 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図53]  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。右腕の肘より先欠損。表面磨滅。台座に法輪と二鹿。
- 133 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図54]  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。表面磨滅。台座に法輪と二鹿。
- 134 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図55]  
 (5) 施無畏印？。結跏趺坐。如来形。右腕の肘より先欠損。表面磨滅。光背一部欠損。台座に法輪と二鹿。
- 135 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIII (D)  
 (5) 施無畏印。結跏趺坐。如来形。奉獻塔の龕中の浮彫。
- (2) Ratnagiri, RTR-1, 530  
 (3) Stone, 35.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXIV (B)  
 (5) 上半身の一部のみ残存。光背向かって左に飛天と水鳥の浮彫。
- 137 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 腹部より上のみ残存。
- 138 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 胸, 腕, 足の一部のみ残存。
- 139 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 腹部より下のみ残存。腕の部分も欠損。
- 140 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 78図  
 (5) 胸より上のみ残存。

立像

三道宝階降下

- 141 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 195.5×63.5 cm  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 169; Mitra 1981: Pls. CCVIII, CCIX, CCX; 佐和 1982: 口絵12, 57図; 頼富 1990: 図4  
 (5) 三道宝階降下。右手与願印, 左手払子。如来形。右脇侍梵天。左脇侍帝釈天(傘蓋を掲げる)。光背上部左右に飛天。台座に帰依者。

- 142 (1) Buddha

印不明の坐像・断片

- 136 (1) Buddha

- (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図56]  
 (5) 三道宝階降下。右手施無畏印，左手払子。如来形。右脇侍梵天。左脇侍帝釈天（傘蓋を掲げる）。
- 143 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 三道宝階降下？。膝より下のみ現存。
- 144 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図57]  
 (5) 三道宝階降下。頭部欠損。右手与願印，左手払子。如来形。右脇侍梵天。左脇侍帝釈天（傘蓋を掲げる）。光背上部左右に立像？の痕跡。
- 145 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 132図  
 (5) 三道宝階降下。頭部欠損。右手与願印，左手払子。如来形。右脇侍梵天。左脇侍帝釈天（傘蓋を掲げる）。
- 与願印
- 146 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 114図  
 (5) 如来形。左手首欠損。右足元に合掌する帰依者。
- 147 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図58]  
 (5) 如来形。左腕欠損。胸より上部欠

- 損。右足元に合掌する帰依者。
- 148 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図59]  
 (5) 如来形。左手与願印。胸より上部欠損。台座左右に帰依者。
- 149 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図60]  
 (5) 如来形。左手与願印。右足元に合掌する帰依者。
- 150 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri; Guimét Mus., Paris  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 127図  
 (5) 如来形。左腕欠損。
- 施無畏印
- 151 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 86図  
 (5) 如来形。下半身，左腕欠損。
- 152 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図61]  
 (5) 如来形。左手与願印。蓮台左右に帰依者。
- 153 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図62]  
 (5) 如来形。右腕欠損。左手与願印。蓮台左右に帰依者。
- 154 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図63]



- (5) 如来形。頭部，右腕欠損。左手与願印。蓮台左右に帰依者。
- 155 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 挿図29, 93図  
(5) 如来形。頭部，右腕欠損。左手与願印。蓮台左右に帰依者。
- 156 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図64]  
(5) 如来形。頭部欠損。左手与願印。蓮台左右に帰依者。
- 157 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図65]  
(5) 如来形。頭部，両腕欠損。
- 158 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図66]  
(5) 如来形。頭部，両腕欠損。右足元に帰依者。
- 159 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図67]  
(5) 如来形。左手与願印。
- 160 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図68]  
(5) 如来形。左手欠損。
- 161 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図69]  
(5) 如来形。左手与願印。
- その他の印
- 162 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 75×50.8 cm  
(4) Mitra 1983: Pl. CCCXLI (A); 佐和 1982: 挿図85, 48図  
(5) 如来形。両手を胸の前に置く(転法輪印を示す?)。頭部欠損。左右に菩薩脇侍。右脇侍頭部欠損。
- 印不明
- 163 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 86  
(3) Stone, 38×19.7 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. CLXIX (C)  
(5) 如来形。右腕欠損。左手与願印?。光背上部左右に飛天。向かって左に華鬘を持つ女性立像，右に合掌する女性。
- 164 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図70]  
(5) 両腕，頭部欠損。
- 165 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図71]  
(5) 右腕欠損。施無畏印か?。左手与願印。蓮台の左右に帰依者。
- 166 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図72]  
(5) 右腕欠損。施無畏印か?。左手弘子を持つ。
- 167 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) [図73]  
(5) 頭部，右腕欠損。左手与願印。胸

- のあたりで上下に二分。
- 168 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 77図  
(5) 頭部, 両腕, 膝より下部欠損。
- 169 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 119図  
(5) 腹部より上部, 右腕欠損。左手払子?。蓮台の左右に合掌する女性。
- 170 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 87図  
(5) 如来形。腹部より上部のみ残存。
- 断片
- 171 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 61  
(3) Stone, 4.5 cm  
(4) Mitra 1983: Pl. CCLXXXI (C)  
(5) 足首より下部のみ。
- 172 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 膝より下のみ。
- 173 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 膝より下のみ。
- 174 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 膝より下のみ。
- 175 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri
- (3) Stone  
(4)  
(5) 膝より下のみ。
- 176 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 膝より下のみ。
- 177 (1) Buddha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 膝より下のみ。
- 仏頭
- 178 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 588  
(3) Stone, 14 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXXVIII (A)  
(5) 如来形。
- 179 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 528  
(3) Stone, 15.2 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXXVIII (B)  
(5) 如来形。
- 180 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 536  
(3) Stone, 14 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXXVIII (C)  
(5) 如来形。
- 181 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 42  
(3) Stone, 2.9 cm  
(4) Mitra 1983: Pl. CCLXXXI (B)  
(5) 如来形。
- 182 (1) Buddha  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 66 cm, 8 c (Mitra)  
(4) Mitra 1983: Pl. CCCXXX (A)  
(5) 如来形。
- 183 (1) Buddha

- (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 63 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXX (B); 佐和 1982: 52図  
 (5) 如来形。鼻梁部欠損。
- 184 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 63 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXX (C); 佐和 1982: 53図  
 (5) 如来形。鼻梁部欠損。
- 185 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図84  
 (5) 如来形。
- 186 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 119.4 cm  
 (4) Sahu 1958: Fig. 29; Mitra 1983: Pl. CCCXXXIII (C)  
 (5) 如来形。
- 187 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 120.7 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXLVI (B); 佐和 1982: 22図  
 (5) 如来形。
- 188 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 30  
 (5) 如来形。
- 189 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 54図  
 (5) 如来形。
- 190 (1) Buddha  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone
- (4) 佐和 1982: 64図  
 (5) 如来形。
- 191 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 91図  
 (5) 如来形。
- 192 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図74]  
 (5) 如来形。
- 193 (1) Buddha  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 103図; 頼富 1991a: 図5  
 (5) 如来形。
- 194 (1) Buddha  
 (2) Udayagiri; 遺跡近くの学校の校庭  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 如来形。
- 菩薩
- 観音
- 二臂坐像
- 195 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 527  
 (3) Stone, 63.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCI (B); 佐久間 1991-1993: A-X-I-21  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背左上に飛天, 台座左下に帰依者。
- 196 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 523  
 (3) Stone, 21.6×15 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCII (A); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-57  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。

- 197 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 524  
 (3) Stone, 19×10.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCII (B); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-58  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。
- 198 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 14  
 (3) Stone, 23.5×15.9 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXIII (B); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-59  
 (5)
- 199 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 19  
 (3) Stone, 26×17.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXIII (C); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-60  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部に飛天。
- 200 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 5  
 (3) Stone, 28 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXI (B); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-61  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。
- 201 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 49.5 cm, 8-9 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXVI (A); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-44  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。
- 202 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri; Indian Mus., Calcutta  
 (3) Stone, 34.3×54.6 cm, 8-9 c (Mitra)  
 (4) Sahu 1958: Fig. 33; Mitra 1983: Pl. CCCXXIV (B); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-15  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部に飛天。台座左右に獅子。Simhanāda (Sahu)。
- 203 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 76.2×45.7 cm, 9-10 c (Mitra)  
 (4) 佐和 1982: 43図; Mitra 1983: Pl. CCCXXXIX (A); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-64, A-X-I-21 (重複)  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部左右に仏坐像。
- 204 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 62.2×36.8 cm, 9 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXLVIII (A); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-6; B-M1-1 (重複)  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部左右に飛天。台座左右に獅子。台座向かって右寄りに帰依者。
- 205 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図14, 2図; 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-63  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部左右に蓮華。
- 206 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Patna Mus.  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 152  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。
- 207 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri 周辺の村落  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 69図; 佐久間 1991-1993: A-X-I-19  
 (5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部に飛天?。
- 208 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Vajragiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図9, 144図; 頼富

- 1990: 図11; 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-67
- (5) 右手与願印, 左手蓮華。
- 209 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 122×61 cm, 11 c (Mitra)  
(4) Mitra 1983: Pl. CCCXXXI (B); 佐和 1982: 34図; 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-II-16  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部に飛天。右脇侍ターラー, 左脇侍ブリクティ。台座にハヤグリーヴァ, スダナクマーラ。
- 210 (1) Avalokiteśvara  
(2) Chauduār, Cuttack  
(3) Stone; 12 c (Kramrisch)  
(4) Kramrisch 1960: Pl, 12; 佐久間 1991-1993: A-X-II-9  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部に飛天。右脇侍スダナクマーラ, 左脇侍ハヤグリーヴァ。台座にターラー?, ブリクティ?。
- 211 (1) Avalokiteśvara  
(2) Cuttack?, Patna Mus.  
(3) Stone  
(4) 佐久間 1991-1993: A-X-II-16  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。右脇侍(不明立像)。台座にブリクティ?。光背上部左右に仏坐像。
- 212 (1) Avalokiteśvara  
(2) Lalitagiri; Indian Mus., Calcutta, Acc. No. 6958/A25224  
(3) Stone; 10 c (Mus)  
(4) Sahu 1958: Fig. 37 (正しくは39?); Bénisti 1981: Fig. 153; 佐和 1982: 70図; 佐久間 1991-1993: A-X-II-3  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部, 山岳表現の中に五仏。印相は向かって左より施無畏印, 触地印, 定印, 智拳印, 与願印。右脇侍ターラー, 左脇侍ブリクティ。いず
- れも立像。台座に転輪聖王の七宝と帰依者。類似の山岳表現は同じインド博所蔵の「補陀洛山の観音」(佐久間 1991: 図5-8 = A-M4-II-1) にも見られる。
- 213 (1) Avalokiteśvara  
(2) Choudwar, Cuttack; Indian Mus., Calcutta  
(3) Stone  
(4) Sahu 1958: Fig. 61; 佐久間 1991-1993: A-X-II-24  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部, 山岳表現の中に五仏。右脇侍ターラー, 左脇侍ブリクティ。いずれも坐像。台座に転輪聖王の七宝と帰依者。前の作例とほとんど同じ特徴を持つ。
- 214 (1) Avalokiteśvara  
(2) Banaswaranasi, Cuttack; Orissa State Mus.  
(3) Stone, 160 cm  
(4) Sahu 1958: Fig. 57; 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-II-17; 森 1997a: 図28, No. 16  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部, 山岳表現の中に五仏。右脇侍ターラー, 左脇侍ブリクティ。いずれも立像。台座にハヤグリーヴァ, スーチームカと帰依者。表面はかなり磨滅している。
- 215 (1) Avalokiteśvara  
(2) Vajragiri; Orissa State Mus.  
(3) Stone, 174 cm, 12 c (Mus)  
(4) 森 1997a: 図27, No. 15  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。頭部右下半分, 向かって右の蓮華, 右手は後補。光背にも補修が多い。光背上部に五仏。ただし向かって左端は欠損。印相は向かって左より(不明), 与願印, 定印, 触地印, 転法輪印。右脇侍スダナクマーラ, 左

脇侍ハヤグリーヴァ。台座にスー  
チームカと4人の人物。

奉献塔の龕

- 216 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 408  
(3) Stone, 5.7 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XXXIII (B); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-54  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。奉献塔龕中の浮彫。
- 217 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXI (A); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-55  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。奉献塔龕中の浮彫。
- 218 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXI (B); 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-56  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。奉献塔龕中の浮彫。
- 219 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXIV (A); 佐久間 1991-1993: A-X-I-29  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。奉献塔龕中の浮彫。
- 220 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri, 遺跡近くの祠堂  
(3) Stone  
(4)  
(5) 奉献塔龕中の浮彫。
- 221 (1) Avalokiteśvara  
(2) Ratnagiri, 遺跡近くの祠堂  
(3) Stone  
(4)

(5) 右手与願印, 左手蓮華。奉献塔龕中の浮彫。

222 (1) Avalokiteśvara

- (2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4) [図75]  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。奉献塔龕中の浮彫。

二臂立像

- 223 (1) Avalokiteśvara (Padmapāni)  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 147.3 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. CXXVII (B); 佐和 1982: 挿図79; 14図; 頼富 1991a; 図 11  
(5) 右手払子, 左手蓮華。触地印仏坐像右脇侍。左脇侍は金剛手。
- 224 (1) Avalokiteśvara?  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) Sahu 1958: Fig. 26; 佐久間 1991-1993: A-X-I-10  
(5) 光背上部左に仏坐像?。右手与願印, 左手植物。
- 225 (1) Avalokiteśvara  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 99図; 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-I-65  
(5) 右手与願印, 左手蓮華。光背上部左右に仏坐像。印相は向かって左が与願印, 右が触地印。
- 226 (1) Avalokiteśvara  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 101図; 佐久間 1991-1993: A-X-I-12  
(5) 右手与願印, 左手蓮華(欠損)。2女性脇侍。右脇侍ターラー(未敷睡蓮を開くしぐさ)。左脇侍ブリク

- ティー（四臂で、結跏趺坐。右手は与願印・数珠、左手は水瓶？・花？）。光背上部左右に飛天。
- 227 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図76~78]  
 (5) 右手与願印？、左手蓮華。左足元にハヤグリーヴァ。光背上部左右に飛天。右足元に4人の人物。両腕欠損。
- 228 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Khadipada; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 130×37 cm  
 (4) Sahu 1958: Fig. 50; 佐久間 1991-1993: A-X-I-17; 森 1997a: 図29, No. 17  
 (5) 右腕欠損。左手蓮華。光背右側面に銘文。金剛手 [349] と対。
- 229 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ayodhyā  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 66; 佐久間 1991-1993: A-X-I-30  
 (5) 右手与願印、左手不明。右脇侍ターラー、左脇侍ブリクティー。台座にハヤグリーヴァとスダナクマラー。光背上部に飛天。
- 230 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: CCXLVIII (C); 佐和 1982: 61図  
 (5) 右手与願印、左手蓮華？。頭部、左腕欠損。左右に弘子を持つ女性脇侍。光背上部に定印？仏坐像。左右に飛天。台座に竜王、供物、婦依者。「菩薩立像」(佐和)。
- 231 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Bhuvaneswar; Orissa State Museum  
 (3) Black Stone, 131 cm, 11 c (Mus)
- (4) Sahu 1958: Fig. 75; 森 1997a: 図2, 19-22, No. 12  
 (5) 右脇侍ターラー（未敷睡蓮を開くしぐさ）、左脇侍ブリクティー（四臂。右手数珠、左手水瓶、その他は不明。頭部欠損）。さらにその外側に斧を持った人物。頭部および両腕欠損。台座に人物群。
- 232 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Śiśīreśvara Temple, Bhuvaneswar  
 (3) Stone  
 (4) Panigrahi 1957: Fig. 19; 佐久間 1991-1993: A-X-I-1  
 (5) 左手を腰に当てる。
- 四臂坐像
- 233 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. XXXIX (A, B); 佐和 1982: 35図  
 (5) 右手与願印・数珠、左手蓮華・水瓶。光背左右に仏坐像。
- 234 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 33.7×23.5 cm  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 151; Mitra 1981: Pl. XLVI (D); 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-1; B-S1-S2a-M1-8 (重複)  
 (5) 右手与願印・数珠、左手蓮華・水瓶。
- 235 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. 1961/55  
 (3) Stone, 28×26.7 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCIII (B); 佐久間 1991-1993: B-M1-3  
 (5) 右手与願印・(欠損)、左手(欠損)・(欠損)。右脇侍ターラー、左脇侍ブリクティー。頭部、腕、脚部欠損。

- 236 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 3  
 (3) Stone, 55.8 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXIV (A); 佐久間 1991-1993: B-S2d-9  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。右脇侍ターラー, 左脇侍ブリクティ。光背上部に2菩薩坐像。台座向かって左にスーチームカ。基壇部に銘文。
- 237 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 17  
 (3) Stone, 15.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXIV (B); 佐久間 1991-1993: B-M1-4  
 (5) 右手与願印・(欠損), 左手(欠損)・(欠損)。表面磨減。
- 238 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXLVIII (A)  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・(不明)。
- 239 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 63.5×40 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXVIII (B); 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-2  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。光背上部左右に仏坐像。印相は向かって左が与願印?, 右が触地印?。
- 240 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 57.15 cm  
 (4) 佐和 1982: 47図; Mitra 1983: Pl. CCCXXI (A); 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-12  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。光背上部向かって左に与願印仏坐像。台座に帰依者?。Jaṭā-mukūṭa-Lokeśvara (Mitra)。
- 241 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 57.15 cm  
 (4) 佐和 1982: 36図; Mitra 1983: Pl. CCCLIV (B); 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-13  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。光背上部左右に飛天。
- 242 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図79]  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。頭部, 光背上部欠損。台座左右に獅子。
- 243 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Baud  
 (3) Bronze, 9 c (Sahu)  
 (4) Sahu 1958: Fig. 53; 佐久間 1991-1993: B-M1-8  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・(不明)。
- 244 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Cuttack  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 142図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-5; B-2 (重複)  
 (5) 主要な二臂は定印?。比定は佐和 (1982) による。
- 245 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri, RTR-1, 79  
 (3) Stone, 29.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LIII (A); 佐久間 1991-1993: B-M1-1  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。奉獻塔の龕中。
- 246 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 33 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LIII (B); 佐久間



1991-1993: B-M1-2

- (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶?。台座に人物像。奉獻塔の龕中。

- 247 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 33 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXX (D); 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-9  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。奉獻塔の龕中。

四臂立像

- 248 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 9 c (Saraswati), 127×69.8 cm  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 63; Mitra 1981: Pl. CIX (B); 佐和 1982: 口絵 8, 挿図80, 7図; 頼富 1991a; 図11; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-S2d-M1-2 [図80~82]  
 (5) 四臂。右手数珠・与願印, 左手蓮華・水瓶。右脇侍スーチームカ, 左脇侍ハヤグリーヴァ (四臂で展左。主要な二臂は胸の前で交差)。光背上部左右に仏坐像。金剛手と対になる。
- 249 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 243.8×114.3 cm, 9-10 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXL; 佐和 1982: 挿図15, 6図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-11; B-M1-5 (重複) [図83~85]  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。右脇侍ターラー坐像 (結跏趺坐で右手与願印, 左手睡蓮), 左脇侍ハヤグリーヴァ (展左, 右手を上に掲げ, 左手は杖の上に置く)。

頭部欠損。光背上部向かって左に仏坐像があった (台座のみ現存)。

- 250 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 86.4×42 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXVIII (A); 佐和 1982: 44図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-3  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。光背上部左右に飛天。
- 251 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXXIV (A); 佐和 1982: 8図; 頼富 1983: 図1; 1990: 図98; 頼富・下泉 1994: 口絵; 佐久間 1991-1993: B-S2a-S2e-P5-1 [図86~89]  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・羂索。右脇侍ターラー坐像 (結跏趺坐で右手与願印, 左手睡蓮), 左脇侍ブリクティ (四臂, 結跏趺坐で右手与願印・数珠, 左手不明・不明)。光背上部左右に仏坐像。大地から伸びる蓮華に坐す。印相はいずれも定印。
- 252 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 193×94 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXXIX (B); 佐和 1982: 51図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-10; B-S2a-S2e-P5-1 (重複)  
 (5) 右手与願印・数珠と羂索, 左手蓮華・ハヤグリーヴァの頭の上。中尊の左側にハヤグリーヴァ (頭部のみ残存)。光背上部左右に仏坐像。印相は向かって左が定印, 右が触地印。膝より下欠損。
- 253 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri

- (3) Stone
- (4)
- (5) 右手与願印(欠損), 左手いずれも欠損。中尊の左側にハヤグリーヴァ(展左, 右手を上に掲げ, 左手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る。未敷睡蓮を開くしぐさを示す。ハヤグリーヴァの上にブリクティ(四臂, 結跏趺坐で右手与願印・数珠, 左手与願印(宝を示す)・不明)。腰より下のみ残存。
- 254 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 154; Mitra 1983: Pl. CCCXXXIV (B); 佐和 1982: 口絵 9, 9 図; 頼富 1990: 図25; 頼富・下泉 1994: 口絵; 佐久間 1991-1993: B-S2a-S2e-P5-2 [図90~93]  
 (5) 右手与願印・数珠と絹索, 左手水瓶を持ち蓮華・ハヤグリーヴァの頭の上。中尊の左側にハヤグリーヴァ(四臂, 主要な二臂は胸の前で交差, 左後手は絹索)。右脇侍ターラー坐像(結跏趺坐で右手与願印, 左手睡蓮), 左脇侍ブリクティ(四臂, 結跏趺坐で右手与願印・数珠, 左手与願印(宝を示す)・不明)。光背上部左右に仏坐像。大地から伸びる蓮華に坐す。印相は向かって左が定印, 右が触地印。
- 255 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 222.3×147.3 cm  
 (4) Mitra 1983: Pls. CCCXXXIV (C), CCCXXXV (A); 佐久間 1991-1993: B-M1-12  
 (5) 右手与願印・数珠と絹索, 左手蓮華・水瓶。中尊の左側にハヤグリーヴァ(二臂, 右手は高く掲げ, 左手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る(詳細は不明)ハヤグリーヴァの上にブリクティ(四臂, 結跏趺坐。詳細不明)。光背上部左右に仏坐像。大地から伸びる蓮華に坐す。
- 256 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Udayagiri, Solapura Mā Temple  
 (3) Stone  
 (4) Panigrahi 1957: Fig. I; Sahu 1958: Fig. 15; 佐和 1982: 143図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-S2d-M1-4  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。中尊の左側にハヤグリーヴァ(四臂, 主要な二臂は胸の前で交差, 右後手は高く掲げ, 左後手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る。未敷睡蓮を開くしぐさ。光背上部左右に仏坐像。Maitreya (Panigrahi), Jaṭāmukha Avalokiteśvara (Sahu)。
- 257 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
 (2) Udayagiri, Patna Mus.  
 (3) Stone, 9 c (Saraswati)  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 65; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-S2b-M1-P5-1 [図94~96]  
 (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・蛇の巻き付く三叉戟。中尊の左側にハヤグリーヴァ(二臂, 右手は高く掲げ, 左手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る。未敷睡蓮を開くしぐさを示す。光背上部左右に女尊坐像。大地から伸びる蓮華に坐す。さらにその上に9体の仏坐像が横一列に並ぶ。
- 258 (1) Avalokiteśvara  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mallmann 1948: Pl. VI; Sahu 1958:

Figs. 17, 18; 佐和 1982: 口絵16, 131  
図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-  
S2d-M1-3 [図97~101]

- (5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。中尊の左側にハヤグリーヴァ (四臂, 主要な二臂は胸の前で交差, 右後手は高く掲げ, 左後手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る。未敷睡蓮を開くしぐさを示す。光背上部左右に女尊坐像。向かって左は中尊の方を向いて合掌して坐る。右はブリクティ。四臂で右前手は胸の前で数珠を持ち, 左前手は与願印で宝を示す。後手の持物は不明。さらにその上に7体の仏坐像が横一列に並ぶ。印相は向かって左より, 定印?, 定印, 与願印, 転法輪印, 定印, 施無畏印, 触地印。上段の女尊の周囲に4人の人物。背面に銘文。
- 259 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara  
(2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 137図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-M1-4 [図102~104]  
(5) 右手与願印・数珠と羂索, 左手蓮華・水瓶。中尊の左側にハヤグリーヴァ (二臂, 右手は高く掲げ, 左手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る。未敷睡蓮を開くしぐさを示す。光背上部左右に女尊坐像。いずれも結跏趺坐, 二臂。右手与願印, 左手蓮華。さらにその上に9体の仏坐像が横一列に並ぶ。印相は不明のものが多いが中央は転法輪印。
- 260 (1) Avalokiteśvara  
(2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4) [図105]

(5) 右手与願印・数珠, 左手蓮華・水瓶。光背上部, 左前手欠損。脇侍なし。

- 261 (1) Avalokiteśvara  
(2) Patna Mus.  
(3) Stone, 8 c (Mus)  
(4) 佐和 1982: 140図; 佐久間 1991-1993: B-S2d-1  
(5) 中尊の左側にハヤグリーヴァ (四臂, 主要な二臂は胸の前で交差, 右後手は高く掲げ, 左後手は杖の上に置く)。右側にターラー。中尊の方を向いて坐る。未敷睡蓮を開くしぐさを示す。頭部および両腕欠損。
- 262 (1) Avalokiteśvara  
(2) Cuttack; Orissa State Mus.  
(3) Stone, 12 c (Mus)  
(4) 森 1997a: 図23-25, No. 13  
(5) 中尊の左右に4人の人物。光背上部左右に飛天?。表面の磨滅著しい。

#### 六臂立像

- 263 (1) Avalokiteśvara  
(2) Dharmasala; Orissa State Mus.  
(3) Stone, 109 cm, 11 c (Mus)  
(4) 森 1997a: 図1, 26, No. 14  
(5) 右手数珠, 左手蓮華。それ以外の持物不明。中尊の左側に四人の人物。光背上部向かって左に飛天。台座左右に帰依者。表面の磨滅著しい。

#### 金剛法

- 264 (1) Vajradharma  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 165 × 91.5 cm, 10 c (Mitra)  
(4) Bénisti 1981: Fig. 133; 佐和 1982: 口絵11, 59図; Mitra 1983: Pl. CCX-XXIX; 頼富 1983: 図5; 1990: 図7,

- 1992a: 図 2; 頼富・下泉 1994: 96;  
佐久間 1991-1993: A-M3-II-2 [図  
106~110]
- (5) 結跏趺坐。五仏の宝冠。五仏の印  
相は中央上より、定印、転法輪印、  
触地印、向かって左が与願印、右  
が施無畏印。右手で未敷蓮華を開  
くしぐさ。左腕欠損。光背上部左  
右、台座左右に合計 4 体の女尊。  
いずれも結跏趺坐。光背向かって  
左の女尊（ターラー？）は右手与  
願印、左手睡蓮、右の女尊は右手  
与願印、左手睡蓮の上に梵夾。台  
座向かって右の女尊（ブリクテ  
ィー？）は四臂で、右前手与願印、  
左前手与願印（宝を示す）、右後手  
に数珠、左後手で羂索？を持つ。  
左の女尊は磨滅のため持物は不明。  
その左手にさらに一人の人物像。  
中央を向いて坐り両手に何かを持  
つ。
- 265 (1) Vajradharma  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXI (C); 佐久間  
1991-1993: A-M3-I-5  
(5) 結跏趺坐。右手で未敷蓮華を開く  
しぐさ。奉獻塔龕中の作品。
- 266 (1) Vajradharma  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1913: Pl. LXXI (D)  
(5) 結跏趺坐。右手で未敷蓮華を開く  
しぐさ。奉獻塔龕中の作品。
- 267 (1) Vajradharma  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LIII (C); 佐久間  
1991-1993: A-M3-I-4  
(5) 奉獻塔の龕中。
- 六字観音
- 268 (1) Ṣaḍakṣari Lokeśvara  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 4  
(3) Stone, 29.8 cm  
(4) Mitra 1983: Pl. CCXI (A); 佐久間  
1991-1993: B-M5a-P2-11  
(5) 四臂。結跏趺坐。主要な二臂は胸  
の前で合掌。右後手数珠、左後手  
蓮華。
- 269 (1) Ṣaḍakṣari Lokeśvara  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXX (C); 佐久間  
1991-1993: B-M5a-P2-10  
(5) 四臂。結跏趺坐。主要な二臂は胸  
の前で合掌。右後手数珠、左後手  
蓮華。奉獻塔龕中の作品。
- 断片
- 270 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara?  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 39図  
(5) 頭部のみ残存。持物の羂索と蓮華  
の一部が残る。四臂の不空羂索観  
音か？
- 271 (1) Amoghapāśa Avalokiteśvara?  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 25図; 佐久間 1991-1993:  
B-1  
(5) 胸より上のみ残存。持物の羂索の  
一部が残る？。比定は佐和（1982）  
による。
- 272 (1) Avalokiteśvara?  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 27図; Mitra 1983: Pl.  
CCCXLI (B); 佐久間 1991-1993:  
B-M1-6  
(5) 胸より下のみ残存。四臂の不空羂

- 索観音か?。右手与願印, 左手ハヤグリーヴァの頭の上に置く。右脇侍ターラー(中尊の方を向いて坐り, 未敷蓮華を開くしぐさ), 左脇侍ハヤグリーヴァ(四臂, 主要な二臂は胸の前で交差, 右後手は上に掲げ, 左後手は杖を持つ)。
- 273 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 膝より下のみ残存。左脇侍のハヤグリーヴァの首より下も残存。
- 274 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. XXIII (D)  
 (5) 首より上のみ残存。左持物の蓮華が光背に残る。
- 275 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXXXIII (A)  
 (5) 胸より上のみ残存。頭部も欠損。光背上部左右に飛天。
- 276 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXXXV (B); 佐和 1982: 49図  
 (5) 頭部欠損。光背左右に二体ずつ女尊坐像。台座向かって左に人物像。
- 277 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLV (B); 佐和 1982: 49図  
 (5) 二臂坐像。腰より上が残存。
- 278 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone
- (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXIX (A); 佐久間 1991-1993: A-X-I-22  
 (5) 二臂坐像。胸より上が残存。光背上部向かって左に仏坐像。
- 279 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXLII (A)  
 (5) 坐像。腰より下が残存。台座向かって右に四臂ハヤグリーヴァ立像。
- 280 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri; 遺跡近くの祠堂  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CCCXLVIII (B); 佐和 1982: 挿図7; 67図; 佐久間 1991-1993: B-2  
 (5) 胸より上が残存。光背上部左右に仏坐像。印相は向かって左が触地印, 右が与願印。
- 281 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCLIII (C); 佐久間 1991-1993: A-X-I-23  
 (5) 胸より上が残存。
- 282 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 頭部欠損。
- 283 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 138図  
 (5) 胸より上が残存。
- 284 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Bhuvaneswar; Orissa State Mus.  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 76; 佐久間 1991-1993: A-X-I-18  
 (5) 立像。両足, 両腕欠損。

- 285 (1) Avalokiteśvara?  
(2) Vajragiri  
(3) Stone  
(4) 頼富 1990: 図13  
(5) 坐像。右足、両腕欠損。
- 286 (1) Avalokiteśvara?  
(2) Vajragiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 立像。体の右半分のみ残存。
- 287 (1) Avalokiteśvara?  
(2) Udayagiri  
(3) Stone; 遺跡付近の小学校  
(4)  
(5) 胸より上のみ残存。
- 288 (1) Avalokiteśvara?  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) Mallmann 1948: Pl. VIII; Encyclopaedia of World Art, Vol. VII, Pl. 475.  
(5) 頭部のみ。

## 文殊

### アラパチャナ

- 289 (1) Arapacana Mañjuśrī  
(2) Khiching; Bāripadā Mus.  
(3) Stone  
(4) Sahu 1958: Fig. 70; 森 1996: No. 5  
(5) 右手、剣を頭上に振り上げる。左手、睡蓮?。結跏趺坐、光背左右に蓮華?の浮彫。
- 290 (1) Arapacana Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 21.5 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XXIV (D); 頼富 1988a: 図 5, リスト-1; 1988b: 図 1, リスト-1; 森 1996: No. 7  
(5) 右手、剣を頭上に振り上げる。左手、胸の前に梵夾を持つ。結跏趺

坐。奉獻塔の龕中の浮彫。

- 291 (1) Arapacana Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXIX (C); 頼富 1988a: リスト-2; 1988b: リスト-4; 森 1996: No. 8  
(5) 右手、剣を頭上に振り上げる。左手、胸の前に梵夾を持つ。結跏趺坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 292 (1) Arapacana Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXIX (D); 頼富 1988a: リスト-3; 1988b: リスト-5; 森 1996: No. 9  
(5) 右手、剣を頭上に振り上げる。左手、胸の前に梵夾を持つ。結跏趺坐。蓮台の下に3人の供養者?。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 293 (1) Arapacana Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXX (A); 頼富 1988a: リスト-4; 1988b: リスト-6; 森 1996: No. 10  
(5) 右手、剣を頭上に振り上げる。左手には蓮華の茎も持つ。結跏趺坐。奉獻塔の龕中の浮彫。小塔の上部は欠損。頭部および右手、左持物の上部が欠損。

### マンジュヴェアラ

- 294 (1) Mañjuvara  
(2) Ratnagiri  
(3) 17.8 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XC (B); 頼富 1988a: リスト-2; 1988b: リスト-2; 森 1996: No. 24  
(5) 転法輪印。梵夾を載せた睡蓮が左

- 手から伸びる。遊戯坐。表面は磨滅しているため、細部は不明。
- 295 (1) Mañjuvara  
 (2) Vajragiri; Orissa State Mus.  
 (3) 8c (Mus)  
 (4) 森 1996: 図3, No. 26; 1997a: 図36, No. 21  
 (5) 転法輪印。梵夾を載せた睡蓮が左手から伸びる。左右に二脇侍。光背上部左右に二飛天。腰から下の部分は光背も含め欠損。
- 296 (1) Mañjuvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 56; 図 Mitra 1981: Pl. CCCXXXII (B); 森 1996: No. 27  
 (5) 転法輪印(手首から先は欠損)。倚坐。台座左右に獅子。頭部、および手首から先が欠損。
- 297 (1) Mañjuvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVIII (B); 頼富 1988a: リスト-5; 1988b: リスト-6; 森 1996: No. 28  
 (5) 転法輪印。梵夾を載せた睡蓮が左に伸びる。半跏坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 298 (1) Mañjuvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVIII (C); 頼富 1988a: リスト-6; 1988b: リスト-7; 森 1996: No. 29  
 (5) 転法輪印。梵夾を載せた睡蓮が左に伸びる(頼富 1988aによる)。遊戯坐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 299 (1) Mañjuvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. LXVIII (D); 頼富 1988a: リスト-7?; 1988b: 図4, リスト-8; 森 1996: No. 30  
 (5) 転法輪印。倚坐。梵夾を載せた睡蓮が左に伸びる。奉献塔の龕中の浮彫。
- 300 (1) Mañjuvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIX (A); 頼富 1988a: リスト-3; 1988b: リスト-4; 森 1996: No. 31  
 (5) 転法輪印。倚坐。睡蓮が左に伸びる。奉献塔の龕中の浮彫。
- 301 (1) Mañjuvara  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXIX (B); 頼富 1988a: リスト-4; 1988b: リスト-5; 森 1996: No. 32  
 (5) 転法輪印。遊戯坐。睡蓮が左に伸びる。奉献塔の龕中の浮彫。Mañjuḡhoṣa (Mitra)。
- 302 (1) Mañjuvara  
 (2) Udayagiri; 現地  
 (3) Stone  
 (4) [図111]  
 (5) 転法輪印。体の左側に梵夾を載せた睡蓮。顔面および両手の一部磨滅。光背向かって右上損傷。光背に人物群。台座に供養者と二獅子。
- スティラチャクラ
- 303 (1) Sthiracakra Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone, 8-9c (Sahu)  
 (4) Sahu 1958: Fig. 25; 森 1996: No. 36  
 (5) 立像。右手、与願印、左手、剣を載せた睡蓮。髪髻冠。両側に蓮台に坐る女性脇侍。
- 一般的な文殊

遊戯坐

- 304 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXII (B); 森 1996: No. 50  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。光背上部左右に二飛天。台座部分の向かって左に供養者, 右に供物。頭髮中心部と顔の一部に破損がある。
- 305 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CCLXII (A); 頼富 1988a: 図14, リスト-8; 1988b: 図9, リスト-10; 森 1996: No. 51  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。
- 306 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCXXXII (A); 森 1996: No. 52  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。台座に三供養者。光背に損傷がある。顔の部分も磨滅。
- 307 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 32図; 森 1996: No. 53  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。右腕の肘より先の部分と, 光背の大半が欠損。顔の部分も磨滅。
- 308 (1) Mañjuśrī  
 (2) Vajragiri; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 8 c (Mus)  
 (4) 森 1996: 図4, No. 54; 1997a: 図35,
- No. 20  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。三髻。遊戯坐。台座右下に供養者。光背上部に二飛天。保存状態も良好で, 装身具等もよく残る。
- 309 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図93, 85図; 頼富 1988b: 図10, リスト-12; 森 1996: 図5, No. 55  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。台座右下に供養者。光背上部左右に二尊。全体に四角い枠が作られ, その中に浮彫で表現。表面はかなり磨滅している。Siddhaikavira (頼富 1988b)。
- 310 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 90図; 森 1996: 図6, No. 56  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。台座右下に二供養者。光背上部左右に二女尊。向かって左の女尊は与願印, 右の女尊は定印?。
- 311 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVI (D); 森 1996: No. 57  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 312 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVII (A); 森 1996: No. 58



- (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 313 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXVII (B); 森 1996: No. 59  
(5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 314 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXVII (C); 森 1996: No. 60  
(5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 315 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXVII (D); 森 1996: No. 61  
(5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。台座の向かって右に供養者。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 316 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXVIII (A); 森 1996: No. 62  
(5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 317 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXX (B); 森 1996: No. 63  
(5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 318 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Bénisti 1981: Fig. 130  
(5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 319 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. CLXXIII (A); 森 1996: No. 69  
(5) 左手, 梵夾を載せた睡蓮。遊戯坐。腰から下, および左手の持物のみ残存。右手の印は確認できない。
- 輪王坐
- 320 (1) Mañjuśrī  
(2) Bhubaneswar; Orissa State Mus.  
(3) Stone  
(4) 森 1996: 図 7, No. 74; 1997a: 図37, No. 22  
(5) 右手, 胸の前に置く, 左手不明。輪王坐。頭部, 右手の一部, 左腕, 左足の一部欠損。
- 321 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Bronze  
(4) Mitra 1993: Pl. CCLXXXII (B); 森 1996: No. 76  
(5) 右手, 膝の上に置く, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。輪王坐。火炎を周囲に配した光背。
- 322 (1) Mañjuśrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Bénisti 1981: Fig. 130; 森 1996: No. 77  
(5) 右手, 膝の上に置く, 左手, 梵夾

- を載せた睡蓮。輪王坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 323 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LII (D); 森 1996: No. 78  
 (5) 右手、膝の上に置く。左手、梵夾を載せた睡蓮。輪王坐。奉獻塔の龕中の浮彫。小塔上部は欠損。

結跏趺坐

- 324 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Metal  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXCIX (A); 森 1996: No. 94  
 (5) 右手、与願印、左手、睡蓮。結跏趺坐。舟形の光背。

立像

- 325 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCLVI (B); 森 1996: No. 121  
 (5) 右手、与願印、左手、梵夾を載せた睡蓮。
- 326 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 116図; 森 1996: No. 122  
 (5) 右手、与願印、左手、不明。光背のかなりの部分が欠損し、尊像の表面も磨滅。
- 327 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 107図; 頼富 1988b: 図 8, リスト-8; 森 1996: No. 123  
 (5) 右手、与願印、左手、梵夾を載せ

- た睡蓮。向かって右下に右手に杖？を持つチャマーンタカ。Siddhaikavira (頼富 1998b)。
- 328 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 81図; 森 1996: 図14, No. 124  
 (5) 右手、与願印、左手、睡蓮。向かって左下に睡蓮を持ってうづくまる女性脇侍、右下には本尊の睡蓮の茎を持ち、左手を膝に当てて立つ脇侍。光背左上部に飛天。両腕欠損。
- 329 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ayodhyā  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1968: Fig. 65; 森 1996: No. 125  
 (5) 右手、胸の前、左手、梵夾を載せた睡蓮。宝冠。女性の二脇侍。光背上部に二飛天。右側にも睡蓮の浮彫。
- 330 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図 1, 61図; Mitra 1983: Pl. CCXLVIII (C); 森 1996: No. 126  
 (5) 右手、与願印、左手、睡蓮。向かって左側に蓮華？を持った女性脇侍、右側には扨子を持った女性脇侍。光背の上部左右に二飛天。本尊の右肩の上部に蓮華の浮彫。台座に二竜王、供養者、瓶の浮彫。頭部、左腕欠損。
- 331 (1) Mañjuśrī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 7 c. (Saraswati), 9 c (インド美術), 42.5'' × 14.5''  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 132; 佐和 1982:

- 28図; Mitra 1983: Pl. CCCXXXVI (A); 頼富 1988a: 図13, リスト-6; 1988b リスト-6; 森 1996: 図15-20, No. 131
- (5) 右手, 与願印, 左手, 睡蓮。豪華な宝冠。光背の左右に蓮華の茎が伸び, その上に触地印(向かって左)と定印(右)の如来像を載せる。脇侍として, 仏子と睡蓮を持つ二女性。右の女性には損傷がある。二臂宝冠文殊菩薩立像(佐和 1982)。
- 332 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri, 現地収蔵庫  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 122図; 頼富 1990: 図7; 森 1996: No. 128  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 睡蓮。向かって左下に与願印を示す女性脇侍, 右下には剣を持つ女性脇侍。光背上部および両腕の一部欠損。
- 333 (1) Mañjuśrī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 111図; 頼富 1988b: 図7, リスト-7; 森 1996: No. 129  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 梵夾を載せた睡蓮。向かって左下に, 左手に香炉?を持ってうづくまる脇侍。右下には二供養者。光背左上部に飛天。Siddhaikavīra (頼富 1988b)。光背右上部欠損。
- 334 (1) Mañjuśrī  
 (2) Udayagiri; 遺跡近くの小学校校庭。  
 (3) Stone, 160×70 cm  
 (4) [図112~114]  
 (5) 右手は胸, 左手は睡蓮の上に置く。睡蓮は足元から伸び, 左手の下と左肩の上にふたつの花を付ける。顔の中間部, 腹部の二箇所まで水平に亀裂。向かって左下に水牛にま
- たがるヤマーンタカ。三面四臂程度確認できる。ヤマーンタカの持物は絹索。表面はかなり磨滅している。
- 335 (1) Mañjuśrī  
 (2) Kendrāparā, Cuttack; Indian Mus., Calcutta  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1968: Fig. 37; 森 1996: No. 130  
 (5) 右手, 与願印, 左手, 睡蓮。宝冠。蓮台に坐る女性の二脇侍。光背上部に二飛天。
- 断片
- 336 (1) Mañjuśrī  
 (2) Udayagiri; 現地  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 顔と胸の部分のみ現存。持物の睡蓮の一部は確認できる。
- 弥勒
- 立像
- 337 (1) Maitreya? (Mañjuśrī?)  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 図37; Mallmann 1983: Pl. CCCLIV (A); 森 1998: No. 73  
 (5) 表面の磨滅が著しい。向かって左下に合掌する女性供養者。
- 338 (1) Maitreya  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 図98; 佐久間 1991-1993: A-X-I-11; 森 1998: No. 74  
 (5) 髪髻冠。仏塔の有無は不明。左手に龍華(表面は磨滅)。光背向かって左上に触地印仏坐像。光背向かって右上部欠損。八大菩薩中の一

- 尊。
- 339 (1) Maitreya  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone, 7'6''×3'2'', 8-9 c (Sahu)  
(4) Sahu 1958: Fig. 23; 佐和 1982: 図104; 頼富 1990: 図74; 森 1998: No. 75  
(5) 髪髻冠。仏塔は表現されていない。左手に龍華。足元の左右に女性が蓮華の上に輪王坐で坐る。いずれも睡蓮を持つ。光背上部左右に飛天。光背左右に火炎の文様。八大菩薩中の一尊。
- 坐像・与願印
- 340 (1) Maitreya  
(2) Ratnagiri  
(3) Bronze  
(4) Mitra 1981: Pl. XXXIII (A); 森 1998: No. 77  
(5) 仏塔を付けた髪髻冠。左手には龍華。結跏趺坐。
- 341 (1) Maitreya?  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 38.1×23.5 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. CCCXXXIII (A); 森 1998: No. 78  
(5) 頭部、右腕、脚部欠損。おそらく遊戯坐で与願印を示す。龍華の茎のみ残存。
- 342 (1) Maitreya?  
(2) Baud  
(3) Bronze, 9 c (Sahu)  
(4) Sahu 1958: Fig. 52; 森 1998: No. 80  
(5) 髪髻冠。左手に龍華。遊戯坐。傘蓋のついた円形の光背。図版不鮮明のため詳細不明。
- 坐像・施無畏印
- 343 (1) Maitreya  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 18.5×11.5 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. CLXXII (D); 森 1998: No. 81  
(5) 髪髻冠。左手に龍華。遊戯坐。体の右側にも植物。
- 344 (1) Maitreya  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXII (B); 森 1998: No. 82  
(5) 髪髻冠。左手に龍華。遊戯坐。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 345 (1) Maitreya  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXII (C); 森 1998: No. 83  
(5) 髪髻冠。左手に龍華。遊戯坐。奉獻塔龕中の浮彫。
- 坐像・転法輪印
- 346 (1) Maitreya  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 38.1×23.5 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. CLXXI (B); 森 1998: No. 85  
(5) 髪髻冠。水瓶を載せた龍華を左手に持つ。遊戯坐。光背上部左右に蓮華。台座左右に供養者。
- 347 (1) Maitreya  
(2) Balasore  
(3) Stone  
(4) Sahu 1958: Fig. 78; 森 1998: No. 86  
(5) 髪髻冠。真横から撮影した図版のみをSahuは紹介。詳細は不明。
- 金剛手
- 348 (1) Vajrapāṇi  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Saraswati 1977: Pl. 165; Bénisti

1981: Fig. 164; 佐和 1982: 挿図81; 15図; 頼富 1991: 図12; 森 1997b: No. 14, 図4

- (5) 立像。宝冠をいただく。耳飾り、瓔珞、聖紐、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。右手に扠子、左手は睡蓮の茎を持つ。睡蓮は大地から伸び、花の上に水平に金剛杵を載せる。宝珠型の頭光の浮彫。触地印仏坐像の左脇侍。右脇侍は蓮華手。
- 349 (1) Vajrapāṇi  
 (2) Khadipada, Baleshwar; Orissa State Mus.  
 (3) Stone; 137×57 cm  
 (4) 森 1997a: 図30, No. 18; 1997b: No. 15  
 (5) 立像。頭部、両腕、光背向かって左上欠損。瓔珞、聖紐、条帛、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。右手持物不明、左手はおそらく睡蓮の茎を持つ。睡蓮は大地から伸び、花の上に水平に金剛杵を載せる。おそらく同博物館所蔵の蓮華手 [228] と一対の作品。Avalokiteśvara (Mus).
- 350 (1) Vajrapāṇi  
 (2) Lalitagiri; Indian Mus., Calcutta, Acc. No. 6953/A24135  
 (3) Stone, 10 c (Mus)  
 (4) Sahu 1958; Figs. 36, 41; 佐和 1982: 挿図12, 125図; 岩宮 1989: 図213; 頼富 1990: 図73; 森 1997b: No. 16, 図7, 8, 9  
 (5) 立像。右腕、光背上部左右欠損。円筒形の宝冠。垂髪。耳飾り、瓔珞、聖紐、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。左手は水平に金剛杵を載せた睡蓮の茎を持つ。体の右側にも睡蓮が伸びる。左右に輪王坐で蓮台に坐る女性。いずれも
- 体の横に睡蓮が伸びる。周囲に火炎を配した光背。八大菩薩のセットの1尊。
- 351 (1) Vajrapāṇi  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 123図; 森 1997b: No. 17, 図10, 11  
 (5) 立像。両腕、光背上部向かって左側欠損。円錐形の宝冠。垂髪。耳飾り、瓔珞、聖紐、臂釧、ドーティを身に付ける。左手はおそらく睡蓮の茎を持つ。睡蓮は大地から伸び、花の上に水平に金剛杵を載せる。体の右側にも睡蓮が伸びる。向かって左に結跏趺坐の女性。体の左側に睡蓮が伸び、直立した金剛杵を花の上に載せる。向かって右に輪王坐の女性。右手に金剛杵を持つ。いずれも蓮台に坐る。光背上部向かって右に飛天。八大菩薩のセットの中の一点。
- 352 (1) Vajrapāṇi  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図120; 森 1997b: No. 18  
 (5) 遊戯坐。円筒形の宝冠。垂髪。耳飾り、瓔珞、聖紐、条帛、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。右手と願印。左手は座の上に置き、そこから睡蓮が伸びる。花の上に水平に金剛杵を載せる。両側に女性立像。いずれも円形の耳飾りと、連珠の首飾りを付け、右手に扠子、左手に植物のようなものを持つ。光背上部左右に飛天。台座左右に獅子。
- 353 (1) Vajrapāṇi  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone

- (4) 森 1997b: No. 19, 口絵3 [図115]
- (5) 遊戯坐。円筒形の宝冠。垂髪。円形の大きな耳飾り、瓔珞、聖紐、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。右手は胸の前に保ち、直立した金剛杵を載せる。左手は座の上に置き、そこから睡蓮が伸びる。茎の部分は欠損。光背上部左右に円錐形の帽子をかぶった飛天。台座に供物と供養者の浮彫。宝珠型の頭光の浮彫。頭光周囲に銘文。
- 354 (1) Vajrapāṇi  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 122×66 cm  
(4) Saraswati 1977: Pl. 64; Mitra 1981: Pl. CIX (A); 佐和 1982: 挿図82, 10 図; 佐久間 1991-1993: B-S1-S2a-S2d-M1-1; 森 1997b: No. 20, 図5 [図116~118]
- (5) 四臂立像。宝冠。垂髪。耳飾り、瓔珞、聖紐、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。右前手は与願印を示し、右後手は数珠を持つ。体の左側に睡蓮が大地から伸び、左後手でその花を持つ。花の上には金剛杵を水平に載せる。右前手は水瓶を持ち、別の花の上に載せる。光背上部左右に仏坐像。印相は向かって左が触地印、右が与願印。向かって左にやせた男性像。中尊の方を見てうずくまり、両手を口の前に置く。向かって右には四臂の男性像。主要な二臂を胸の前で交差させ、右後手は手のひらを上に上げ、左後手は羂索を持つ。展左の姿勢で立つ。
- 355 (1) Vajrapāṇi  
(2) Vajragiri; Orissa State Mus.  
(3) Stone, 139 cm  
(4) 森 1997a: 図3, 31-34, No. 19; 1997b; No. 21, 図6
- (5) 四臂立像。髪は一つに束ね、垂髪が肩に掛かる。耳飾り、瓔珞、聖紐、臂釧、腕釧、ドーティを身に付ける。右前手は肘から先が欠損しているが、おそらく扠子を持つ。右後手は大地から伸びた睡蓮を持つ。花の上には金剛杵を水平に載せる。左前手は脇侍の頭の上に置く。左後手は直方体の何か(梵夾?)を持つ。光背上部左右に飛天。向かって左に女性坐像。右手は胸の前に置き、直立した金剛杵を持つ。向かって右には四臂の男性像。主要な二臂で胸の前で合掌し、右後手は期剋印?, 左後手は剣を持つ。炎髪。蛇の装身具。短ドーティをまとい、主尊の方を見上げる。Vajrapāṇi Avalokitesvara (Mus).
- 356 (1) Vajrapāṇi  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXII (A); 森 1997b: No. 24  
(5) 遊戯坐。右手与願印。左手は金剛杵を水平に載せた睡蓮を持つ。奉献塔の龕中の浮彫。
- 金剛薩埵
- 357 (1) Vajrasattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 挿図2, 60 図; Mitra 1983: Pl. CCXL (A); 頼富 1990: 図6; 森 1997b: No. 38  
(5) 半跏坐。右手は直立した金剛杵を胸の前で持つ。左手は腰のあたりでおそらく金剛鈴を持つ。巻き貝型の頭髪。垂髪。磨滅が著しく、特に左腕は残存部分が少ない。祠堂内は、正面に胎藏大日、その左に金剛薩埵、右に金剛法菩薩。

- 358 (1) Vajrasattva  
 (2) Salempur (Solampur?)  
 (3) Stone, 9 c (Saraswati)  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 158; 森 1997b: No. 39  
 (5) 結跏趺坐。右手は直立した金剛杵を胸の前で持つ。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。巻き貝型の髪型。冠飾, 璽珞, 臂釧, 腕釧。蓮台の向かって左寄りに帰依者の浮彫。台座最下段に銘文。宝珠型の頭光の浮彫。
- 359 (1) Vajrasattva  
 (2) Solampur; Indian Mus., Calcutta  
 (3) Stone, 9 c (Saraswati)  
 (4) Sahu 1958: Fig. 46; Saraswati 1977: Pl. 160; 森 1997b: No. 40  
 (5) 結跏趺坐。右手は直立した金剛杵を胸の前で持つ。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。円錐型の髪型。冠飾, 璽珞, 聖紐, 臂釧, 腕釧, ドーティを身につける。光背上部左右に仏塔の浮彫。台座左右に帰依者の浮彫。
- 360 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 21  
 (3) Stone, 16.5×16.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXII (C); 森 1997b: No. 41  
 (5) 坐像。腰から上のみ残存。右手は金剛杵を胸の前で握る。円錐型の髪型。冠飾, 璽珞, 聖紐, 臂釧, 腕釧を身につける。光背上部左右に飛天の浮彫。
- 361 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. 1961/86  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLXIX (C); 森 1997b: No. 42  
 (5) 半跏坐。頭部欠損。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。
- 362 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVI (B); 森 1997b: No. 46  
 (5) 半跏坐。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 363 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVI (C); 森 1997b: No. 47  
 (5) 半跏坐。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 364 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXV (C); 森 1997b: No. 43  
 (5) 半跏坐。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 365 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXV (D); 森 1997b: No. 44  
 (5) 半跏坐。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 366 (1) Vajrasattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXVI (A); 森 1997b: No. 45  
 (5) 半跏坐。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。奉獻塔の龕中の浮彫。

- 367 (1) Vajrasattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. LII (C); Bénisti 1981: Fig. 127; 森 1997b: No. 48  
(5) 半跏坐。右手は金剛杵を胸の前で握る。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 368 (1) Vajrasattva  
(2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-1, 589  
(3) Stone, 18 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XC (A); 森 1997b: No. 49  
(5) 結跏趺坐。右手は直立した金剛杵を胸の前で持つ。左手は腰のあたりで金剛鈴を持つ。円錐型の髪型。冠飾, 瓔珞, 聖紐。光背上部左右に蓮華。台座に供物の浮彫。奉獻塔の龕中の浮彫。
- その他の菩薩
- 八大菩薩単独像
- 369 (1) Ākāśagarbha?  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 口絵14, 105図; 頼富 1990: 図76  
(5) 立像。右手と願印, 左手, 剣を載せた睡蓮。髪髻冠。頭飾, 耳飾り, 冠帯, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。左右に女性脇侍。いずれも遊戯坐。右脇侍は右手はと願印, 左手に蓮華を持つ。左脇侍は右手に剣を持ち, 左手に蓮華?を持つ。右脇侍の下に合掌する女性像。光背上部左右に飛天。光背の左右に火炎の浮彫。
- 370 (1) Ākāśagarbha?  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone
- (4) 佐和 1982: 82図  
(5) 立像。右手と願印, 左手, 剣を載せた開敷蓮華。髪髻冠。頭飾, 耳飾り, 冠帯, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。左右に女性脇侍。いずれも遊戯坐。右脇侍は右手は座の上に置き, 左手は剣を載せた花?を脇に抱える。左脇侍は左右の手は逆であるが, 同じ持物。光背上部左右に飛天。
- 371 (1) Kṣīṭigarbha?  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) Sahu 1958: Fig. 27; 佐和 1982: 94図; 頼富 1990: 図79; 佐久間 1991-1993: A-S1-M1-II-21  
(5) 立像。右手と願印, 左手, 宝珠を載せた蓮華。髪髻冠。頭飾, 耳飾り, 冠帯, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。右脇侍は輪王坐で坐る女性。右手は座の上に置き, 左手は膝の上に置いて睡蓮?を持つ。左脇侍はひげを生やした男性。うづくまり, 手に何か持つ。光背上部左右に飛天。
- 372 (1) Kṣīṭigarbha  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 首より上が現存。左持物, 宝珠を載せた睡蓮。光背上部左右に飛天。
- 373 (1) Samantabhadra?  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 121図  
(5) 立像。右手と願印, 左手, 三つ又に分かれた植物。髪髻冠。頭飾, 耳飾り, 冠帯, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。左右に女性脇侍。いずれも遊戯坐で坐り, 合掌する。光背上部左右に飛天。



- 374 (1) Samantabhadra?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 108図  
 (5) 立像。右手与願印, 左手, 三つ又に分かれた植物。髮髻冠。頭飾, 耳飾り, 冠帯, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。
- 375 (1) Samantabhadra?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 100図; 頼富 1990: 図77  
 (5) 立像。右手与願印, 左手, 三つ又に分かれた植物。髮髻冠。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。左右に女性脇侍。右脇侍は右膝, 左脇侍は左膝を立てて坐る。膝の上に手を置く。持物はなし。右脇侍の下に帰依者。光背上部左右に飛天。光背の左右に火災の浮彫。
- 376 (1) Sarvanivaraṇaviṣkambhin?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図 5, 106図  
 (5) 立像。右手与願印, 左手, 旗を載せた開敷蓮華。髮髻冠。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。左右に女性脇侍。右脇侍は右膝, 左脇侍は左膝を立てて坐る。膝の上に手を置く。右脇侍は睡蓮? を左手に持つ。左脇侍の腰から上は欠損。光背上部左右に飛天。
- 377 (1) Sarvanivaraṇaviṣkambhin?  
 (2) Lalitagiri; Indian Mus., Calcutta, Acc. No. 6354/A24134  
 (3) Stone, 6'1" × 3'3"  
 (4) Sahu 1958: Fig. 37; 佐和 1982: 挿図 6, 126図; 頼富 1983: 図 3; 1990: 図 78; 佐久間 1991-1993: A-X-II-14  
 (5) 立像。右手与願印, 左手, 旗を載
- せた開敷蓮華。髮髻冠。三山頭飾, 耳飾り, 首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。左右に女性脇侍。右脇侍は右膝, 左脇侍は左膝を立てて坐る。膝の上に手を置く。持物はなし。右脇侍の下に帰依者。光背上部左右に飛天。光背左右に火災の浮彫。
- 378 (1) Maitreya?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 117図  
 (5) 立像。首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。頭部, 持物欠損。左右に女性脇侍。いずれも合掌する。
- 379 (1) Avalokiteśvara?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 95図  
 (5) 立像。膝より下のみ残存。左右に女性脇侍坐像。右脇侍 (ターラー) は左手に蓮華の蕾? を持ち, 右手を添える。左脇侍 (ブリクティ) は四臂で, 結跏趺坐で坐る。右手, 与願印, 数珠, 左手, 水瓶, 不明。
- 380 (1) Kṣītigarbha?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 84図  
 (5) 立像。頭部欠損。右手与願印, 左手は左脇侍の頭の上に載せる。首飾り, 聖紐, 臂釧, 腕釧。右脇侍女性坐像。左脇に睡蓮? を抱える。一部磨滅。左脇侍男尊立像。右手は胸の前で金剛杵? を持ち, 左手は下に垂らす。

未比定菩薩像

- 381 (1) Vajradhara?  
 (2) Ratnagiri, Reg. No. RTR-2, 33  
 (3) Stone, 38.7 × 20.3 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXII (A)

- (5) 半跏坐。右手は右膝のあたりに置き、左手は胸の前に保つ。頭部、および左右の手首欠損。冠帯、首飾り、耳飾り、臂釧、腕釧。光背上部左右に飛天。光背に銘文。
- 382 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCIII (A)  
 (5) 胸より上のみ現存。髪髻冠、垂髪。頭飾、首飾り。光背向かって左上の飛天は残存。
- 383 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXXI (C)  
 (5) 頭部のみ。円錐形の髪型。頭飾。
- 384 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXXI (D)  
 (5) 頭部のみ。丸い髪型。頭飾。
- 385 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCCLIII (D)  
 (5) 胸より上のみ現存。表面磨滅。
- 386 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 腰より上のみ現存。表面磨滅。上段に三尊の小像。向かって左端は華鬘を持つ女尊。残り二尊は菩薩坐像。
- 387 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 胸より上の右半身のみ現存。表面磨滅。
- 388 (1) Mañjuśrī?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 胸より上のみ残存。左手の持物は梵夾を載せた睡蓮。
- 389 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 頭部の一部のみ。
- 390 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 129図  
 (5) 頭部のみ。上部に仏坐像四体。
- 391 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 83図, 118図  
 (5) 頭部のみ。向かって左に飛天。
- 392 (1) Vajrapāṇi?  
 (2) Lalitagiri; Guimét Mus., Paris  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 128図  
 (5) 上半身のみ。円筒形の宝冠。
- 393 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 首より上が現存。左持物、開敷蓮華。光背上部左右に飛天。
- 394 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Vajragiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図41  
 (5) 上半身のみ残存。四臂。
- 395 (1) Unidentified Bodhisattva  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)

- (5) 首より腰のみ残存。首飾り，聖紐，  
臂釧。
- 396 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. CLXXXIV (B)  
(5) 立像。腰から膝のみ残存。聖紐。
- 397 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 遊戯坐。腰より下のみ現存。
- 398 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 立像。胴体の一部と右手の一部のみ残存。数珠を持つ。
- 399 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 立像。腰より下のみ残存。聖紐。  
左手は植物の茎を持つ。
- 400 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 立像。腰より下のみ残存。右手与願印。
- 401 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 立像。右足の一部のみ残存。
- 402 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 413  
(3) Stone, 10-11 c (Mitra)  
(4) Mitra 1981: Pls. XXIII (A), (B)  
(5) 腰より下のみ残存。遊戯坐。聖紐。
- 403 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. C (A)  
(5) 腰より下のみ残存。遊戯坐。聖紐。
- 404 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: Pl. C (B)  
(5) 腰より下のみ残存。遊戯坐。聖紐。
- 405 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1983: Pl. CCXXXIII (B)  
(5) 腰より下のみ残存。遊戯坐。聖紐。
- 406 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1983: Pl. CCCXLIII (B)  
(5) 腰より下のみ残存。遊戯坐。聖紐。
- 407 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 腰より下のみ残存。遊戯坐。右手与願印。聖紐。
- 408 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 右足と台座のみ残存。遊戯坐。
- 409 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 立像。膝より下のみ残存。金剛手  
(佐和 1982)。
- 410 (1) Vajradharma?  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4)  
(5) 奉獻塔龕中の浮彫。

- 411 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: LXXII (D)  
(5) 遊戯坐。左手は蓮華を持つ?。奉  
献塔龕中の浮彫。
- 412 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: LXXIII (D)  
(5) 坐像。表面磨滅。奉献塔龕中の浮  
彫。
- 413 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: CCLXVII (B)  
(5) 輪王坐。両腕欠損?。奉献塔龕中  
の浮彫。
- 414 (1) Unidentified Bodhisattva  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: CCLXVII (A)  
(5) 輪王坐。右手は頰杖、左手は蓮華。  
奉献塔龕中の浮彫。

### 女尊

#### アパラージター

- 415 (1) Aparājītā  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone, 8-9 c (Sahu)  
(4) Sahu 1958: Fig. 24; 佐和 1982: 97図;  
森(喜) 1990: 2.1.5; 頼富・下泉  
1994: 214  
(5) 立像。右手肘より先欠損(Sahuの  
図版では残存)。左手期剋印。丸い  
髪型。首飾り、耳飾り、腰飾、臂  
釧、腕釧、足輪。光背上部に傘蓋。  
展右。右足の下にはマーラ、左足  
の下にはガネーシャ。右脇侍、傘  
蓋を掲げる女尊。光背上部向かっ

- て右上に飛天。光背上部向かって  
左上欠損。
- 416 (1) Aparājītā  
(2) Ratnagiri, Stupa 16, RTR-1, 586  
(3) Stone, 30.2 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XXIV (C); 森(喜)  
1990: 2.1.4  
(5) 右手振り上げる。左手は羂索を持  
ち、期剋印を示す。首飾り、耳飾  
り、腰飾、臂釧、腕釧、足輪。光  
背上部に傘蓋。遊戯坐。左足の下  
にガネーシャ。
- 417 (1) Aparājītā  
(2) Udayagiri  
(3) Stone  
(4) [図119]  
(5) 立像。首より上部欠損。左手、期  
剋印。右脇侍、傘蓋を掲げる。左  
脇侍女尊。左足の下にガネーシャ。

#### ウシュニーシャヴィジャヤー

- 418 (1) Uṣṇiṣavijayā  
(2) Ratnagiri, Reg. No. 1961/5  
(3) Stone, 24.3×26 cm  
(4) Bénisti 1981: Fig. 161; Mitra 1983:  
Pl. CCLIII; 森(喜) 1990: 2.2.2  
(5) 三面八臂。髮髻冠。耳飾り、首飾  
り、臂釧、腕釧。右手、与願印、(他  
欠損)。左手、期剋印、(他不明)。  
光背上部に三体の仏坐像の浮彫。  
台座左右に帰依者。奉献塔の龕中  
の浮彫。

#### クルクッラー

- 419 (1) Kurukullā  
(2) Udayagiri  
(3) Stone, 8-9 c (Sahu)  
(4) Sahu 1958: Pl. 21; 森(喜) 1990:  
2.3.2  
(5) 遊戯坐。四臂。右手、与願印、矢、  
左手、無し?、弓。

- 420 (1) Kurukullā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVI (A); 森 (喜) 1990: 2.3.3  
 (5) 結跏趺坐。四臂?。主要な2臂で弓を射る。残りの右手, 与願印, 左手は不明。奉献塔の龕中の浮彫。Tārodbhava-Kurukullā (Mitra).
- 421 (1) Kurukullā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXV (D)  
 (5) 結跏趺坐。四臂。主要な2臂で弓を射る。残りの右手, 与願印, 左手は不明。奉献塔の龕中の浮彫。Tārodbhava-Kurukullā (Mitra).
- 422 (1) Kurukullā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVI (A)  
 (5) 結跏趺坐。四臂。主要な2臂で弓を射る。残りの右手, 与願印, 左手は不明。奉献塔の龕中の浮彫。Tārodbhava-Kurukullā (Mitra).
- ガンガー
- 423 (1) Gangā  
 (2) Udayagiri; Patn Mus., Acc. No. 6498  
 (3) Stone, 8 c (Mus)  
 (4) Sahu 1958: Fig. 13; 佐和 1982: 141 図; Donaldson 1986: Fig. 2817  
 (5) 立像。髪を大きく丸く結う。耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。マカラに乗る。左右に女性脇侍。向かって左にさらに傘蓋を掲げる女性。光背向かって左上に2人の聖仙, 2羽の水鳥。向かって右上には両手を前に出す女性。ウダヤギリ現地のヒンドゥー祠堂に, この作品
- と対となるヤムナー像 [470] がある。
- チュンダー
- 424 (1) Cundā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 46.3×33 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCVIII; 森 (喜) 1990: 2.4.19  
 (5) 四臂。結跏趺坐。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 数珠, 左手, 蓮華。台座左右に供物と帰依者。光背上部左右に飛天。
- 425 (1) Cundā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 50 図; Mitra 1983: Pl. CCCL (B); 森 (喜) 1990: 2.4.17  
 (5) 四臂。結跏趺坐。首飾り, 臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 数珠。左手, 不明。頭部欠損。
- 426 (1) Cundā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 9 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXXI (A); 森 (喜) 1990: 2.4.20  
 (5) 四臂。結跏趺坐。首飾り, 臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 数珠, 左手, 水瓶。
- 427 (1) Cundā?  
 (2) Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 61 cm, 8 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図42, No. 27  
 (5) 四臂?。結跏趺坐。首飾り, 臂釧, 腕釧。頭部, 右腕欠損。左手, 水瓶, (不明)。全体は円形のパネルか?
- 428 (1) Cundā?  
 (2) Udayagiri; 現地のヒンドゥー祠堂  
 (3) Stone

- (4) [図120]
- (5) 八臂？。結跏趺坐。表面磨滅。光背上部左右に飛天。
- 429 (1) Cundā?
- (2) Cuttack; Patna Mus. No. 6500
- (3) Stone
- (4) Sraswati 1977: Pl. 138; 頼富・下泉 1984: 202 [図121~124]
- (5) 十二臂。遊戲坐。丸い髪型。一面頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 足輪。主要な二臂は定印に鉢を持つ。右手, 与願印, 与願印で宝を示す, 数珠, 金剛杵, 矢, 左手, ほら貝, 網索, 蓮華, 弓, 蛇？。光背上部中央に定印仏坐像(頭部欠損)。左右に菩薩立像。向かって左の像は右手に仏子を持つ。左手の持物は不明。向かって右は膝より下のみ残存。台座向かって左端に, 右手与願印, 左手, 梵夾を乗せた睡蓮を持ち, 結跏趺坐で坐る女尊。装身具や髪型は中尊にほぼ一致。右端に, 四臂の忿怒形の女尊立像。右手は与願印と斧, 左手は不明。両者の間に帰依者と供物。
- 430 (1) Cundā?
- (2) Bhuvaneswar; Orissa State Mus.
- (3) Stone, 7 c (Mus)
- (4) 森 1997a: 図41, No. 26
- (5) 八臂。結跏趺坐。臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 与願印, (その他不明), 左手, 梵夾, (その他不明)。台座向かって右端にやや大きく女性坐像。台座に帰依者と供物。光背上部欠損。
- 431 (1) Cundā
- (2) Baniā Shāhi, Cuttack
- (3) Stone
- (4) Sahu 1958: Fig. 77; 森(喜) 1990: 2.4.16
- (5) 四臂。結跏趺坐。髪髻冠。冠帯, 臂釧, 腕釧。右手, 与願印, 数珠, 左手, 与願印, (不明)。
- 432 (1) Cundā
- (2) Ratnagiri
- (3) Stone, 33.7×23.5 cm
- (4) Bénisti 1981: Fig. 149; Mitra 1981: Pl. XLVI (B); 森(喜) 1990: 2.4.18
- (5) 四臂。結跏趺坐。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 数珠, 左手, 蓮華。台座左右に供物と帰依者。奉献塔の龕中の浮彫。
- 433 (1) Cundā
- (2) Ratnagiri, RTR-1, 69
- (3) Stone, 26.7 cm
- (4) Mitra 1981: Pl. LI (C); 森(喜) 1990: 2.4.26
- (5) 四臂。結跏趺坐。頭飾, 耳飾り, 臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 数珠, 左手, 水瓶？。奉献塔の龕中の浮彫。
- 434 (1) Cundā
- (2) Ratnagiri
- (3) Stone, 26.7 cm
- (4) Mitra 1981: Pl. LXXX (B); 森(喜) 1990: 2.4.27
- (5) 四臂。結跏趺坐。頭飾, 耳飾り, 臂釧, 腕釧。主要な二臂は定印。右手, 数珠, 左手, 不明。奉献塔の龕中の浮彫。
- 435 (1) Cundā
- (2) Ratnagiri
- (3) Stone
- (4) Mitra 1981: Pl. LXXX (C); 森(喜) 1990: 2.4.28
- (5) 四臂。結跏趺坐。主要な二臂は定印。右手, 数珠, 左手, 不明。奉献塔の龕中の浮彫。
- 436 (1) Cundā
- (2) Ratnagiri

- (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXX(D); 森(喜) 1990: 2.4.29  
 (5) 四臂。結跏趺坐。主要な二臂は定印。右手、数珠、左手、不明。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 437 (1) Cundā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXI (A); 森(喜) 1990: 2.4.30  
 (5) 四臂。結跏趺坐。主要な二臂は定印。右手、数珠、左手、水瓶?。奉獻塔の龕中の浮彫。

パルナシャバリ

- 438 (1) Parṇaśabari?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXXVI (B); 森(喜) 1990: 2.6.6  
 (5) 六臂。結跏趺坐。持物は右手に金剛杵と矢、左手、期剋印、弓、その他は不明。奉獻塔の龕中の浮彫。

般若波羅蜜

- 439 (1) Prajñāpāramitā  
 (2) Ratnagiri, RTR-1, 591  
 (3) Stone, 16.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. XCVII (B); 森(喜) 1990: 2.7.4  
 (5) 二臂。半跏坐。蓮華の茎を持って合掌。髮髻冠。耳飾り、首飾り、臂釧、腕釧。
- 440 (1) Prajñāpāramitā  
 (2) Bāṇeśvaranāsi  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 56; 森(喜) 1990: 2.7.1  
 (5) 二臂。結跏趺坐。両手首欠損。蓮華の茎を持って合掌をしていた?。

髮髻冠。三山頭飾、耳飾り、首飾り、臂釧、腕釧。

- 441 (1) Prajñāpāramitā  
 (2) Choudwar  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 58; 森(喜) 1990: 2.7.2  
 (5) 四臂。結跏趺坐。主要な二臂は転法輪印、その他の右手は与願印、左手、蓮華。円錐形の髪型。耳飾り、首飾り、臂釧、腕釧。光背の四方に蓮華を持って合掌する二臂女尊坐像。台座に七宝、帰依者、供物。光背上部左右に飛天。

ブリクティ

- 442 (1) Bhṛkuṭī  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 110図; 森(喜) 1990: 2.8.8 [図125~127]  
 (5) 四臂。立像。右手、与願印、数珠、左手、払子、金剛杵。三山頭飾、耳飾り、臂釧、腕釧。左右に払子を持った女性脇侍立像。光背上部左右に飛天。

- 443 (1) Bhṛkuṭī  
 (2) Vajragiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 145図; 森(喜) 1990: 2.8.9  
 (5) 四臂?。立像。右手、数珠、左手、水瓶?。その他は不明。下半身は欠損。

マーリーチ

- 444 (1) Mārīci  
 (2) National Mus., New Delhi  
 (3) Stone  
 (4) [図128~130]  
 (5) 三面六臂。展左。三面はいずれも

- 人間の顔。右手，針，（欠損），金剛杵，左手，期剋印と羂索，弓，糸？。髮髻冠。三山頭飾，耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。体の左右に二体ずつ，頭上向かって左寄りに合計五体の仏。いずれも浮遊する姿の浮彫。台座は7頭の馬。その外側に車輪。両足の間に四臂の御者。両足の外側に二人ずつの婦依者。光背上部左右に飛天。
- 445 (1) Māricī  
 (2) Kendrāparā, Cuttack; Indian Mus., Calcutta  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 40; 頼富・下泉 1994: 212; 森（喜）1990: 2.10.3  
 (5) 三面八臂。展左。向かって右は猪の顔。右手，針？，（その他欠損），左手，期剋印と羂索，弓，糸？，アショーク樹の花。髮髻冠。三山頭飾，耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。体の左，頭上，両足の間に合計3体の女尊立像。いずれも展左で立ち，弓と矢を構える。おそらく体の右側にも同じ像があったと考えられるが，欠損。台座は7頭の野猪。チャイトヤを型どった光背。
- 446 (1) Māricī  
 (2) Ayodhyā  
 (3) Stone, 53.5×31.5 in.  
 (4) Sahu 1958: Fig. 64; 森（喜）1990: 2.10.8; Donaldson 1995a: Fig. 16  
 (5) 三面八臂。展左。右手，針？，鉤？，矢，左手，糸？，期剋印，羂索，アショーク樹の花。髮髻冠。頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。台座は7頭の野猪。両足の外側と間に展左で立つ野猪の頭の女尊。光背上部に銘文。
- 447 (1) Māricī  
 (2) Khiching; Bāripadā Mus.  
 (3) Stone.  
 (4) Sahu 1958: Fig. 71  
 (5) 三面八臂。展左。向かって右は野猪の顔。右手，矢，金剛杵，左手，期剋印と羂索，弓，アショーク樹の花。その他不明。髮髻冠。頭飾，首飾り，臂釧，腕釧。台座は7頭の野猪。頭上に樹木（アショーク樹？）。
- 448 (1) Māricī  
 (2) Astarāṅga  
 (3) Stone, 13×17 in.  
 (4) Sahu 1958: Fig. 74; 森（喜）1990: 2.10.16  
 (5) 三面八臂？。展左。右手，矢，金剛杵，左手，弓，アショーク樹の花。その他不明。髮髻冠。台座は7頭の野猪。周囲に四人の女尊。チャイトヤ型の龕の中。詳細は不明。
- 449 (1) Māricī  
 (2) Udla  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 79; 森（喜）1990: 2.10.7  
 (5) 三面六臂？。向かって右は野猪の顔。右手，金剛杵，左手，期剋印と羂索。その他不明。円錐型の髪。耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧。腰より下欠損。
- 450 (1) Māricī  
 (2) Odisoandeigoda, Singhapur  
 (3) Stone, 16×8.5 in., late 10 c (Donaldson)  
 (4) Donaldson 1995a: Fig. 17  
 (5) 三面十臂。展左。向かって右は野猪の顔。右手，矢，劍，左手，期剋印と羂索，弓，三叉戟。その他不明。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。台座に7頭の野猪。



- 両足の間に展左の女尊。光背上部左右に蓮華の浮彫。Oḍḍiyāna Mārīci (Donaldson).
- 451 (1) Mārīci?  
 (2) Mārīcipur  
 (3) Stone, 14.5×21 in., late 10-early 11 c (Donaldson)  
 (4) Donaldson 1995a: Fig. 18  
 (5) 五面八臂。展左。右手, 施無畏印, 棍棒, 左手, 髭を生やした人間の頭, 鈎?。その他不明。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 人頭の輪。台座に7頭の野猪。両足の間に展左の女尊。四臂で弓矢を構える。光背上部左右に飛天。チャイトヤを型どった光背。Oḍḍiyāna Mārīci (Donaldson).
- 452 (1) Mārīci  
 (2) Rāmcaṇḍī  
 (3) Stone, 27×16.5 in., 10 c (Donaldson)  
 (4) Donaldson 1995a: Fig. 15  
 (5) 三面八臂。展左。向かって右は猪の顔。右手, 針?, 鈎, 左手, 期剋印と羂索, 弓。その他不明。髮髻冠。頭飾, 首飾り, 臂釧, 腕釧。台座に7頭の野猪。両足の間に御者の女尊。チャイトヤを型どった光背。Aṣṭabhujapīta Mārīci (Donaldson).
- 453 (1) Mārīci  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 31 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LI (B); 森 (喜) 1990: 2.10.22  
 (5) 三面六臂?。展左。左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に3頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 454 (1) Mārīci  
 (2) Ratnagiri, RTR-1, 70  
 (3) Stone, 31 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LIV (A); 森 (喜) 1990: 2.10.23  
 (5) 三面六臂。展左。右手, 矢, 金剛杵, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に7頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 455 (1) Mārīci  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 34 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LIV (B); 森 (喜) 1990: 2.10.24  
 (5) 三面六臂。展左。右手, 金剛杵, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に7頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 456 (1) Mārīci  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 29 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LIV (C); 森 (喜) 1990: 2.10.25  
 (5) 三面六臂。展左。左手, 期剋印, 弓。その他不明。奉献塔の龕中の浮彫。
- 457 (1) Mārīci  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 41.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LIV (D); 森 (喜) 1990: 2.10.26  
 (5) 三面?六臂。展左。右手, 金剛杵, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に数頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 458 (1) Mārīci  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 61 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVI (C); 森 (喜) 1990: 2.10.27  
 (5) 三面六臂。向かって右は野猪の顔。展左。右手, 金剛杵, 矢, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に数頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。

- 459 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 54.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVI (D); 森 (喜) 1990: 2.10.28  
 (5) 三面六臂。向かって右は野猪の顔。展左。右手, 金剛杵, 矢, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に数頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 460 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 68 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVII (A); 森 (喜) 1990: 2.10.29  
 (5) 三面六臂。向かって右は野猪の顔。展左。右手, 金剛杵, 矢, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。奉献塔の龕中の浮彫。
- 461 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 49.5 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVII (B); 森 (喜) 1990: 2.10.30  
 (5) 三面六臂。向かって右は野猪の顔。展左。右手, 金剛杵, 矢, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。奉献塔の龕中の浮彫。
- 462 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 40.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVII (C); 森 (喜) 1990: 2.10.31  
 (5) 三面六臂。展左。左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に数頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 463 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 76.2 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVII (D); 森 (喜) 1990: 2.10.32  
 (5) 三面六臂。展左。右手, 金剛杵,
- 矢, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に数頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 464 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 67.3 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVIII (A); 森 (喜) 1990: 2.10.33  
 (5) 三面六臂。展左。右手, 矢, 左手, 期剋印, 弓。その他不明。台座に数頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 465 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 48.3 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVIII (B); 森 (喜) 1990: 2.10.34  
 (5) 三面八臂。展左。左手, 期剋印, アシューカ樹の花?。その他不明。奉献塔の龕中の浮彫。
- 466 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVIII (C); 森 (喜) 1990: 2.10.35  
 (5) 三面六臂。半跏坐。持物不明。台座に5頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 467 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 77.6 cm  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXVIII (D); 森 (喜) 1990: 2.10.36  
 (5) 三面六臂。半跏坐。右手, 剣, 鉤。その他持物不明。台座に7頭の野猪。奉献塔の龕中の浮彫。
- 468 (1) Mārīcī  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 67.3 cm  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLXVIII (B)  
 (5) 台座部分。7頭の野猪 (あるいは馬) と御者。

ヤムナー

- 469 (1) Yamunā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 19481: Pl. CXII (A); 佐和 1982: 挿図83, 1 図  
 (5) 立像。右手は右脇侍の肩に回す。左手、払子。頭飾、首飾り、臂釧、腕釧。頭頂部欠損。女性脇侍。右脇侍は傘蓋を掲げる。左脇侍は右手で何かを掲げる。僧院入口のパネル。
- 470 (1) Yamunā  
 (2) Udayagiri; 現地ヒンドゥー祠堂  
 (3) Stone  
 (4) [図131]  
 (5) 立像。周囲に人物群。左脇侍は傘蓋を掲げる。表面いちじるしく磨滅。おそらくパトナ博物館所蔵のガンガー [423] と対となる作品。

ヴァジュラヴァーラーヒー

- 471 (1) Vajravārāhī  
 (2) Chauduār, Cuttack  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 59; 森(喜) 1991: 2.1.2  
 (5) 立像。展右。右手、金剛杵、左手、カパーラとカトヴァーンガ。首飾り、臂釧、腕釧。右足元に金剛薩埵坐像。右足元に合掌する帰依者。その上に立像。両足の下には横たわる二人の人物。光背には火炎の文様。光背上部左右に飛天。

ヴァスダーラー

- 472 (1) Vasudhārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 132×83.3 cm  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 147; Mitra 1981:

Pl. CXII (B); 佐和 1982: 5 図; 頼富 1990: 図104; 1991b: 図7; 森(喜) 1991: 2.3.19 [図132~136]

- (5) 立像。右手、与願印、左手、穀物の穂。髪を大きく一つに結う。頭飾、首飾り、臂釧、腕釧。左右に女性脇侍。右脇侍は頭部など欠損。手に何か持つ。左脇侍は右手に払子を持ち、左手を蓮華の上に置く。光背中段左右に立像。いずれも髻を生やし、左手に水瓶を持ったやせた人物。光背上部左右に飛天。

- 473 (1) Vasudhārā  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 2  
 (3) Stone, 64.8 cm, 9 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXIX (A); 森(喜) 1991: 2.3.6  
 (5) 遊戯坐。右手、与願印に宝、左手、穀物の穂。髪を大きく一つに結う。頭飾、首飾り、臂釧、腕釧。光背上部左右に飛天。
- 474 (1) Vasudhārā  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 81  
 (3) Stone, 56×36.8 cm, 9 c 以前 (Mitra)  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXIX (B); 森(喜) 1991: 2.3.7  
 (5) 遊戯坐。右手、与願印に宝、左手、穀物の穂。髪を大きく一つに結う。頭飾、首飾り、臂釧、腕釧、聖紐。光背上部左右に飛天。
- 475 (1) Vasudhārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 8 c (Saraswati), 77.5 cm  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 115; Mitra 1981: Pl. CXXXVII (A); 佐和 1982: 17 図; 森(喜) 1991: 2.3.5; 頼富・下泉 1994: 204  
 (5) 遊戯坐。右手、与願印に宝、左手、穀物の穂。髪を大きく一つに結う。頭飾、首飾り、臂釧、腕釧。光背

- 上部左右に飛天。
- 476 (1) Vasudhārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 55.8 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXIX (C); 森 (喜) 1991: 2.3.10  
(5) 遊戯坐。右手, 与願印, 左手, 穀物の穂?。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 477 (1) Vasudhārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 66.7 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXIX (D); 森 (喜) 1991: 2.3.11  
(5) 遊戯坐。右手, 与願印, 左手, 穀物の穂?。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 478 (1) Vasudhārā  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 79図; 森 (喜) 1991: 2.3.8  
(5) 遊戯坐。右手, 与願印, 左手, 穀物の穂?。

サットヴァヴァジュリー

- 479 (1) Sattvavajrī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 9 c (Mitra), 49.5×34.3 cm  
(4) 佐和 1982: 45図; Mitra 1983: Pl. CCCL (A); 頼富 1990: 図37; 森 (喜) 1991: 2.1.2  
(5) 結跏趺坐。右手, 与願印?, 左手, 正定印。光背上部左右に2体ずつの女性坐像。頭部表面磨滅。耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。

ハーリーティー

- 480 (1) Hārītī  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 71.1×45.7 cm  
(4) Willets 1963: 17; Mitra 1981: Pl. CXX (A), CXXI (A); 佐和 1982:

11図; 頼富 1991b: 図4; 森 (喜) 1991: 2.6.2; 頼富・下泉 1994: 216

- (5) 遊戯坐。右手, 穀物の穂, 左手, 子ども。髪を大きく一つに結う。耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。
- 481 (1) Hārītī  
(2) Lalitagiri  
(3) Stone  
(4) 佐和 1982: 76図; 森 (喜) 1991: 2.6.3  
(5) 遊戯坐。右手, 与願印, 左手, 子ども。表面磨滅。光背上部左右に飛天。

ターラー

遊戯坐

- 482 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 532  
(3) Stone, 11 c (Mitra), 50.3 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XCIV (B); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.3  
(5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い髻。頭飾, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。光背上部左右に飛天。体の右側にも睡蓮。
- 483 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 526  
(3) Stone, 55.3 cm  
(4) Mitra 1981: XCIV (A); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.4  
(5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い髻。頭飾, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。光背上部左右に飛天。台座に帰依者と供物。
- 484 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, Monastery 1  
(3) Stone  
(4) Mitra 1981: CXXX (A)left; 森 (喜) 1992: 1.8.3g.7  
(5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。

- 丸い鬘。頭飾、首飾り、臂釧、聖紐。光背上部左右に飛天。台座に帰依者と供物。
- 485 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, Monastery 1  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: CXXX (A) right; 森 (喜) 1992: 1.8.3g.7  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い鬘。頭飾, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。台座に帰依者と供物。
- 486 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 6  
 (3) Stone, 28.5 cm, 9-10 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1981: CLXXVII (A)  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い鬘。頭飾, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。台座に帰依者と供物。光背上部左右に飛天。
- 487 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, RTR-2, 2234  
 (3) Stone, 8-9 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: CCXXXIII (C); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.9  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。細部不明。
- 488 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, No. 1961/25  
 (3) Stone, 17.1 cm  
 (4) Mitra 1983: CCLXVIII (A); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.10  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。細部不明。
- 489 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, No. RTR-2, 39  
 (3) Stone, 8.5 cm, 10 c 以降 (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: CCLXXXIV (A); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.11  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。
- 490 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, No. 1961/21  
 (3) Stone, 17×10.2 cm  
 (4) Mitra 1983: CCLXII (C); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.13  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。髮髻冠。頭飾, 冠帶, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。
- 491 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, Patna Mus., Acc. No. 6504  
 (3) Stone, 8 c (Gupta), 10-11 c (Mitra), 52 cm  
 (4) Gupta 1965: Pl. XVI; Mitra 1983: CCCXXVI (B); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.14  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い鬘。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。光背向かって左上に飛天。ターラーのマントラの銘文 (Om tāre tuttāre ture svāhā)。
- 492 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 10 c (Mitra), 69.2 cm  
 (4) Mitra 1983: CCCXXXVIII (A); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.15  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。頭部, 左腕欠損。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。台座左右に獅子。
- 493 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 60.3×33 cm, 11 c (Mitra)  
 (4) Mitra 1983: CCCXLIX (A); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.16  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。左右に女尊の脇侍。光背上部左右に飛天。
- 494 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri

- (3) Stone, 28×16.5 cm  
 (4) Mitra 1983: CCCLII (B); 森 (喜) 1992: 1.8.3g.18  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。
- 495 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 55図  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。首飾り, 臂釧, 腕釧。カディラヴァニー・ターラー (佐和)。
- 496 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 63図  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。首飾り, 臂釧, 腕釧。頭部欠損。カディラヴァニー・ターラー (佐和)。
- 497 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 55 cm  
 (4)  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。首飾り, 臂釧, 腕釧。表面磨滅。
- 498 (1) Tārā  
 (2) Bālukeśvara temple  
 (3) Stone, 56 cm  
 (4) Mitra 1978: Pls. 15, 17; 森 (喜) 1992: 1.8.3a.3  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。平たい鬘。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。光背上部左右に飛天。
- 499 (1) Tārā  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1957: Fig. 28; 佐和 1982: 96図; 森 (喜) 1992: 1.8.3g.19  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い鬘。頭飾, 冠帯, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。光背上部左右に定印仏坐像。
- 500 (1) Tārā  
 (2) Bhuvaneshwar; Orissa State Mus.  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1957: Fig. 43; 森 (喜) 1992: 1.8.3h.8  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。丸い鬘。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。光背上部向かって左に飛天。
- 501 (1) Tārā?  
 (2) Bhuvaneshwar; Orissa State Mus.  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 遊戯坐。頭部および両腕欠損。右手与願印?。耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。光背上部左右に植物の葉の文様。
- 502 (1) Tārā?  
 (2) Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 150×82 cm, 6 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図40, No. 25  
 (5) 遊戯坐。四臂。頭部および両腕すべて欠損。右前手与願印?, 左後手, 器を持つ。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。
- 503 (1) Tārā  
 (2) Bhuvaneshwar; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 10 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図38, No. 23  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。
- 504 (1) Tārā  
 (2) Ayodhyā.  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Pl. 68; 頼富 1981: 写真3; 1990: 図12; 森 (喜) 1992: 1.8.3h.9  
 (5) 遊戯坐。右手与願印, 左手睡蓮。

- 丸い髻。頭飾，耳飾り，首飾り，  
臂釧，腕釧，聖紐。体の右側にも  
睡蓮。光背上部左右に飛天。台座  
に帰依者と供物。
- 505 (1) Tārā  
(2)  
(3) Stone  
(4) Willets 1963: 18  
(5) 遊戯坐。右手与願印。細部不明。
- 奉献塔の龕**
- 506 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 584  
(3) Stone, 30.5 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XXIV (A); 森 (喜)  
1992: 1.8.3g.1  
(5) 遊戯坐。右手与願印，左手睡蓮。  
丸い髻。頭飾，首飾り，臂釧，腕  
釧，聖紐。奉献塔の龕中の浮彫。
- 507 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 584  
(3) Stone, 50.17 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. XXXIII (C); 森  
(喜) 1992: 1.8.3g.2  
(5) 遊戯坐。右手与願印，左手睡蓮。  
丸い髻。頭飾，首飾り，臂釧，腕  
釧，聖紐。光背上部左右に飛天。  
奉献塔の龕中の浮彫。
- 508 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 531  
(3) Stone, 26.3 cm  
(4) Mitra 1981: XCV (A); 森 (喜)  
1992: 1.8.3g.5  
(5) 遊戯坐。右手与願印，左手睡蓮。  
髮髻冠?。頭飾，首飾り，臂釧。  
奉献塔の龕中の浮彫。
- 509 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, 1961/74  
(3) Stone, 13.3×6.4 cm  
(4) Mitra 1981: XCV (B); 森 (喜)  
1992: 1.8.3g.6
- (5) 遊戯坐。右手与願印，左手睡蓮。  
頭飾，首飾り，臂釧。奉献塔の龕  
中の浮彫。
- 510 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 71.1 cm (奉献塔全体)  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXIV (B); 森  
(喜) 1992: 1.8.5.1  
(5) 遊戯坐。右手与願印。細部不明。
- 511 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 63.5 cm (奉献塔全体)  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXIV (D); 森  
(喜) 1992: 1.8.5.3  
(5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。  
細部不明。
- 512 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 83.8 cm (奉献塔全体)  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXV (A); 森(喜)  
1992: 1.8.5.4  
(5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮?。
- 513 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 72.4 cm (奉献塔全体)  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXV (B); 森(喜)  
1992: 1.8.5.5  
(5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。
- 514 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri  
(3) Stone, 51.5 cm (奉献塔全体)  
(4) Mitra 1981: Pl. LXXV (C); 森(喜)  
1992: 1.8.5.6  
(5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。
- 515 (1) Tārā  
(2) Ratnagiri, RTR-1, 66  
(3) Stone, 28 cm  
(4) Mitra 1981: Pl. LIII (D); 森 (喜)  
1992: 1.8.5.7  
(5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。  
丸い髻，頭飾，耳飾り，首飾り，

- 臂釧, 条帛。台座に帰依者。
- 516 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 145; 森 (喜) 1992: 1.8.5.8  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧。台座に帰依者。
- 517 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 136; 森 (喜) 1992: 1.8.5.9  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。丸い髻。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 条帛。台座に帰依者。
- 518 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 141  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧。
- 519 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 143  
 (5) 遊戯坐。右手与願印。左手睡蓮。

結跏趺坐

- 520 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri, Acc. No. RTR-1, 402  
 (3) Stone, 56.5 cm × 33.7 cm, 9 c (Ghosh)  
 (4) Ghosh 1980: Ill.18; Mitra 1981: Pl. XCVI (A); 森 (喜) 1991: 2.8.1.1  
 (5) 結跏趺坐。右手与願印。左手睡蓮。平たい髻?。耳飾り, 首飾り, 臂釧。光背上部左右に飛天。Mahatari-Tārā (Mitra).
- 521 (1) Tārā

- (2) Ratnagiri, Acc. No. RTR-1, 402  
 (3) Stone, 104 × 73.7 cm, 10 c (Ghosh)  
 (4) Sahu 1958: Pl. 62; Ghosh 1980: Ill. 19; Mitra 1983: Pl. CCCXXXVII (A); 佐和 1982: 24図; 森 (喜) 1991: 2.8.1.5  
 (5) 結跏趺坐。右手与願印。左手睡蓮?。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 聖紐。光背上部一列に五仏坐像。その左右にも尊像坐像。光背の左右に4体の女尊(ターラー?)立像。台座に獅子, 帰依者, 供物。
- 522 (1) Tārā  
 (2) Mangarpur, Puri Dt.; Orissa State Mus.  
 (3) Stone, 128 cm, 10 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図4, 39, No. 24  
 (5) 結跏趺坐。両腕欠損。髮髻冠。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 聖紐。光背上部に五仏坐像。その左右に女尊像。台座に帰依者, 供物。

単独の立像

- 523 (1) Tārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 71.8 cm (奉獻塔全体)  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXIV (C); 森 (喜) 1992: 1.8.5.2  
 (5) 立像。右手与願印。細部不明。奉獻塔の龕中の浮彫。

脇侍をとこなう立像

- 524 (1) Tārā?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図137]  
 (5) 立像。胸より下のみ残存。右手与願印, 左手植物の茎。向かって左下に女性坐像。
- 525 (1) Tārā  
 (2) Chauduār, Cuttack



- (3) Stone
- (4) Sahu 1958: Fig. 60; 森(喜) 1991: 2.8.2.18
- (5) 立像。右手与願印。左手睡蓮。髮髻冠。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 聖紐。右脇侍, 剣?と楯を持つ女尊。左脇侍, 剣とカペーラを持つ女尊。光背上部左右に飛天。Khadiravaṇī Tārā (Sahu).
- 526 (1) Tārā
- (2) Solampur
- (3) Stone, 12 c (Sahu)
- (4) Sahu 1958: Fig. 45; 森(喜) 1991: 2.8.2.23
- (5) 立像。右手与願印。左手睡蓮。平たい鬘。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧。体の両側に蓮華?。脇侍はいずれも女性立像。
- 八難救済ターラー
- 527 (1) Tārā
- (2) Ratnagiri; Patna Mus. Acc. No. 6508
- (3) Stone, 146 cm, 10-11 c (Ghosh); 9 c (Saraswati), 11 c 以降 (Mitra)
- (4) Sahu 1958: Fig. 32; Saraswati 1977: Pl. 101; Ghosh 1980: Ill. 10; Bénisti 1981: Fig. 146; 佐和 1982: 73図; Mitra 1983: Pl. CCCXXV (B); 頼富 1984: 431; 1990: 図101; 森(喜) 1991: 2.7.1.2, 図3; 頼富・下泉 1984: 190
- (5) 立像。両腕欠損。右手与願印?。左手睡蓮?。平たい鬘。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 聖紐。体の両側に八難の情景。頭上に一列に五仏の坐像。台座に帰依者。
- 528 (1) Tārā
- (2) Ratnagiri
- (3) Stone, 164.5×101.6 cm; 8 c 末 (Ghosh, Mitra); 9 c (Saraswati)
- (4) Willets 1963: 18; Ghosh 1980: Ill. 9; 佐和 1982: 26図; Mitra 1983: Pl. CCCXXXVII (B); 頼富 1984: 429; 1990: 図100; 森(喜) 1991: 2.7.1.1 [図138~146]
- (5) 立像。両腕欠損。右手与願印?。左手睡蓮?。平たい鬘。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 聖紐。体の両側に八難の情景。頭上に一列に五仏の坐像。台座に帰依者。
- カディラヴァニターラー
- 529 (1) Khadiravaṇītārā
- (2) Ratnagiri (Sahu は Udayagiri とする); Patna Mus., Acc. No. 3745
- (3) Stone, 8 c (Mus, Gupta)
- (4) Sahu 1958: Pl. 42; Gupta 1965: Pl. XVII; Ghosh 1980: Ill. 27; 佐和 1982: 72図; 森(喜) 1991: 2.7.2.1, 図4; 頼富・下泉 1994: 186 [図147~149]
- (5) 立像。右手首欠損。右手与願印?。左手睡蓮。平たい鬘。三山頭飾, 冠帯, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐。右脇侍は右手にアショークカ樹?, 左手に睡蓮?を持つ女尊。左脇侍, 右手にカルトリを持つ女尊。光背最上部左右に飛天, その下に仏子を持つ女性立像。光背左右にグリフォンの浮彫。台座に七宝と帰依者。光背の小仏塔の浮彫の中に五仏。左から転法輪印, 与願印?, 施無畏印, 定印, 触地印?。
- ドゥルゴターリニターラー
- 530 (1) Durgottarīṇītārā
- (2) Lalitagiri; Indian Mus., Calcutta, Acc. No. 6956/A24130
- (3) Stone, 5'4"×3', 10 c (Ghosh)
- (4) Sahu 1958: Fig. 38; Ghosh 1980: Ill. 24; 森(喜) 1991: 2.7.3.1, 図8 [図

150~153]

- (5) 遊戯坐。四臂。右手与願印，鈎，左手，睡蓮，羂索。大きな丸い鬘。三山頭飾，耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。光背上部左右に一体ずつの仏坐像と女尊坐像。仏の印は触地印(向かって左)，定印(右)。女尊は向かって左が与願印，右が四臂で数珠などを持つ。台座向かって左に合掌する人物，右に象皮を掲げる四臂の女尊。
- 531 (1) Durgottariṇitārā  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 162.5 cm × 91.5 cm, 9 c (Mitra)  
 (4) Ghosh 1980: Ill. 25; 佐和 1982: 29図; Mitra 1983: Pl. CCLII; 森(喜) 1991: 2.7.3.2; 森(喜) 1990: 2.8.7; 頼富・下泉 1984: 194  
 (5) 立像。四臂。右手与願印，数珠，左手，睡蓮，鈎？，(不明)。大きな丸い鬘。三山頭飾，耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧。

金剛ターラー

- 532 (1) Vajratārā  
 (2) Ratnagiri, Acc. No. RTR-1, 525  
 (3) Stone, 22.8 cm, 9 c (Mitra)  
 (4) Ghosh 1980: Ill. 30; Mitra 1983: Pl. XCVII (A); 森(喜) 1991: 2.7.5.1  
 (5) 結跏趺坐。三面(四面)八臂。右手与願印にほら貝，矢，羂索，金剛杵，左手期剋印，鈎，睡蓮，弓。髮髻冠。頭飾，耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 533 (1) Vajratārā  
 (2) Uttareśvara Temple, Ayodhyā  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 67; 森(喜) 1991: 2.7.5.2; Donaldson 1995b: Fig. 14  
 (5) 結跏趺坐。三面(四面)八臂。右

手ほら貝，矢，羂索，金剛杵，左手期剋印，鈎，睡蓮，弓。髮髻冠。頭飾，耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧。台座に帰依者と供物。光背上部向かって右に飛天，向かって左は欠損。

忿怒尊・財宝神

チャンダマハーローシャナ

- 534 (1) Caṇḍamahāroṣaṇa?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 挿図 3 [図154]  
 (5) 右手，劍を振り上げる。左手不明。展左。表面磨滅。胎藏大日如来像の台座の向かって右の浮彫。
- 535 (1) Caṇḍamahāroṣaṇa  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXIII (A); 森(雅) 1990: 3.1.1  
 (5) 右手，劍を振り上げる。左手，胸の前で羂索。左膝をつき，右膝を立てる。髮髻冠？。奉獻塔の龕中の浮彫。

マハーカーラ

- 536 (1) Mahākāla?  
 (2) Ratnagiri, Patna Mus.  
 (3) Stone, 2 1/2''  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 140; 佐和 1982: 74図; Mitra 1983: Pl. CCCXXVII (B); 森(雅) 1990: 3.3.1, 図 2  
 (5) 三面六臂。炎髮。展右。右手，数珠，劍，(欠損)，左手，カバーラ，(他欠損)。頭飾，丸い耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐，生首の瓔珞。カトヴァーンガを持った人物が左右に 2 人ずつ立つ。光背表面磨滅のため，詳細は不明。

ヤマーンタカ

- 537 (1) Yamāntaka?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 35; Mitra 1983: Pl. CCCXXXIII (B); 佐和 1982: 33図; 森(雅) 1990: 3.4.3; 頼富・下泉 1994: 176  
 (5) 四面六臂?。炎髪。展左。鼓腹。右手, 剣, 左手, 絹索を持ち期剋印。その他の持物は不明。あごひげ。頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 生首の瓔珞。動物の上に立つ。プータダーマラ(頼富・下泉)。Vajrajvālanārka (Sahu), Six-armed image (Mitra).
- 538 (1) Yamāntaka?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Bronze  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXCV (A); 森(雅) 1990: 3.4.2  
 (5) 炎髪。展左。鼓腹。右手, 剣, あるいは鎚, 左手, 絹索を持ち期剋印。あごひげ。三眼。どくろの頭飾, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧。水牛の上に立つ。

サンヴァラ

- 539 (1) Saṃvara  
 (2) Ratnagiri; Patna Mus. Acc. No. 6505  
 (3) Stone, 124.5 cm, 8-9 c (Mus), 8 c (佐和)  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 139; Mitra 1983: Pl. CCCXXVII (A); 佐和 1982: 75図; 頼富 1990: 図38; 1993: 図5; 森(雅) 1990: 3.6.2; 頼富・下泉 1994: 148 [図155~157]  
 (5) 四面十二臂。展右。髪髻冠。羯磨杵と三日月を髪に飾る。主要な二

臂は金剛杵と鈴を持ち, 明妃を抱いて胸の前で交叉。一番上の一對の手は象の皮を背中に広げる。残りの右手はダマル, 斧, カルトリ, 三叉戟, 左手はカトヴァーンガ, カバーラ, 絹索と金剛杵, 梵天の首。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐, 生首の瓔珞。足の下にはそれぞれ人物像(バイラヴァとカーララートリ)。光背上部左右に飛天。台座中央に帰依者。

- 540 (1) Saṃvara  
 (2) National Mus., New Delhi  
 (3) Stone  
 (4) 森(雅) 1990: 3.6.7, 図4; 頼富・下泉 1994: p. 147  
 (5) 四面十二臂。展右。髪髻冠。羯磨杵と三日月を髪に飾る。主要な二臂は金剛杵と鈴を持ち, 明妃を抱いて胸の前で交叉。一番上の一對の手は象の皮を背中に広げる。残りの右手はダマル, 斧, カルトリ, 三叉戟, 左手はカトヴァーンガ, カバーラ, 絹索と金剛杵, 梵天の首。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐, 生首の瓔珞。足の下にはそれぞれ人物像(バイラヴァとカーララートリ)。光背上部左右に飛天。台座中央に蔓草文様と供物?, 向かって左に2人の帰依者。中央の顔は表面磨滅。

ハヤグリーヴァ

- 541 (1) Hayagrīva?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CL (B)  
 (5) 胸から上のみ現存。口ひげを生やす。短軀。丸い耳飾り, 臂釧, 首飾り, 聖紐。

ヘールカ

- 542 (1) Heruka  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 34; Mitra 1983: Pl. CCCXXXVI (B); 佐和 1982: 23図; 森 (雅) 1990: 3.8.4; 頼富 1993: 図1; 頼富・下泉 1994: 口絵, 141  
 (5) 半跏の舞踊形。左手首欠損。右手にカルトリ, 左手にカトヴァーンガとおそらくカパーラ。宝珠型の炎髪。頭飾, 冠帯, 耳飾り, 首飾り, 臂釧, 腕釧, 生首の瓔珞。右手は高く挙げる。足の下には人間。
- 543 (1) Heruka  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXIII (B); 森 (雅) 1990: 3.8.6  
 (5) 半跏の舞踊形。細部不明。左手のカトヴァーンガは確認可能。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 544 (1) Heruka  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 138; 森 (雅) 1990: 3.8.9  
 (5) 半跏の舞踊形。細部不明。左手のカトヴァーンガは確認可能。奉獻塔の龕中の浮彫。

不明

- 545 (1) Guhyasamāja?  
 (2) Prāchi Valley  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 73  
 (5) 三面六臂。結跏趺坐。主要な二臂は金剛杵と鈴を持ち胸の前で交叉。その他の持物は右手に剣, 左手に弓, それ以外は不明。Trailokyavijaya (Sahu).

- 546 (1) Hayagrīva?  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 立像。表面磨滅。両手で何かをかかえる。
- 547 (1) Mahākāla?  
 (2) Udayagiri; 現地ヒンドゥー祠堂  
 (3) Stone  
 (4) [図158]  
 (5) 立像。表面磨滅。右手に三叉戟?。

ジャンバラ

- 548 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Willets 1963: 18; 佐和 1982: 図3; 森 (雅) 1990: 3.11.4  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果。左手マングース (宝を口から吐き出す)。大きく髪をひとつに結う。三山頭飾。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐, 足輪。光背上部左右に壺。台座に7個の壺の浮彫。
- 549 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CXXI (B); 佐和 1982: 図12; 頼富 1991a: 図15; 1991b: 図5; 頼富・下泉 1994: 180; 森 (雅) 1990: 3.11.3  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果。左手マングース (宝を口から吐き出す)。大きく髪をひとつに結う。三山頭飾。首飾り, 臂釧, 腕釧, 聖紐, 足輪。光背上部左右に壺。台座に6個の壺の浮彫。その左右に獅子。
- 550 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 49 cm  
 (4) 佐和 1982: 図4

- (5) 遊戯坐。鼓腹。頭部欠損。右手樹果。左手マングース（宝を口から吐き出す）。首飾り，臂釧，腕釧，聖紐，足輪。右足の下に踏割蓮華と壺の浮彫。台座左右に獅子。
- 551 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone, 8 c (Saraswati)  
 (4) Saraswati 1977: Pl. 145; Mitra 1981: Pl. CLXXV  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果。左手マングース（宝を口から吐き出す）。垂髪。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐，足輪。蓮華を連ねたような瓔珞。台座に3個の壺の浮彫。台座左右に女性帰依者。光背上部左右に飛天。
- 552 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. XXXII (B)  
 (5) 倚坐。鼓腹。右手樹果？，左手マングース？。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐，足輪。台座左右に獅子。
- 553 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. XLVI (C)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果？，左手マングース？。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，足輪。台座に壺の浮彫。
- 554 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXVI (A)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果？，左手マングース（宝を口から吐き出す）。円錐型の髪型。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐，足輪。台座に壺の浮彫。光背上部左右に蓮華。
- 555 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXVI (B)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。表面磨滅。持物不明。円錐型の髪型。首飾り，臂釧，腕釧。
- 556 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXCV (B); 森(雅) 1990: 3.11.13  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。表面磨滅。持物不明。
- 557 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXVI (C)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。頭部欠損。表面磨滅。持物不明。台座に複数個の壺。
- 558 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. CLXXVI (D)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。頭部，左半身欠損。表面磨滅。持物不明。
- 559 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。頭部欠損。表面磨滅。持物不明。台座に複数個の壺。
- 560 (1) Jambhala?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLV (A); 森(雅) 1990: 3.11.24  
 (5) 遊戯坐。女尊と脇侍をとまなう。台座左右に帰依者。表面磨滅のため詳細不明。

- 561 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXLII (B)  
 (5) 頭部のみ残存。左右に壺の浮彫。垂髪。三山頭飾。
- 562 (1) Jambhala?  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCLVII (B)  
 (5) 頭部のみ残存。垂髪。三山頭飾。
- 563 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1983: Pl. CCXV (B); 森(雅) 1990: 3.11.15  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。詳細は不明。建築材の一部。
- 564 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Bénisti 1981: Fig. 150; 森(雅) 1990: 3.11.14  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果，左手不明。垂髪。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。台座に壺と婦依者の浮彫。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 565 (1) Jambhala  
 (2) Ratnagiri  
 (3) Stone  
 (4) Mitra 1981: Pl. LXXIII (C)  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。持物不明。髮髻冠？。台座に壺の浮彫。奉獻塔の龕中の浮彫。
- 566 (1) Jambhala  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図159]  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果，左手マングース(宝を口から吐き出す)。垂髪。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧。台座に壺の浮彫。光背上部左右に飛天。
- 567 (1) Jambhala  
 (2) Lalitagiri  
 (3) Stone  
 (4) 佐和 1982: 124図; 頼富 1991b: 図 6  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果，左手マングース(宝を口から吐き出す)。大きく髪をひとつに結う。垂髪。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧。台座に壺の浮彫。光背上部左右欠損。
- 568 (1) Jambhala  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) [図160]  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果？，左手マングース(宝を口から吐き出す)。大きく髪をひとつに結う。髮髻冠。三山頭飾，丸い耳飾り，首飾り，臂釧，腕釧。台座に壺の浮彫。光背上部左右に飛天。
- 569 (1) Jambhala  
 (2) Udayagiri  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 16  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果，左手は膝の上に置く。垂髪。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧。
- 570 (1) Jambhala  
 (2) Bāripadā  
 (3) Stone  
 (4) Sahu 1958: Fig. 80  
 (5) 遊戯坐。鼓腹。右手樹果，左手マングース？。三山頭飾，首飾り，臂釧，腕釧，聖紐。台座に壺の浮彫。
- 571 (1) Jambhala  
 (2) Khaira  
 (3) Stone, 9 c (Mus)  
 (4) 森 1997a: 図43, No. 28

- (5) 遊戯坐。右手与願印に宝？，左手不明。髮髻冠。耳飾り，首飾り，腕釧。台座に5個の壺の浮彫。光背上部左右にも壺の浮彫。

作例リスト索引

※数字は作例リストの通し番号を示す。

脇侍等尊名

ヴァスダーラー	60
ガネーシャ	415-417
カーララートリ	539, 540
観音	9, 46, 49, 100
虚空蔵	100
金剛華	13
金剛香	13
金剛薩埵	2, 3, 51, 63, 471
金剛手	9, 34, 44, 45, 53, 114
金剛塗香	13
金剛燈	13
地藏	40
除蓋障	6
スダナクマーラ	209, 210, 215, 229
スーチームカ	214, 215, 236
帝釈天	141, 142, 144, 145
ターラー	209, 210, 212-214, 229, 231, 235, 236, 249, 251, 253-259, 261, 264, 272, 379
チャンダマハーローシャナ	46
バイラヴァ	539, 540
八大菩薩	6, 14, 36-39, 100, 104, 115, 116
ハヤグリーヴァ	209, 210, 214, 215, 227, 229, 248, 249, 252-259, 261, 272, 273, 279
普賢	114
仏(坐像)	44, 101, 203, 211, 223-225, 230, 233, 239, 240, 248, 249, 251, 252, 254-259, 278, 354, 390, 418, 429, 499, 521, 522, 530
ブリクティ	209-214, 229, 231,

	235, 236, 251, 253-255, 258, 264, 379
梵天	141, 142, 144, 145
未比定女性	60, 98, 163, 226, 230, 303, 328, 330-332, 335, 339, 350-352, 355, 369-371, 373, 375-380, 423, 430, 442, 469, 472, 479, 524, 526, 529
未比定女尊	20, 54, 257-259, 264, 276, 310, 386, 415, 417, 429, 441, 445, 446, 448, 450-452, 493, 521, 522, 529, 530, 560
未比定男性	354, 355, 371, 380
弥勒	9, 40
文殊	6, 9, 46, 49, 118
ヤマーンタカ	327, 334
蓮華手	34, 44, 45, 53
印・持物	
アショーカ樹の花	445-448, 465, 529
糸	444-446
斧	231, 429, 539, 540
鉤	41, 446, 451, 452, 467, 530-533
合掌	54, 146, 147, 149, 163, 169, 258, 268, 269, 337, 355, 369, 373, 439-441, 471, 530
カトヴァーンガ	471, 536, 539, 540, 542-544
カバーラ	471, 525, 536, 539, 540, 542
カルトリ	529, 539, 540, 542
期剋印	355, 415-418, 438, 444-447, 449, 450, 452-465, 532, 533, 537, 538



剣	46, 289-293, 303, 332, 355, 369, 370, 450, 467, 525, 534-538, 545	睡蓮	36, 37, 49, 226, 231, 249, 251, 254, 256-259, 261, 264, 289, 294, 295, 297-319, 321-325, 327-336, 339, 348-356, 369, 371, 372, 376, 380, 388, 429, 482-533
綱索	46, 251, 252, 254, 255, 259, 264, 270, 271, 334, 354, 416, 429, 444-447, 449, 450, 452, 530, 532, 533, 535, 537-540	施無畏印	125-135, 142, 151-161, 165, 166, 212, 258, 264, 343-345, 451, 529
穀物の穂	472-478, 480	象の皮	530, 539, 540
金剛杵	36, 37, 41, 348-368, 429, 438, 442, 444, 447-449, 454, 455, 457-461, 463, 471, 532, 533, 539, 540, 545	触地印	21-96, 212, 215, 223, 225, 239, 252, 254, 258, 264, 280, 331, 338, 348, 354, 529, 530
金剛鈴	41, 357-368, 539, 540, 545	ダマル	539, 540
三叉戟	257, 450, 539, 540, 547	智拳印	10, 12, 13, 212
三蕾	36, 37	転法輪印	9-20, 162, 215, 258, 259, 264, 294-302, 346, 347, 441, 529
樹果	548-554, 564, 566-570	鉢	429
数珠	226, 231, 233, 234, 236, 238-243, 245-260, 263, 264, 268, 269, 354, 379, 398, 424-426, 429, 431-437, 442, 443, 530, 531, 536	針	444-446, 452
定印	1-8, 44, 101, 105-124, 212, 215, 230, 244, 251, 252, 254, 258, 264, 310, 331, 424-426, 429-437, 479, 499, 529, 530	宝珠	36, 37, 371, 372
植物	36, 37, 50, 224, 343, 352, 373-375, 399, 501, 524	払子	11, 101, 118, 141, 142, 144, 145, 166, 169, 223, 230, 330, 331, 348, 352, 355, 429, 442, 469, 472, 529,
水瓶	226, 231, 233, 234, 236, 239, 242, 245-250, 254-256, 258-260, 346, 354, 379, 426, 427, 433, 437, 443, 472	ほら貝	429, 532, 533
		梵夾	36, 37, 49, 264, 290-295, 297-299, 302, 304-319, 321-323, 325, 327, 329, 333, 355, 388, 429, 430
		梵天の首	539, 540
		マングース	548-554, 566-568, 570
		未敷蓮華	226, 231, 253, 256-259, 261, 264-266, 272
		矢	41, 419, 429, 438,

	445-448, 450, 451, 454, 458-461, 463, 464, 532, 533		521, 522, 527-529, 533, 539, 540, 551, 560, 564
弓	41, 419-422, 429, 438, 444, 445, 447, 448, 450-464, 532, 533, 545	クッション	69
与願印	44, 50, 97-104, 141, 144-150, 152-156, 159, 161, 163, 165, 167, 195-197, 199-264, 272, 280, 303-318, 324-328, 330, 335, 340-342, 352, 354, 356, 369-371, 373-377, 379, 380, 400, 407, 418-422, 429-431, 441, 442, 472-479, 481-532	供物	22, 25, 31, 37, 39, 45, 46, 48, 54, 56, 61, 63, 66, 67, 85, 87, 105, 116, 230, 304, 353, 368, 424, 429, 430, 432, 441, 483-486, 504, 521, 522, 533, 540
龍華	37, 338-346	グリフォン	33, 47, 56, 61, 62, 529
蓮華	36, 37, 49, 195-230, 232-252, 254-260, 263-266, 268-270, 274, 289, 293, 330, 369-371, 376, 377, 379, 393, 411, 414, 424, 429, 432, 439-441, 450, 472, 526	傘蓋	44, 45, 109, 110, 115, 141, 142, 144, 145, 342, 415-417, 423, 469, 470
裝飾モチーフ等		山岳表現	212-214
馬	47, 56, 61, 62, 444, 468	獅子	5, 8, 35, 44, 47-49, 52, 53, 56, 60, 61, 63-65, 69, 84, 98, 115, 202, 204, 242, 296, 302, 352, 492, 521, 549, 550, 552
帰依者	2, 7, 10, 12, 31, 33, 37-39, 41, 45, 46, 48, 49, 52, 54, 56, 62, 63, 65, 66, 68, 84, 105, 116, 141, 146-149, 152-156, 158, 165, 195, 204, 212-214, 230, 240, 263, 358, 359, 375, 377, 418, 424, 429, 430, 432, 441, 444, 471, 483-486, 504, 515-517,	七宝	212, 213, 441, 529
		樹木	9, 39, 46, 53-65, 98, 447
		人物	27, 33, 47, 55, 56, 61, 62, 78, 107, 215, 227, 231, 246, 258, 262-264, 276, 302, 470, 472, 530, 536, 539, 540
		水牛	334, 538
		象	8, 56, 58
		壺	548-551, 553, 554, 557, 559, 561, 564, 565-568, 571
		ナーガ(龍)	6, 40, 53, 100, 114, 230, 330
		二鹿	9-12, 14, 20, 127, 128, 130-134

飛天 4-6, 9, 11, 12, 20, 36, 40, 45-49, 51, 54-56, 58, 60, 62, 63, 65-75, 85, 87, 98-101, 105, 114, 118, 136, 141, 163, 195, 199, 202, 204, 207, 209, 210, 226, 227, 229, 230, 241, 250, 262, 263, 275, 295, 304, 308, 328-330, 333, 335, 339, 351-353, 355, 360, 369-373, 375-377, 381, 382, 391, 393, 415, 424, 428, 441, 442, 444, 451, 471-475, 481-484, 486, 491, 493, 498, 500, 504, 507, 520, 525, 529, 533, 539, 540, 551, 566, 568

仏塔 (チャイトヤ) 24, 47, 52, 57, 61, 340, 359, 445, 448, 451, 452, 529

蛇 109-111, 115, 257, 355, 429

法輪 9-12, 14, 20, 112, 127, 128, 130-134

マーラ 47, 54, 415

マーラの娘 60-62

水鳥 52, 56, 62, 136, 423

銘文 21, 54, 105, 107, 125, 228, 236, 258, 353, 358, 381, 446, 491

野猪 445-455, 457-464, 466-468

蓮華 205, 289, 331, 346, 368, 450, 554

地名 (ラトナギリ, ラリタギリ, ウダヤギリを除く)

Astaraṅga 458

Ayodhyā 229, 329, 446, 504, 533

Baleshwar (Balasore) 347, 349

Baneswaranasi (Bāṇeśvaranāsi) 75, 214, 440

Baṇiā Shāhī 431

Bāripadā 570

Baud 73, 243, 342

Bhuvaneswar (Bhuvaneśvar) 16, 231, 232, 284, 430, 500, 501, 503

Choudwar (Chauduār) 210, 213, 441, 471, 525

Dharmasala 263

Kendra (Kendrāparā) 335, 445

Khadipada 15, 32, 349

Khaira 74, 571

Khiching 39, 64, 65, 289, 447

Mangarpur 522

Māricipur 451

Narasinghapur 33

Nathmara 119

Odisoandeigoda 450

Prāchi Valley 545

Rāmcaṇḍī 452

Sirpur 34, 35

Solampur (Salempur) 76, 358, 359, 526

Udlā 449

Vajragiri 208, 215, 285, 286, 295, 308, 355, 394, 443